金沢工業大学　御中

令和元年度　授業調査　報告書

2020.6.15

有限会社　アイ・ポイント

INDEX

＜1＞本調査の全体像	2
＜2＞基本的な分析	7
＜3＞学年別の分析	16
＜4＞学部・学科別の分析	22
＜5＞科目区分別の分析	32
＜6＞同一学生群の分析	38
＜7＞授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析	44
＜8＞全体のまとめ	49

＜1＞本調査の全体像

＜1-1＞全体概略

1）調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

- 本調査は金沢工業大学（以下、KIT）の学生から1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、KIT全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 平成17年度に質問項目を変更しており、今回が15年目となるため、15年間の時系列比較を行って学生の実態がどのように変わっているかを確かめている。（調査開始は平成14年度）

2）調査の概略

今回の調査の概略は下記の通り。

項目	内容
有効回答数	有効回答数　88,001件（1年次生：31,272件、2年次生：32,299件、3年次生：23,300件、4年次生：1,130件
年別回答数推移	
対象科目	514科目
実施方法	• 実施期間：各学期の各授業科目の最終日に実施した。 • 実施方法：記名式。科目担当教員が授業アンケートを配付、受講学生が回収し大学に提出した。 • 回答用紙はOMR形式とし、回収後即座に読み込み処理を行った。
調査主体	学校法人　金沢工業大学
集計	有限会社　アイ・ポイント

年度	春学期（夏期特別含む）	秋学期	冬学期	全回答数	調査票
平成17年度	36,766	33,361	30,653	100,780	新調査票
平成18年度	36,518	33,803	31,734	102,055	
平成19年度	35,723	33,919	32,275	101,917	
平成20年度	37,693	34,103	32,698	104,494	

年度	前期	後期	全回答数	調査票
平成21年度	42,446	43,962	86,408	新調査票
平成22年度	48,541	48,175	96,716	
平成23年度	53,166	49,870	103,036	
平成24年度	47,317	46,666	93,983	
平成25年度	47,317	45,003	92,320	
平成26年度	45,014	50,767	95,781	
平成27年度	48,882	43,421	92,303	
平成28年度	47,946	41,113	89,059	
平成29年度	46,988	39,594	86,582	
平成30年度	47,659	40,416	88,075	
令和元年度	**41,011**	**46,990**	**88,001**	

3）以前との設問の比較

	旧アンケート内容（平成15～16年度、一部は平成14年度から）
A	この科目は興味を持って受講することができましたか。
B	1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか。
C	授業が分からない時、オフィスアワー（OH）は有効でしたか。
D	授業の分からない点はオフィスアワー（OH）を利用する以外に、どのような行動を取りましたか。
E	学習支援計画書の記載内容は理解できましたか。
F	教科書・指導書の内容は理解できましたか。
G	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。
H	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。
I	自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか。
J	授業の理解を深めるために、最も多く利用した場所はどこですか。
K	あなたはこの科目に満足していますか。

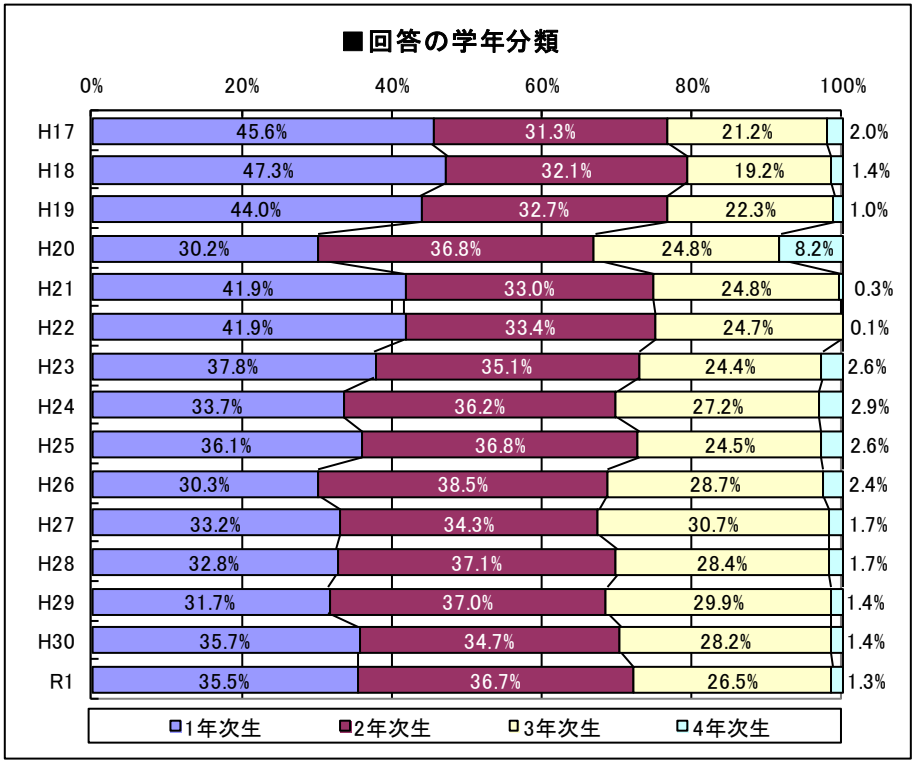
	新アンケート内容（平成17年度以降）	場面	内容
A	受講前、この科目に興味はありましたか。	受講前	学生の姿勢
B	最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか。	受講当初	授業支援
C	授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか。	受講中	学生の姿勢
D	1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。 **※平成27年度の後期より選択肢を変更している。**	受講中	学生の姿勢
E	教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか。	受講中	授業支援
F	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。	受講中	授業支援
G	授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか。	受講中	授業内容
H	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。	受講中	授業内容
I	授業内容をよく理解するための、学習相談（オフィスアワー、チューターなど）は有効でしたか。	受講中	授業支援
J	授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか。	受講中	教員の姿勢
K	授業を終えて、あなたはこの科目に満足していますか。	受講後	総合満足度

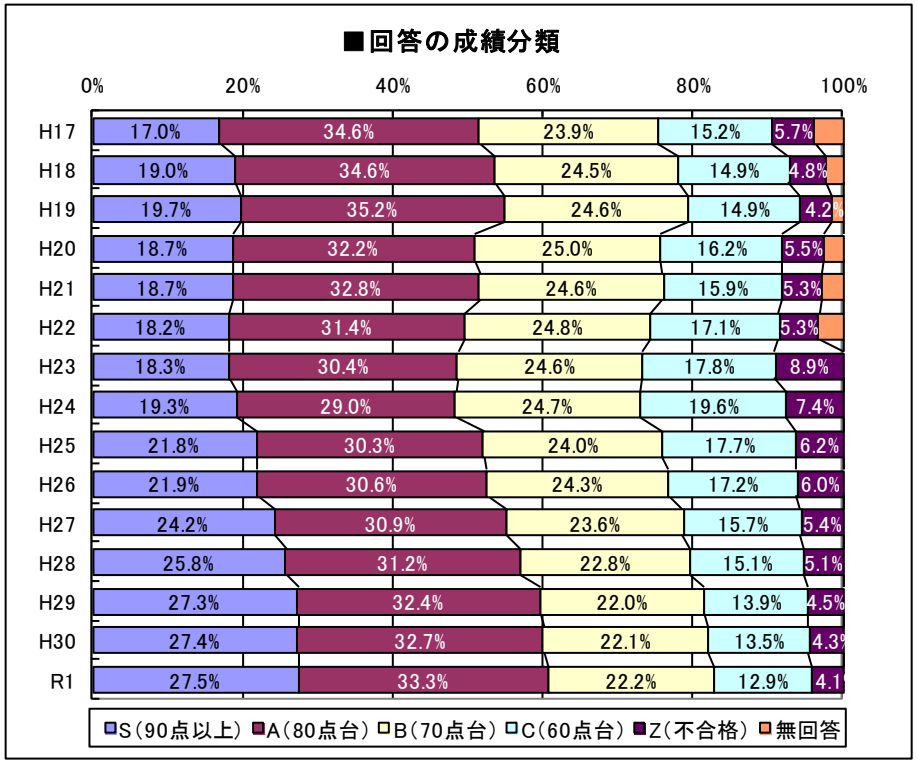
4）集計に関して

- 平成17年度に質問の見直しを行っているため、一部の設問では以前との比較は行っていない。
- 新アンケートの「D」「F」「H」の設問は平成14年度、「K」の設問は平成15年度より内容が同じなのですべての期間に渡って比較ができるが、それら以外の設問は変更後の平成17以降で比較を行った。
- 平成27年度の後期より、設問D（1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。）の選択肢を変更している。これまでは「1．2時間以上、2．1～2時間、3．1時間程度、4．30分程度、5．学習は特にしなかった」の5択であったが、後期からは「1．3時間以上、2．2～3時間、3．1～2時間、4．1時間程度、5．30分程度、6．学習は特にしなかった」の6択とした。これは2時間以上を選択する学生の実態を、より詳細に分析するための変更となる。
- 報告書内のデータの「集計値」や「合計値」は小数点第1位までの表示となっているが、これは小数点第2位を四捨五入したものとなっている。「肯定的な意見の合計値」なども、このルールに従っているため、「集計値」と「合計値」の四捨五入の判断が異なり、最大で0.1の差となっているケースもあるが、これは誤差として、そのままとしている。

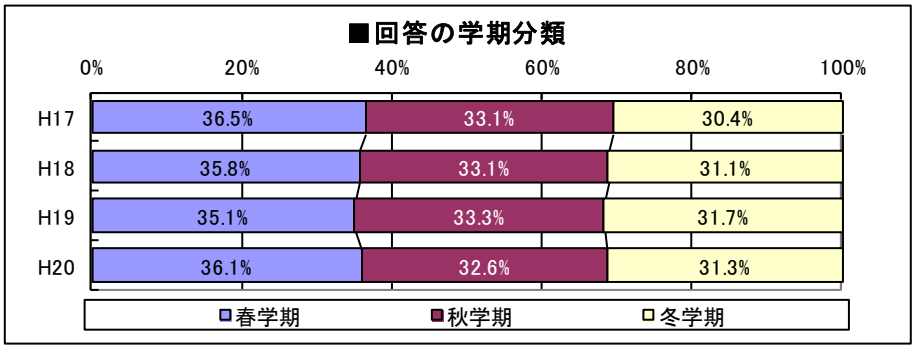
＜1-2＞回答者の基本属性

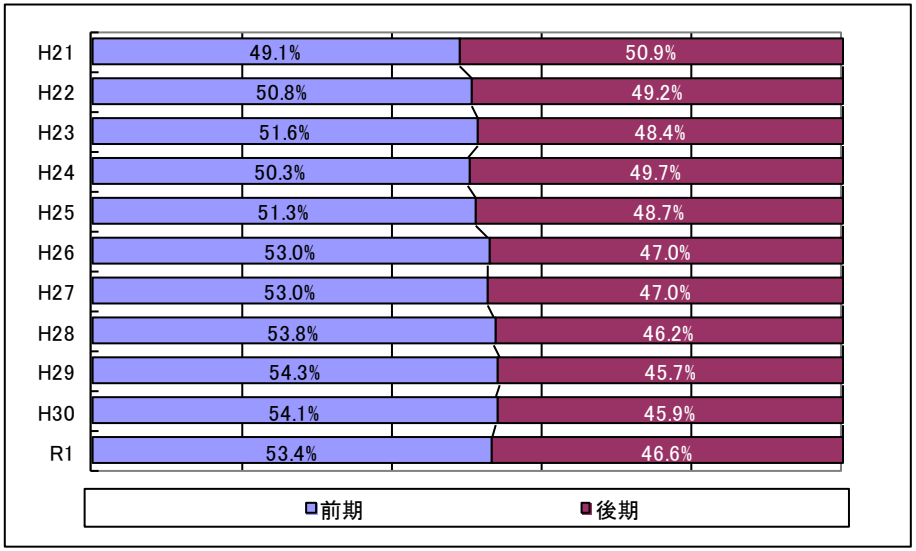
- 回答の割合を学年別に見ると、「1年次生」が35.5%、「2年次生」が36.7%、「3年次生」が26.5%、「4年次生」は1.3%であった。
- 成績で見ると、「S」は増加傾向が続いて過去最高の27.5%となり、「A」が33.3%、「B」が22.2%、「C」が12.9%、「Z」が4.1%で、差はわずかではあるが「C」と「Z」が過去最低となった。

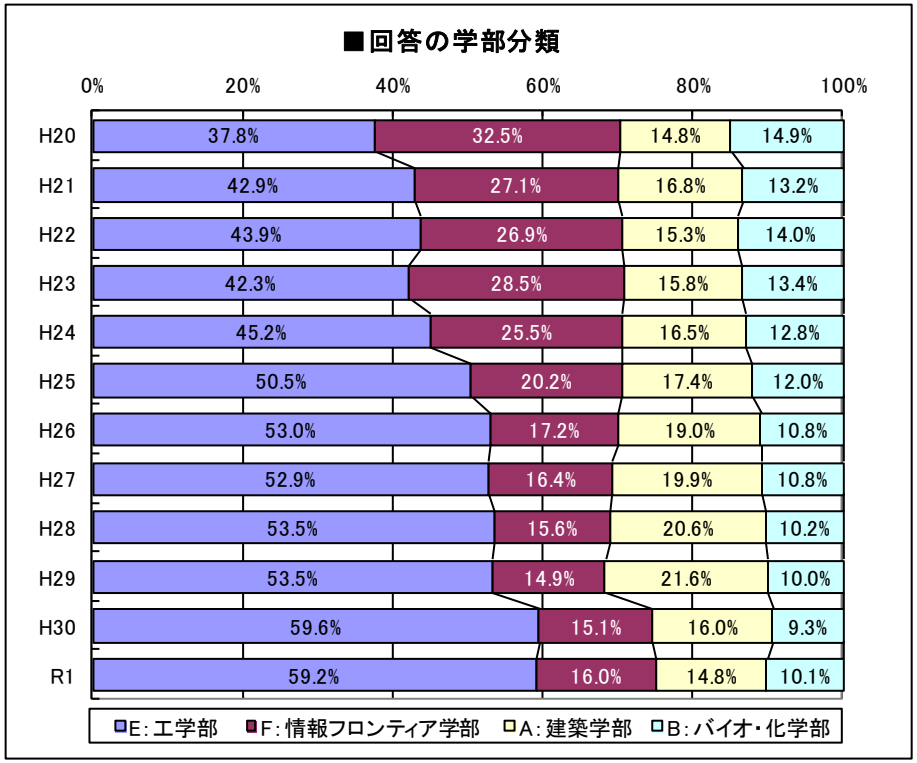




- 2期制となったH21年以降で学期ごとの回答数を比較すると、「前期」は53.4%、「後期」は46.6%でほぼ横這いであった。
- 学部・学科構成はH29まで4学部14学科であったが、H30以降は4学部12学科となっている。学部・学科構成の前後で学部構成には大きな変化がなかったため、同じ4学部の構成で比較をしている。
- 上記の通り、学部・学科構成の変更があったためH30に構成比に変化があったが、今回は「E:工学部」が59.2%、「F:情報フロンティア学部」が16.0%、「A:建築学部」が14.8%、「B:バイオ・化学部」が10.1%となっており、H30とほぼ変わっていなかった。







※H30に4学部14学科から4学部12学科に変わり、各学部に含まれる学科が異なっているため、学部ごとの構成比にも大きな変化が出ている。

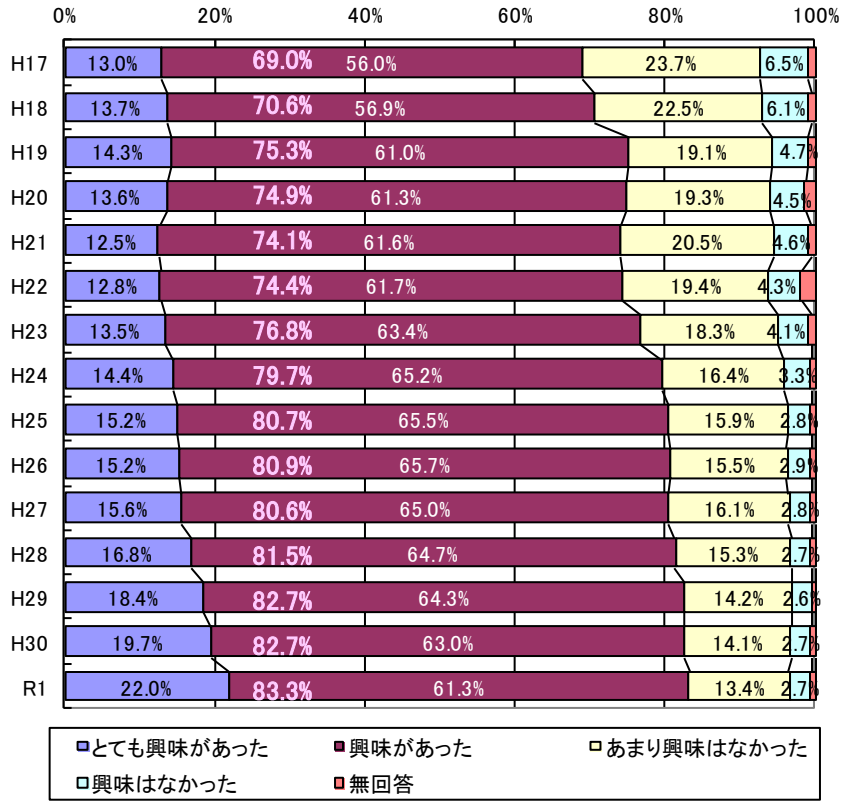
＜2＞基本的な分析

＜2-1＞全項目の基本集計と経年変化

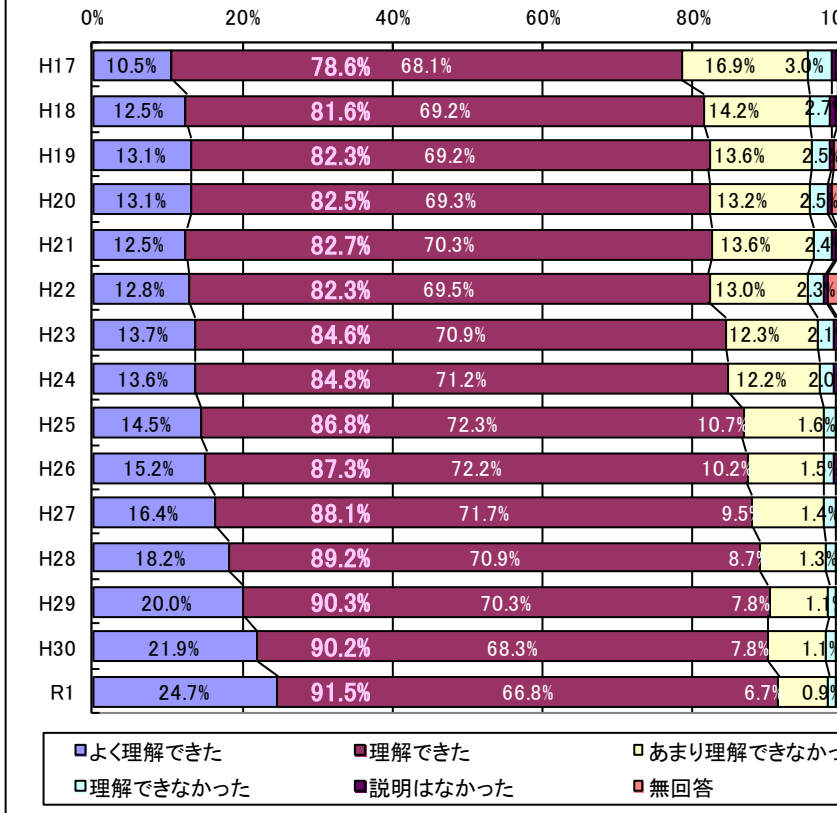
- 単純集計の経年変化のグラフでは、肯定的な意見の合計をピンク色の文字で示しており、「無回答」の数値は表示していない。また、下記の注意書きにあるように、合計値には誤差が含まれる場合もある。
- 「A：事前の興味」では「とても興味があった」が22.0％となり、前回を2.3ポイント上回って過去最高となった。そして、「興味があった」が61.3％であり、合わせると肯定的な意見は83.3％で、前回を0.6ポイント上回ってこちらも過去最高となっていた。
- 「B：事前の内容理解（学習支援計画書）」では、「よく理解できた」は増加傾向が続いて過去最高の24.7％となり、「理解できた」の66.8％を合わせると91.5％と、これも過去最高であった。

※報告書内のデータの「集計値」や「合計値」は小数点第1位までの表示となっているが、これは小数点第2位を四捨五入したものとなっている。「肯定的な意見の合計値」なども、このルールに従っているため、「集計値」と「合計値」の四捨五入の判断が異なり、最大で0.1の差となっているケースもあるが、これは誤差として、そのままとしている。

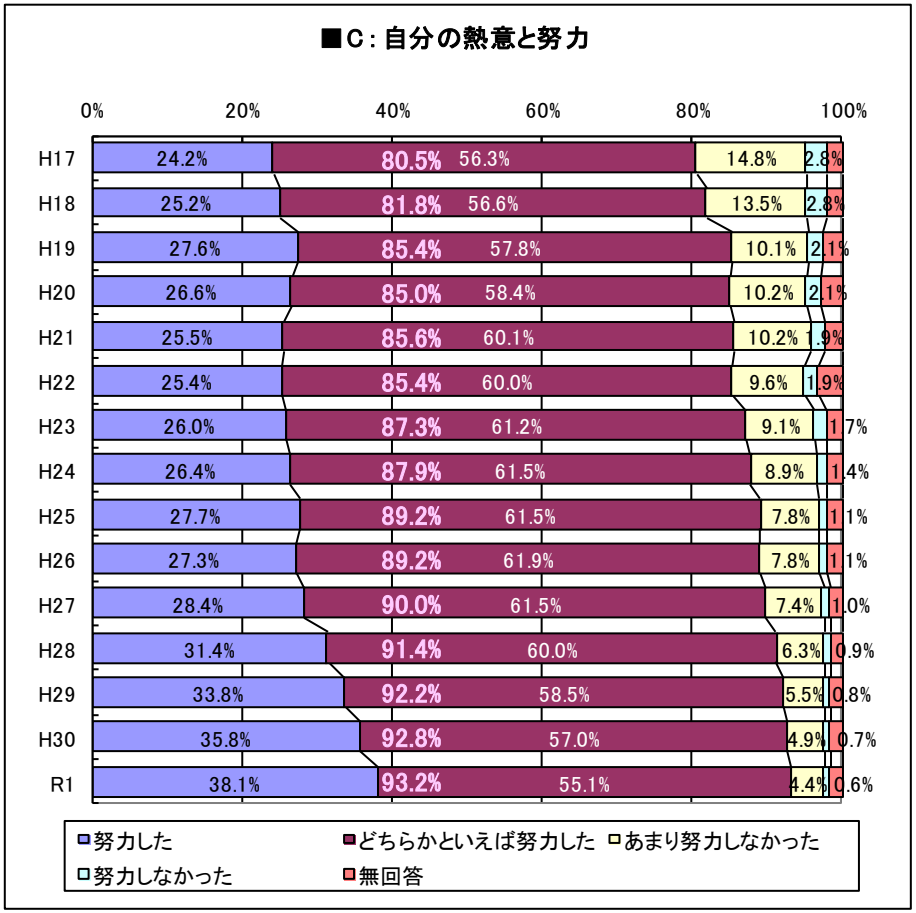
■A：事前の興味



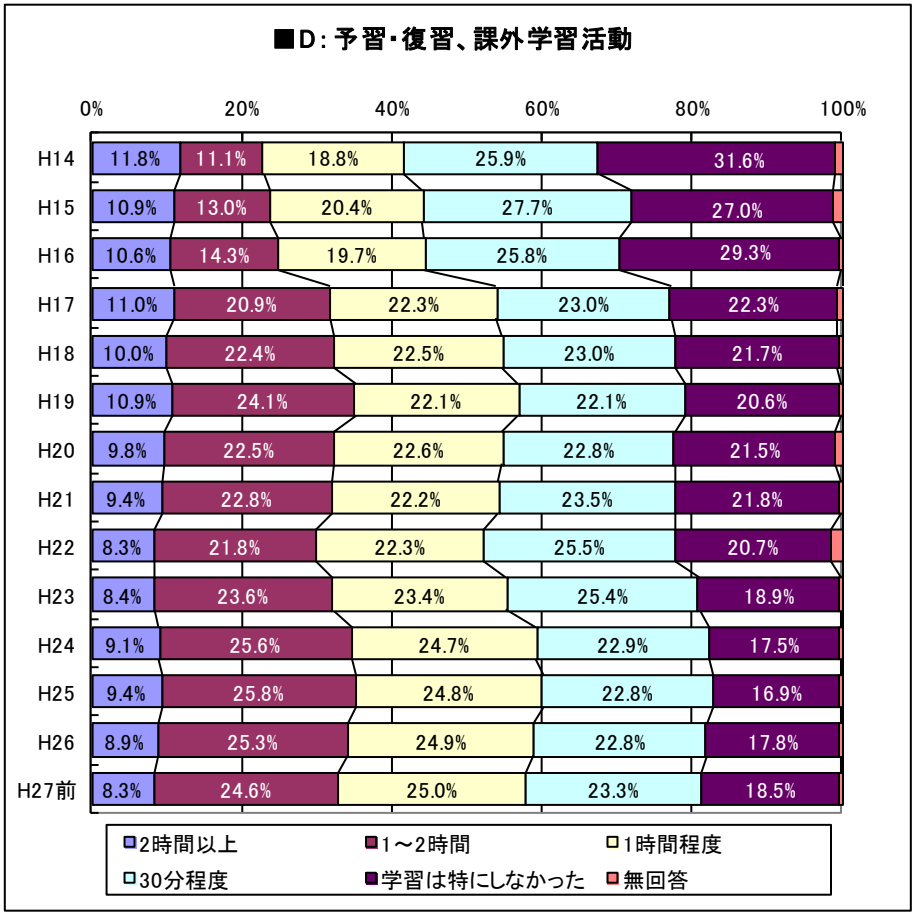
■B：事前の内容理解（学習支援計画書）

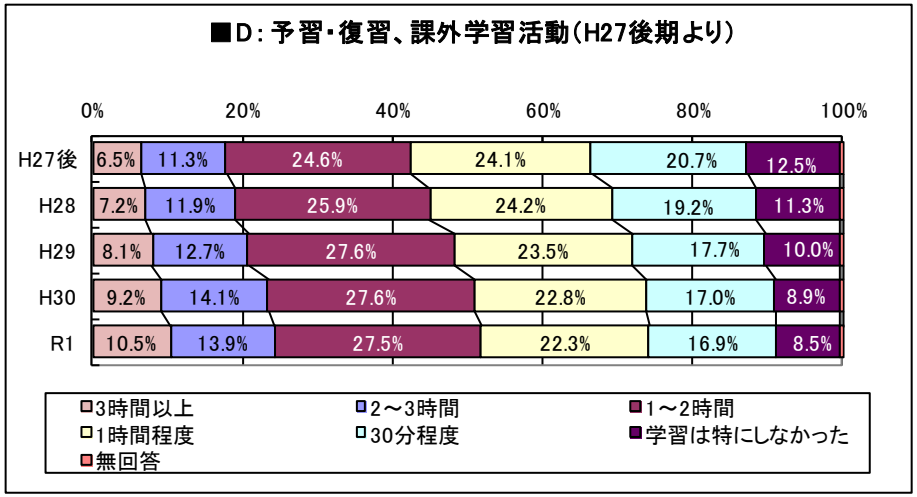


● 「C：自分の熱意と努力」の質問文は「授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか？」というものであるが、「努力した」が38.1％で前回を2.3ポイント上回って過去最高となった。そして、「どちらかといえば努力した」が55.1％で、肯定的な意見の合計も過去最高の93.2％となり、継続的な増加傾向が続いていた。



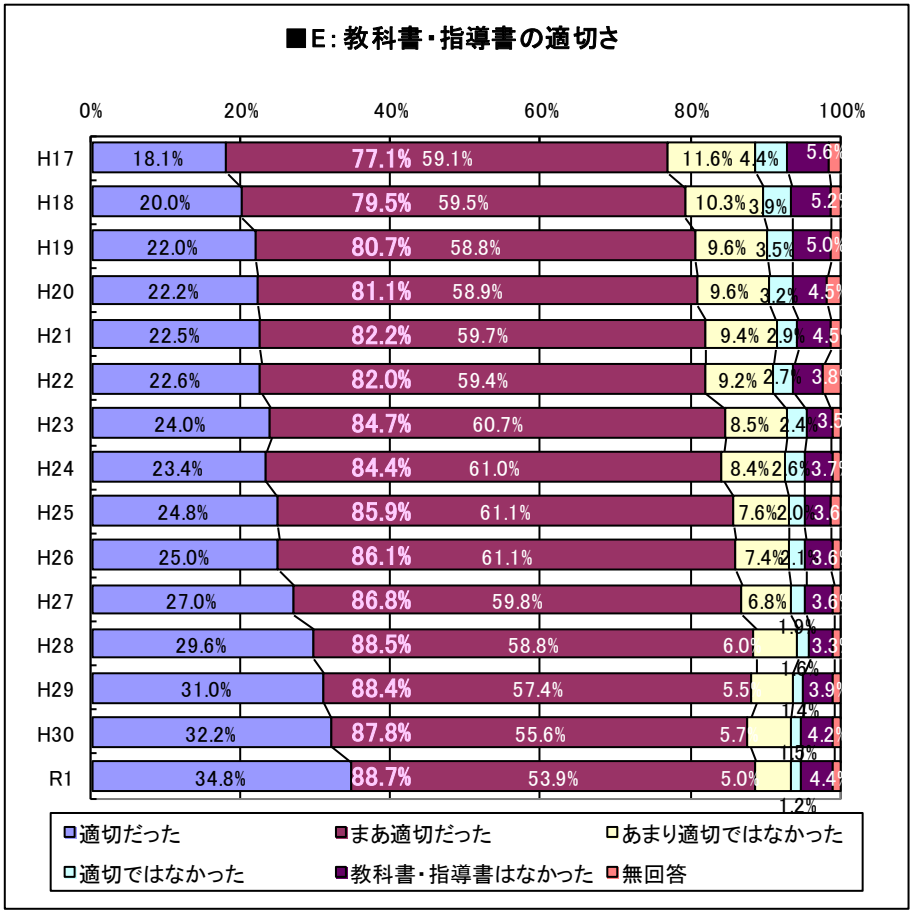
- 「D：予習・復習、課外学習活動」は「1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか？」という質問であるが、H27後期（H27後）以降は選択肢を変更したため、別のグラフで比較をしている。
- 時間の長いものから順に見ると、「3時間以上」が10.5%、「2～3時間」が13.9%、「1～2時間」が27.5%、「1時間程度」が22.3%、「30分程度」が16.9%、「学習は特にしなかった」は8.5%であった。
- 以前と比較すると、「3時間以上」が過去最高となり、わずかな差ではあるが「1時間程度」と「30分程度」が過去最低となっていた。また、「学習は特にしなかった」も過去最低となって全体としては学習時間は長くなっており、学習をしない学生は減少傾向が続いていると言える。
- 選択肢が変更となるH27以前と比較しても、「学習は特にしなかった」「30分程度」は過去最低であり、長期的に見ても学習時間は長くなってきていると言える。

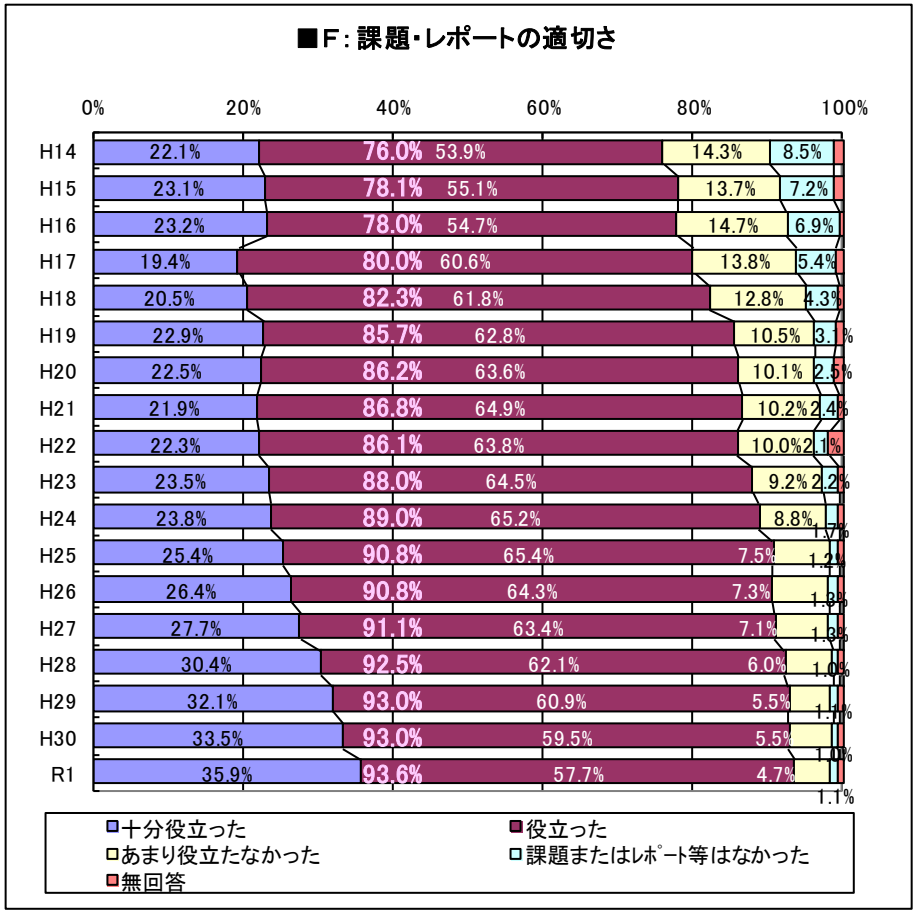




※H16までの設問文は「1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか」であった。
※H27後期から選択肢が変わったが、設問文は変わっていない。

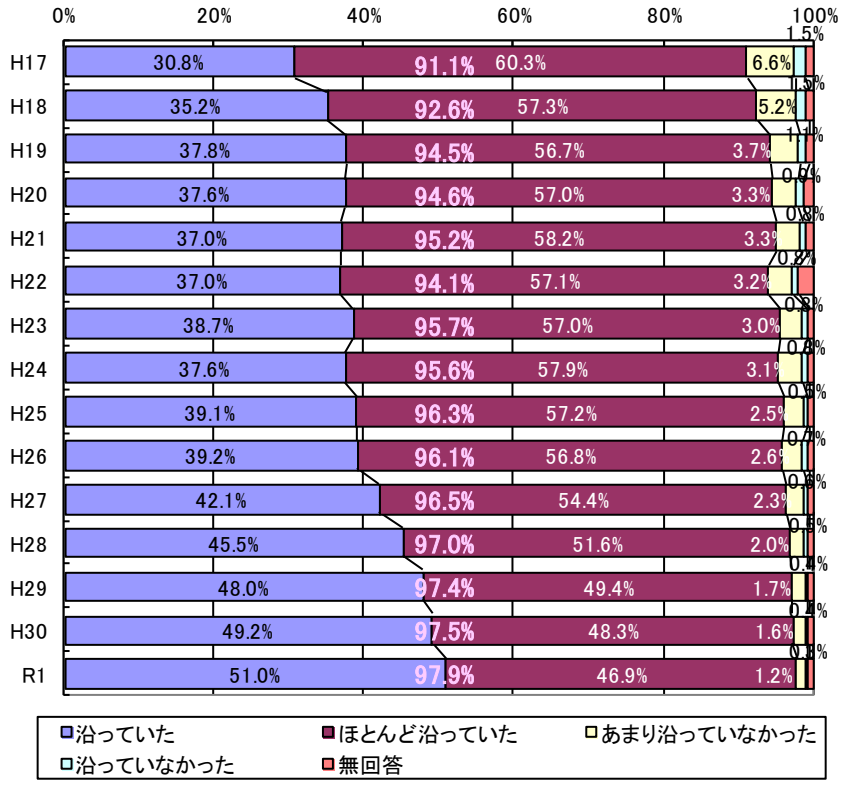
- 「E：教科書・指導書の適切さ」は「教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか？」という質問であるが、「適切だった」は34.8%で過去最高となり、「まあ適切だった」の53.9%を加えた88.7%も過去最高となった。例外はあるものの、「教科書・指導書」の評価向上は継続していた。
- 「F：課題・レポートの適切さ」は「課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるために役立ちましたか？」という質問であるが、「十分役立った」は前回を2.4ポイント上回って過去最高となり、「役立った」の57.7%を加えた肯定的な意見は、ほぼ全員に近い93.6%となっていた。これも過去最高の評価であり、継続的な評価向上が続いていた。



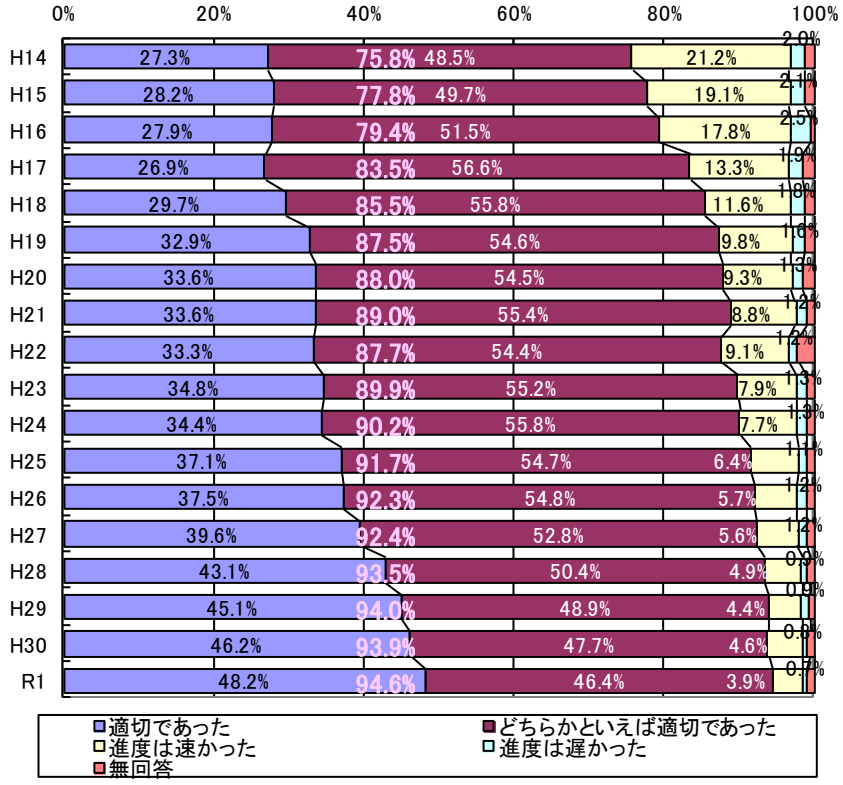


- 「G:学習支援計画書との一致」は「授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか？」という質問であるが、「沿っていた」は51.0%で過去最高であった。そして、「ほとんど沿っていた」の46.9%を加えた97.9%も過去最高で、ほとんど全員が肯定的な意見であった。
- 「H:授業の進度の適切さ」は「授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか？」という質問であるが、「適切であった」は前回を2.0ポイント上回って過去最高となり、「どちらかといえば適切であった」の46.4%を加えた94.6%も過去最高で、継続的に評価の向上が続いていた。

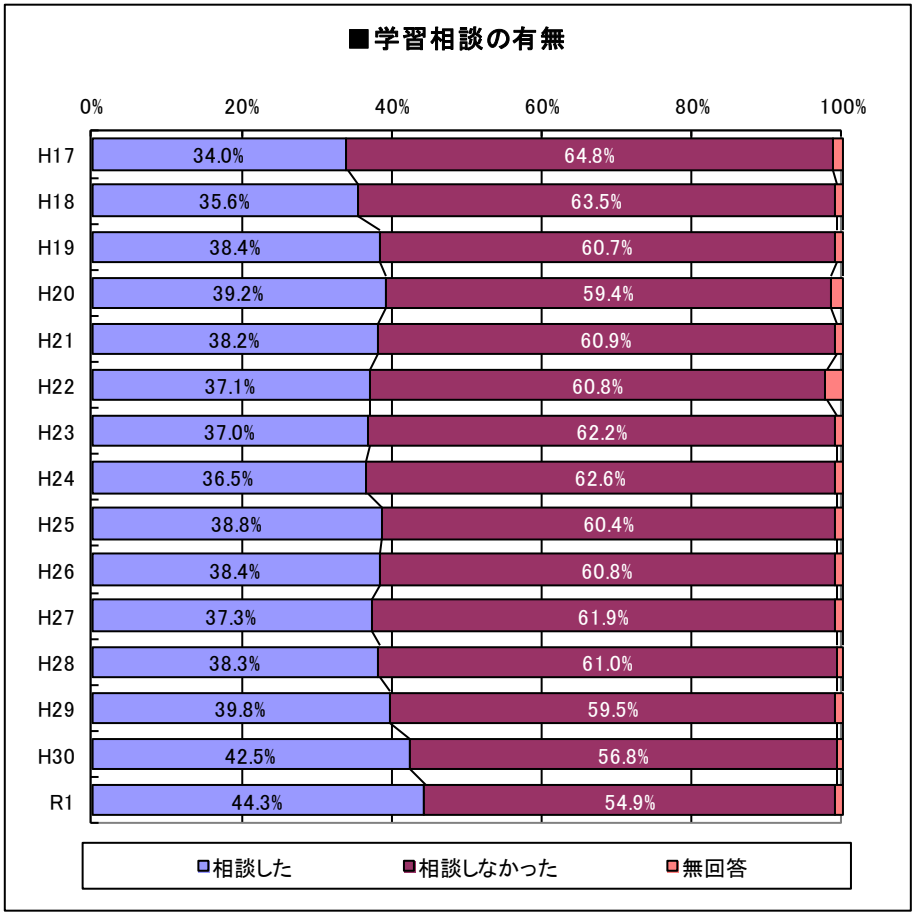
■G:学習支援計画書との一致

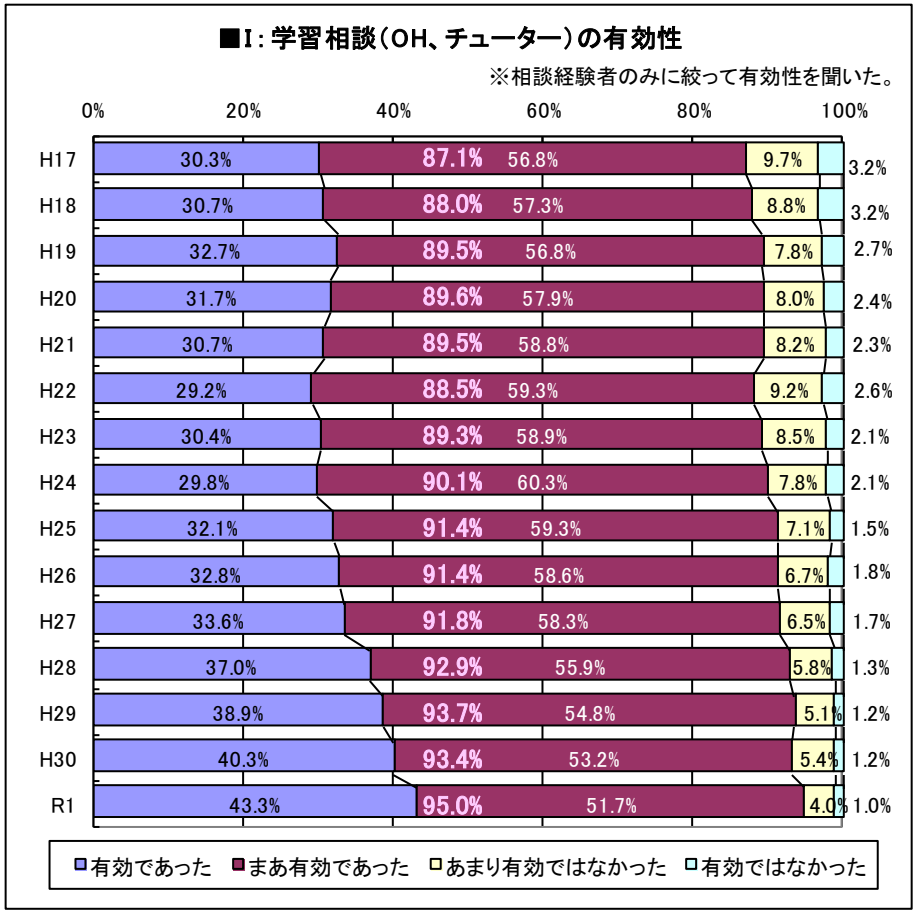


■H:授業の進度の適切さ

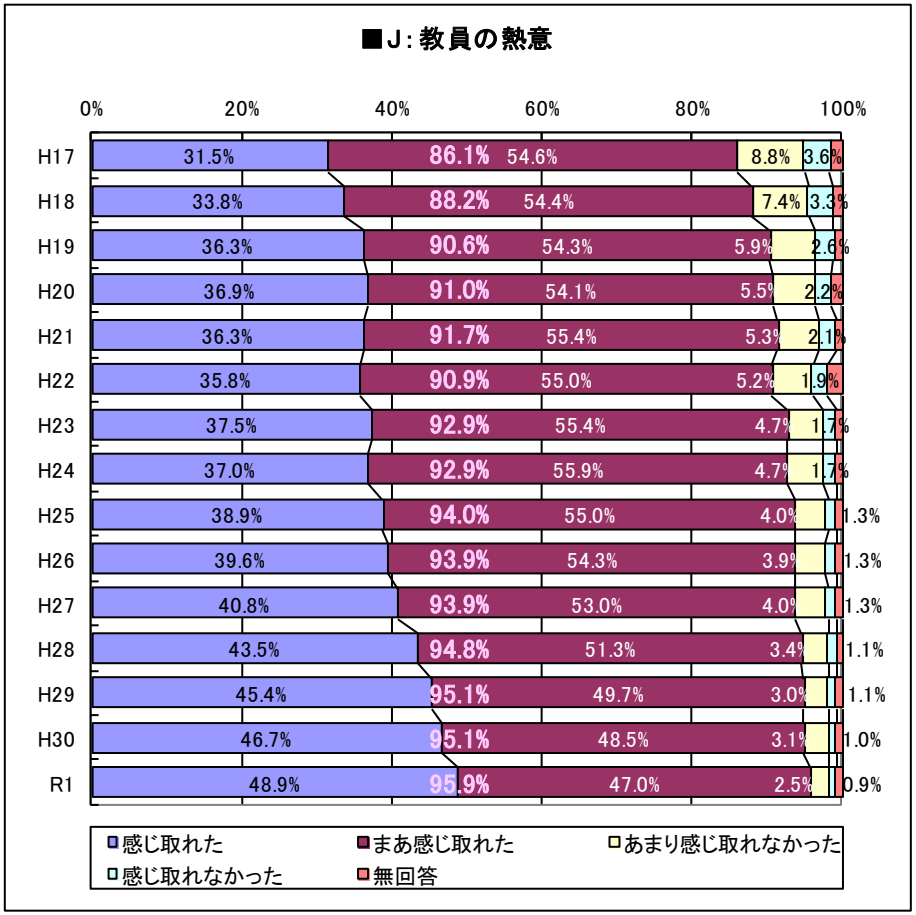


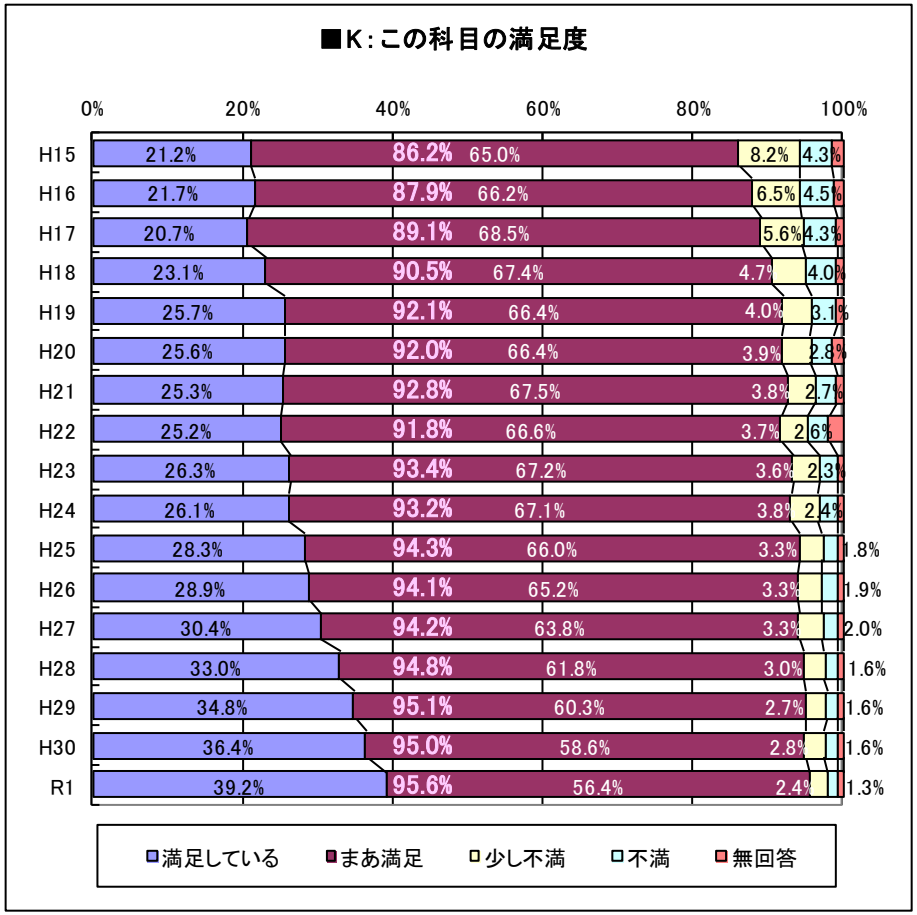
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」は「授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか？」という問いであり、「有効であった」～「有効ではなかった」という4段階の評価と、「相談しなかった」という5つの選択肢で聞いている。
- 4段階の評価で回答した学生を「相談経験者」として合算し、「学習相談の有無」を見たところ、「相談した」が44.3%で前回を1.8ポイント上回り過去最高となった。一方、「相談しなかった」は54.9%であった。
- 相談経験者に絞って評価を集計したところ、「有効であった」が43.3%で前回を3.0ポイント上回って過去最高となっていた。そして、「まあ有効であった」が51.7%であり、肯定的な意見の合計の95.0%も過去最高となっていた。





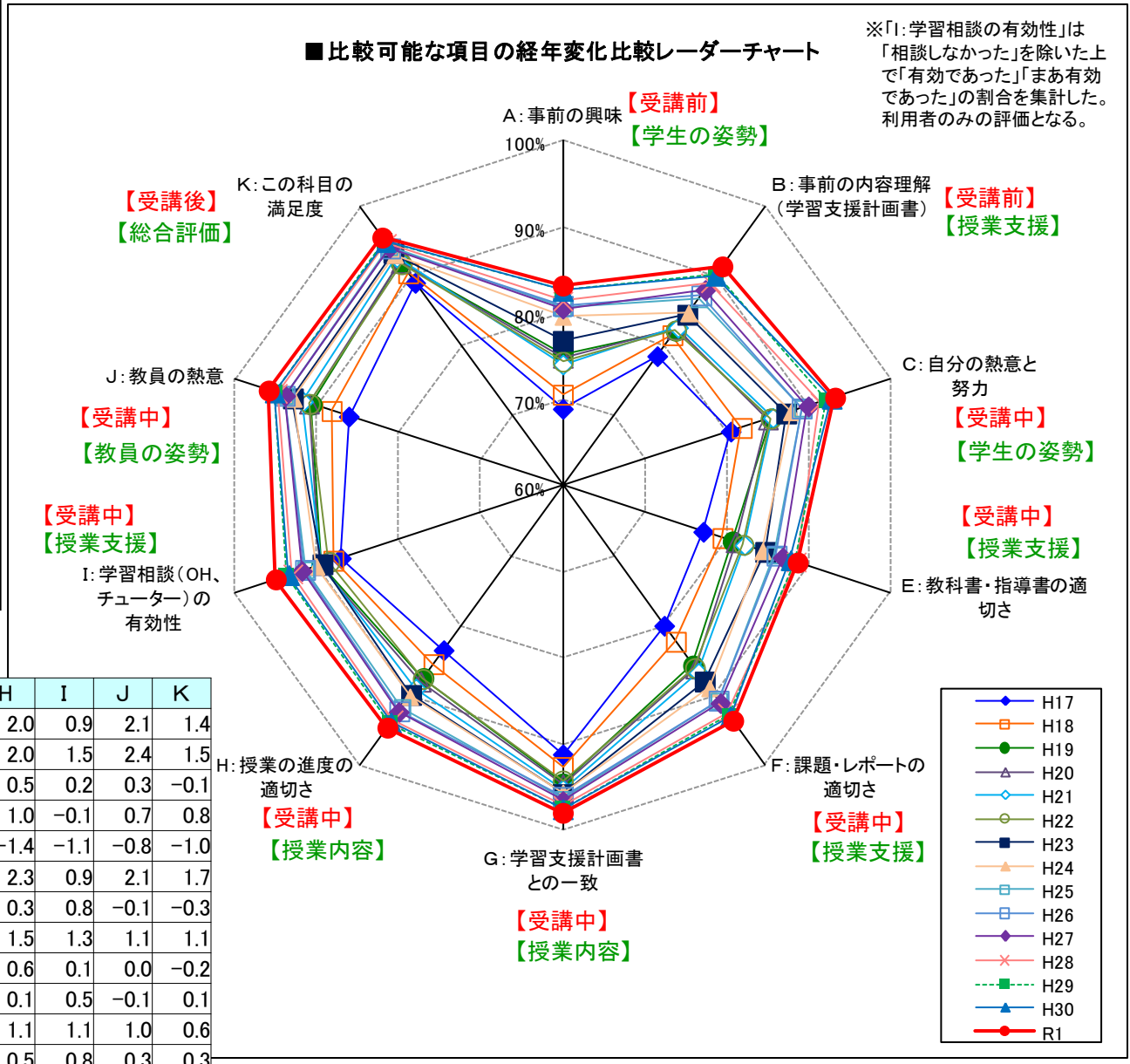
- 「J:教員の熱意」は「授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか？」という問いであるが、「感じ取れた」が48.9%で過去最高となり、「まあ感じ取れた」の47.0%を加えた肯定的な意見も過去最高の95.9%となり、ほとんどの学生が教員の熱意を感じていると回答していた。
- 「K:この科目の満足度」では「満足している」が前回を2.8ポイント上回って過去最高であった。そして、「まあ満足」は56.4%であり、合計でも過去最高の95.6%となり、ほとんどの学生が授業に満足していると回答していた。特に「満足している」はH22から継続的に増加傾向が続き、ここ数年は増加の割合も増しているようであり、全体の4割を占めるまでに至っている。





＜2-2＞肯定的な意見の経年変化比較

- 肯定的な意見の割合（%）をレーダーチャートにプロットして比較を行った。
- 比較のできない「D：予習・復習、課外学習活動」は除外し、「I：学習相談（OH、チューター）の有効性」は利用経験者の評価だけを抽出している。
- ここまでに個別の項目の経年変化で見てきたように、今回はすべての項目が過去最高の高さとなっており、授業の評価は非常に高いと言える。
- 単純に前回からの向上を見ると、最も向上が大きかったのは「I：学習相談（OH、チューター）の有効性」の1.6ポイントで、続いて「B：事前の内容理解（学習支援計画書」が1.3ポイント、「E：教科書・指導書の適切さ」が0.9ポイントとなっており、最も重要な指標である「K：この科目の満足度」は0.7ポイント向上していた。



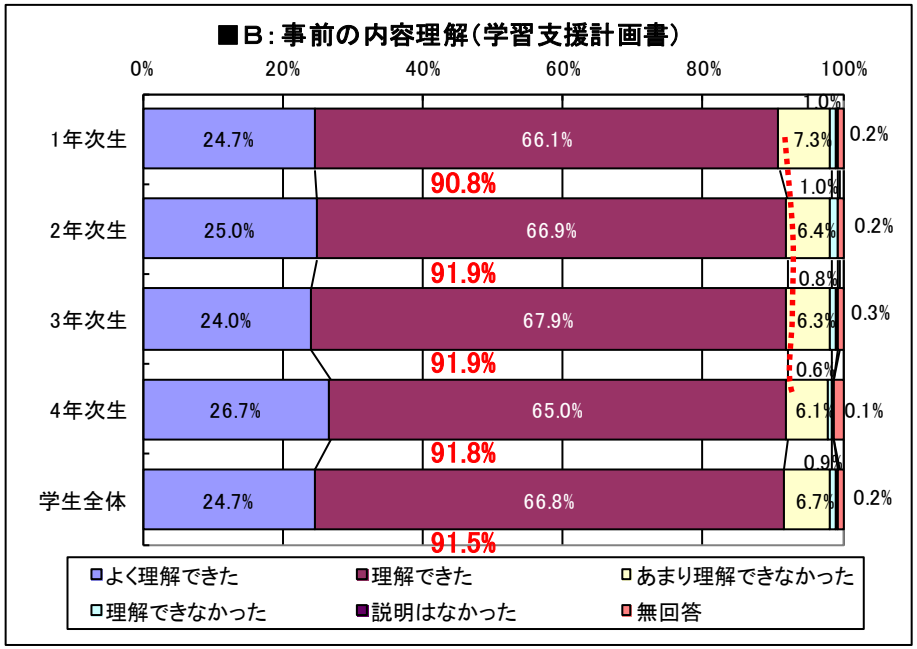
■肯定的な意見の差（単位：ポイント）

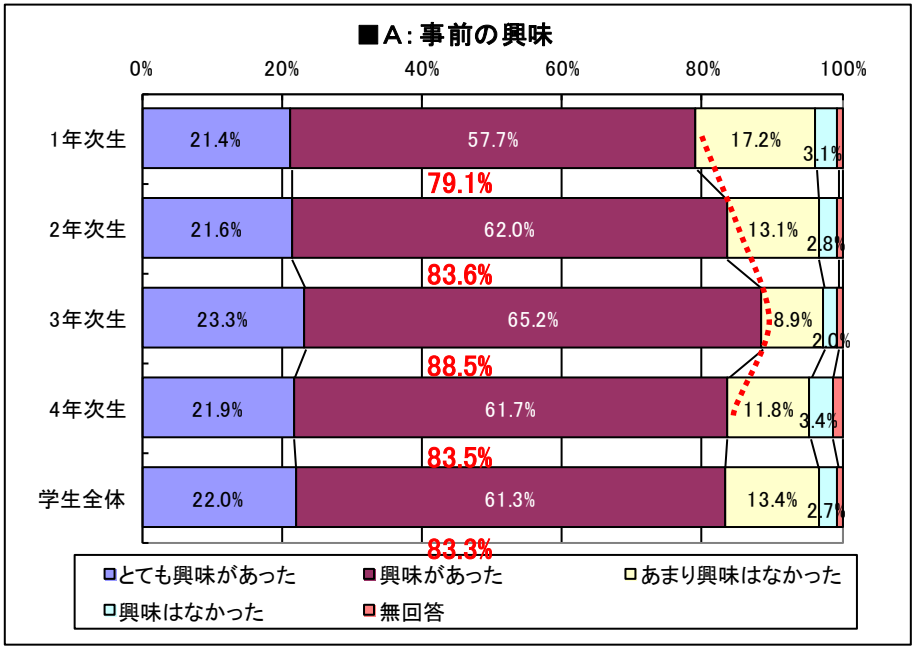
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
H17からH18の上昇	1.6	3.0	1.3	2.4	2.3	1.5	2.0	0.9	2.1	1.4
H18からH19の上昇	4.7	0.7	3.6	1.2	3.4	1.9	2.0	1.5	2.4	1.5
H19からH20の上昇	−0.4	0.2	−0.4	0.3	0.4	0.1	0.5	0.2	0.3	−0.1
H20からH21の上昇	−0.8	0.2	0.6	1.1	0.6	0.6	1.0	−0.1	0.7	0.8
H21からH22の上昇	0.3	−0.4	−0.3	−0.1	−0.7	−1.0	−1.4	−1.1	−0.8	−1.0
H22からH23の上昇	2.4	2.2	1.9	2.7	1.9	1.6	2.3	0.9	2.1	1.7
H23からH24の上昇	2.8	0.2	0.6	−0.3	0.9	−0.2	0.3	0.8	−0.1	−0.3
H24からH25の上昇	1.1	2.0	1.3	1.5	1.8	0.8	1.5	1.3	1.1	1.1
H25からH26の上昇	0.3	0.5	−0.1	0.2	0.0	−0.3	0.6	0.1	0.0	−0.2
H26からH27の上昇	−0.3	0.7	0.7	0.7	0.4	0.5	0.1	0.5	−0.1	0.1
H27からH28の上昇	0.9	1.0	1.4	1.7	1.4	0.5	1.1	1.1	1.0	0.6
H28からH29の上昇	1.3	1.1	0.8	0.0	0.5	0.4	0.5	0.8	0.3	0.3
H29からH30の上昇	−0.1	−0.1	0.6	−0.5	0.0	0.1	−0.1	−0.3	0.1	−0.1
H30からR1の上昇	**0.6**	**1.3**	**0.4**	**0.9**	**0.6**	**0.4**	**0.7**	**1.6**	**0.7**	**0.7**

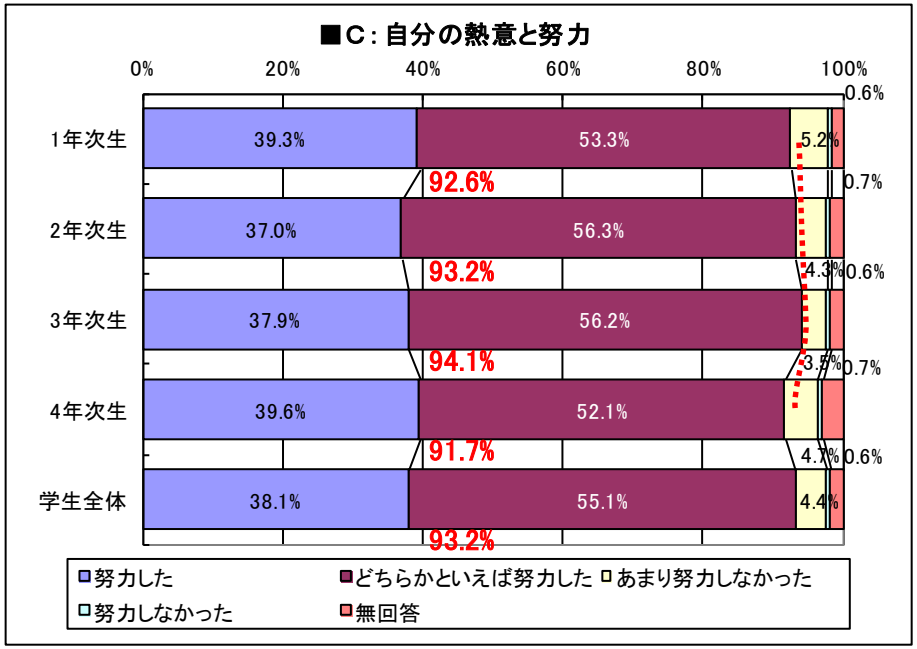
＜3＞学年別の分析

＜3-1＞学年別の比較

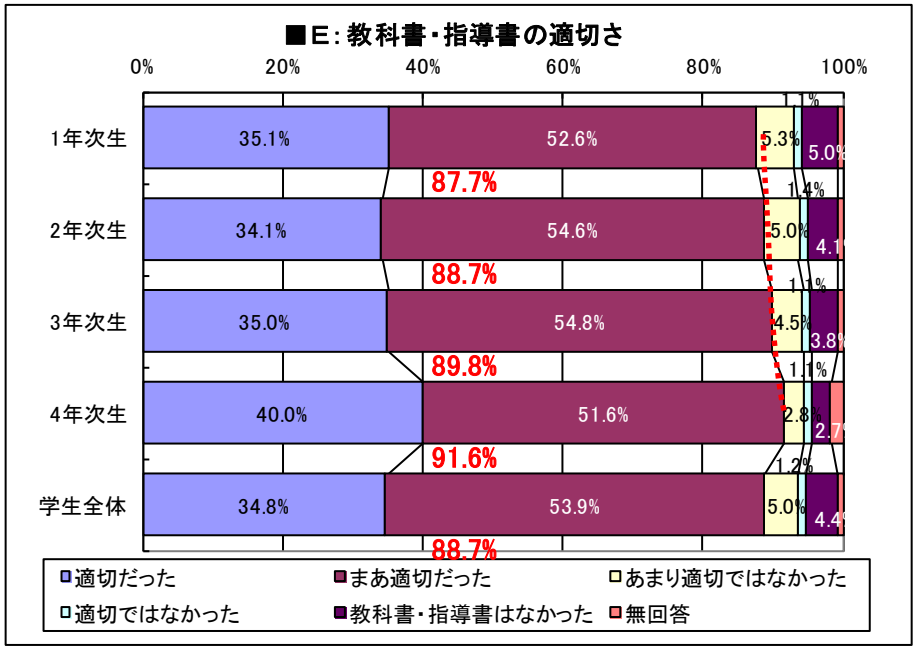
- 「A:事前の興味」の肯定的な意見の合計(グラフ中の赤太文字)を学年別に比較したところ、「3年次生」が88.5%と最も多く、次いで、「2年次生」が83.6%、「4年次生」が83.5%、「1年次生」が79.1%と続いており、「1年次生」と「3年次生」の差は9.4ポイントと大きく、「3年次生」までは高学年の方が強い興味を持っていることが分かった。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」で肯定的な意見の合計が最も多かったのは「2年次生」と「3年次生」の91.9%であったが、続く「4年次生」は91.8%、「1年次生」は90.8%であり、学年間の差は最大でも1.1ポイントと非常に小さかった。
- 「C:自分の熱意と努力」の肯定的な意見の合計は「3年次生」が94.1%と最も多く、次いで、「2年次生」が93.2%、「1年次生」が92.6%、「4年次生」が91.7%と続いており、「3年次生」までは高学年ほど熱意と努力を強く持っているようであったが、学年間の差は最大でも2.4ポイントと小さかった。ただし、「努力した」だけを見ると、「4年次生」が39.6%、「1年次生」が39.3%とやや多い点が特徴的であった。

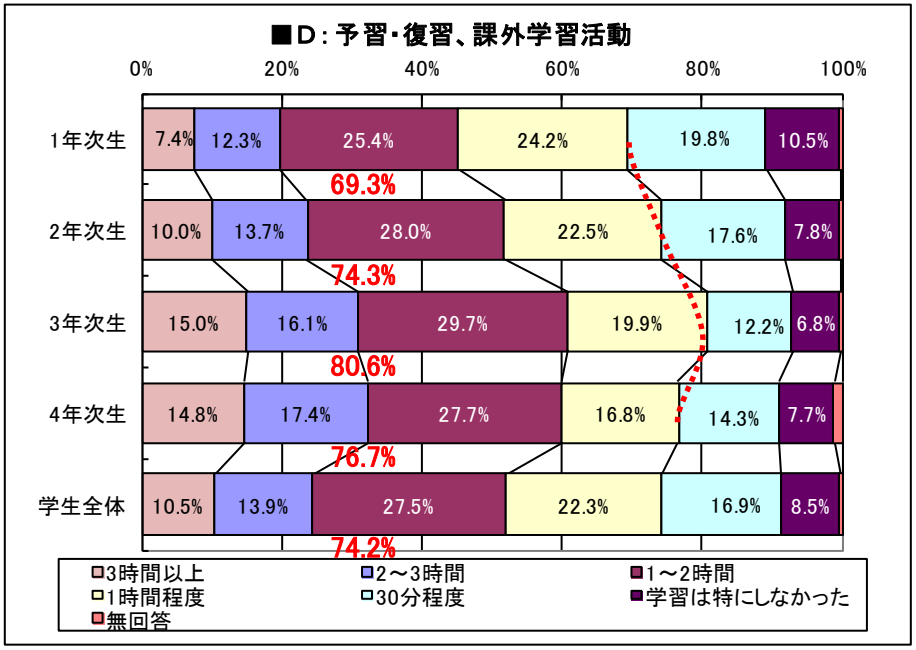


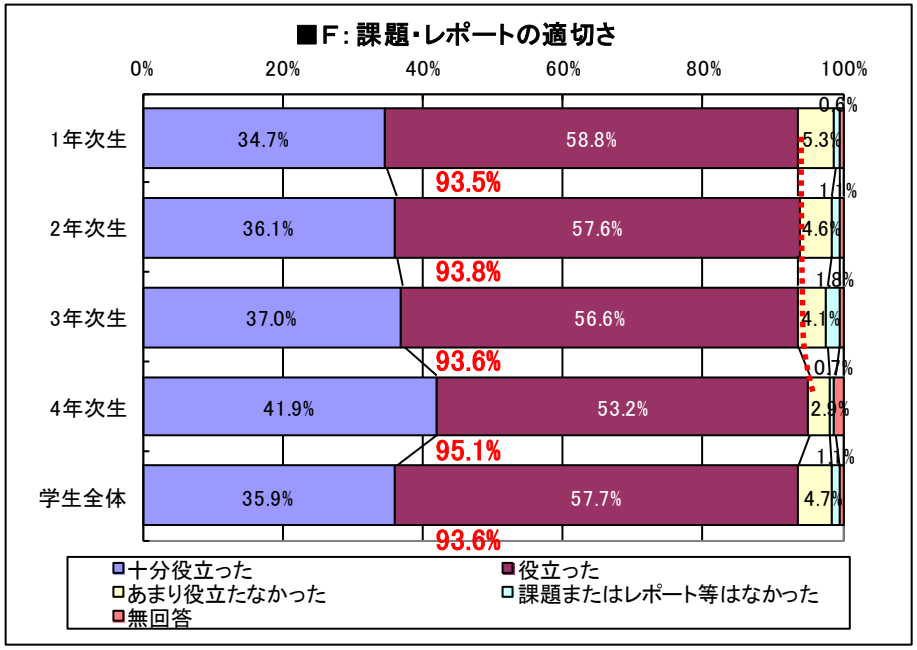




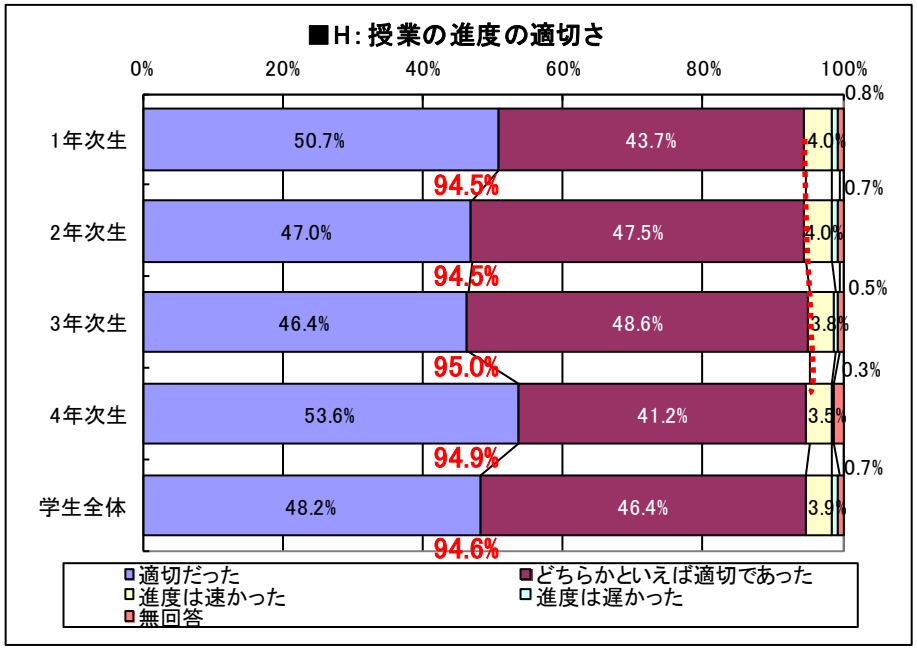
- 「D：予習・復習、課外学習活動」で「1時間程度」までの合計を学年別に比較したところ、「3年次生」が80.6％で最も多く、「3時間以上」も15.0％と最も多かった。次いで、「4年次生」が76.7％、「2年次生」が74.3％、「1年次生」が69.3％であり、「3年次生」までは学年が上がるほど学習時間が長くなる傾向が見られ、差は最大で11.3ポイントと大きかった。
- 「E：教科書・指導書の適切さ」の肯定的な意見の合計を見ると、「4年次生」が91.6％と最も多く、特に「適切だった」が40.0％と多い点が特徴的であった。次いで、「3年次生」が89.8％、「2年次生」が88.7％、「1年次生」が87.7％と続いており、差は最大で3.9ポイントとそれほど大きくないが、学年が上がるほど「教科書・指導書」を高く評価している傾向が見られた。
- 「F：課題・レポートの適切さ」の肯定的意見を学年別に比較すると、「4年次生」が95.1％で最も多く、特に「十分役立った」が41.9％と多かった。次いで、「2年次生」が93.8％、「3年次生」が93.6％、「1年次生」が93.5％と続いており、差は最大でも1.6ポイントと小さく、「1年次生」から「3年次生」まではほとんど差がなかった。

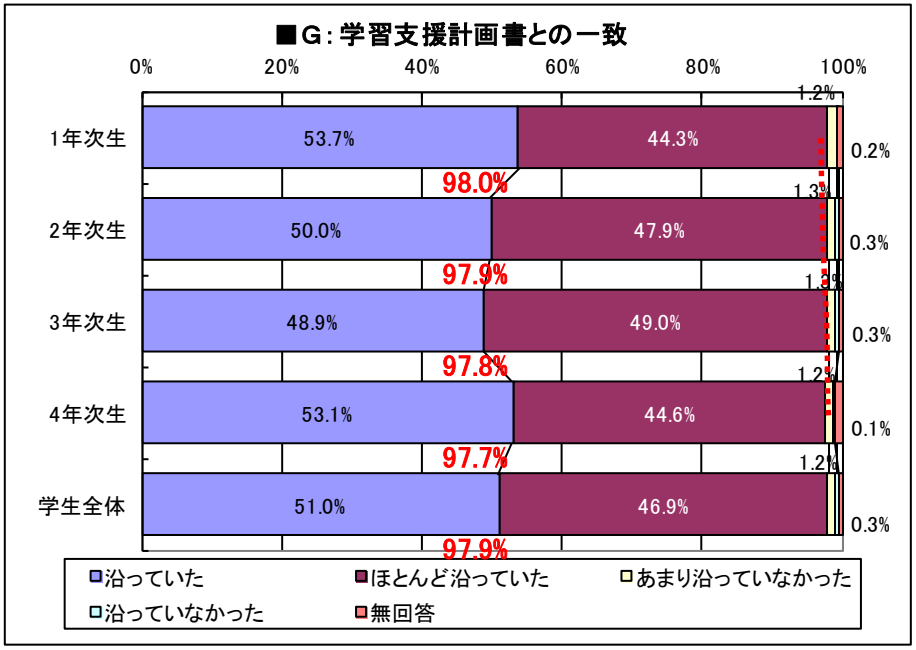


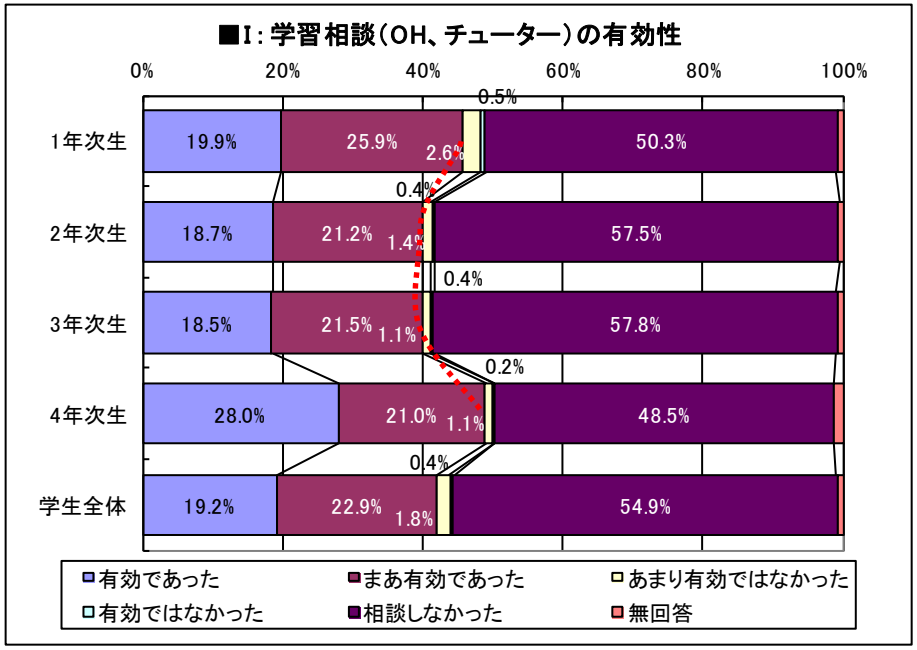




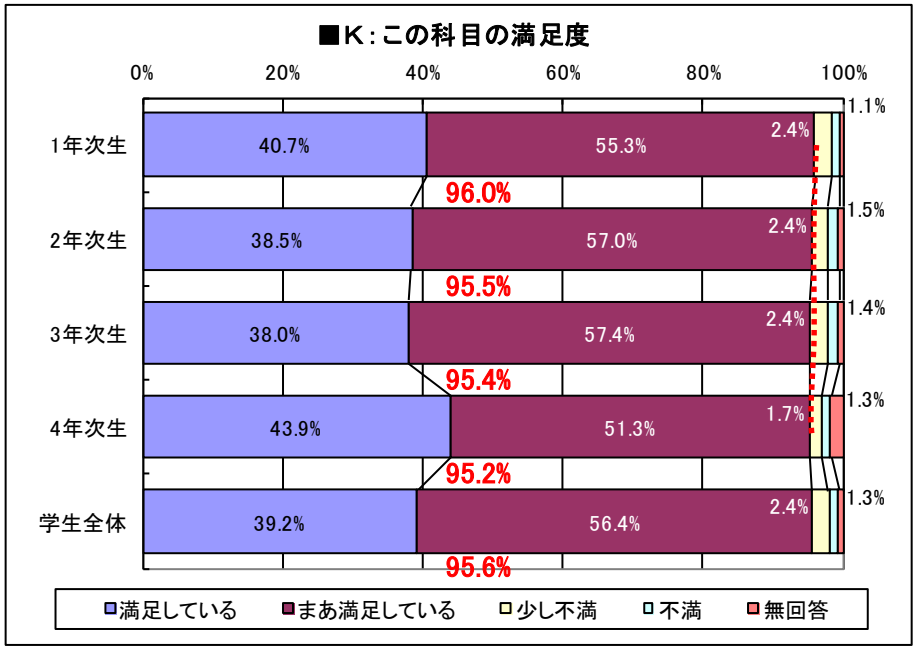
- 「G:学習支援計画書との一致」の肯定的意見の合計は「1年次生」が98.0%で最も多かった。そして、「2年次生」が97.9%、「3年次生」が97.8%、「4年次生」が97.7%となっており、高学年ほど肯定的な意見が減少していたものの、差は最大でも0.3ポイントであり、学年による差はほとんどないと言える。
- 「H:授業の進度の適切さ」の肯定的な意見の合計は「3年次生」が95.0%と最も多く、「4年次生」が94.9%、「1年次生」と「2年次生」がともに94.5%と続いていたが、差は最大でも0.5ポイントと小さく、学年との相関関係は見られなかった。ただし、「適切であった」だけを見ると、「4年次生」が53.6%で多さが目立っていた。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」で「相談しなかった」の割合を比較したところ、「3年次生」が57.8%、「2年次生」が57.5%であり、この2学年の多さが目立っていた。一方、「有効であった」の割合を比較すると、「4年次生」が28.0%で多さが目立っており、他の3学年は2割に満たなかった。

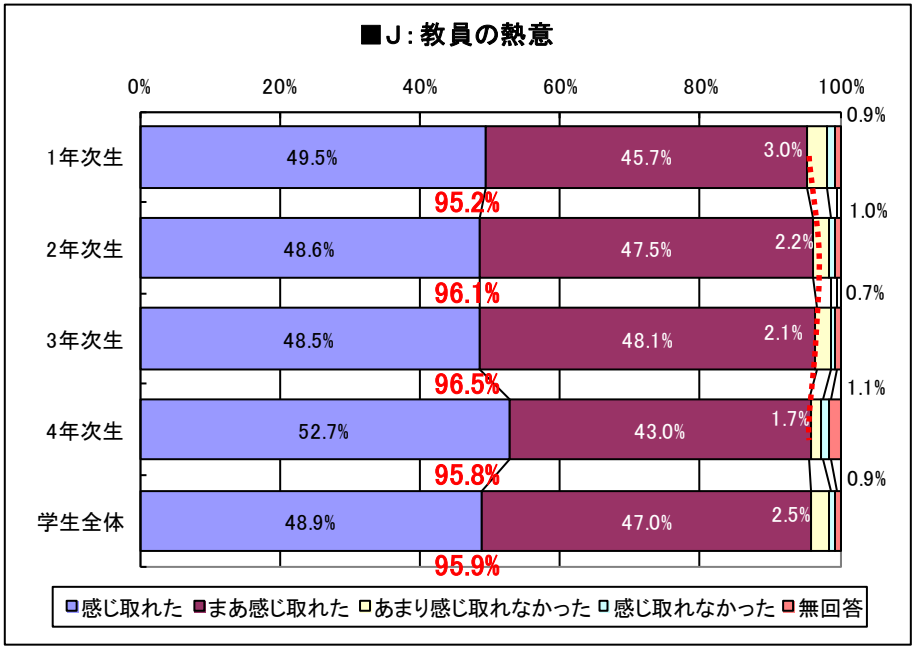






- 「J:教員の熱意」の肯定的な意見の合計を見ると、「3年次生」が96.5%で最も多く、次いで、「2年次生」が96.1%、「4年次生」が95.8%、「1年次生」が95.2%となっており、学年との相関関係は見られず、差は最大でも1.3ポイントと小さかった。ただし、「感じ取れた」だけを見ると「4年次生」の52.7%がやや多かった。
- 「K:この科目の満足度」の肯定的意見の合計を学年別に比較すると、最も多かったのは「1年次生」の96.0%であった。次いで、「2年次生」が95.5%、「3年次生」が95.4%、「4年次生」が95.2%であり、高学年ほど満足度が低下する傾向が見られた。ただし、差は最大でも0.8ポイントと小さかった。また、「満足している」だけを見ると、「4年次生」の43.9%が最も多く、最も少ない「3年次生」(38.0%)とは5.9ポイントの差があった。

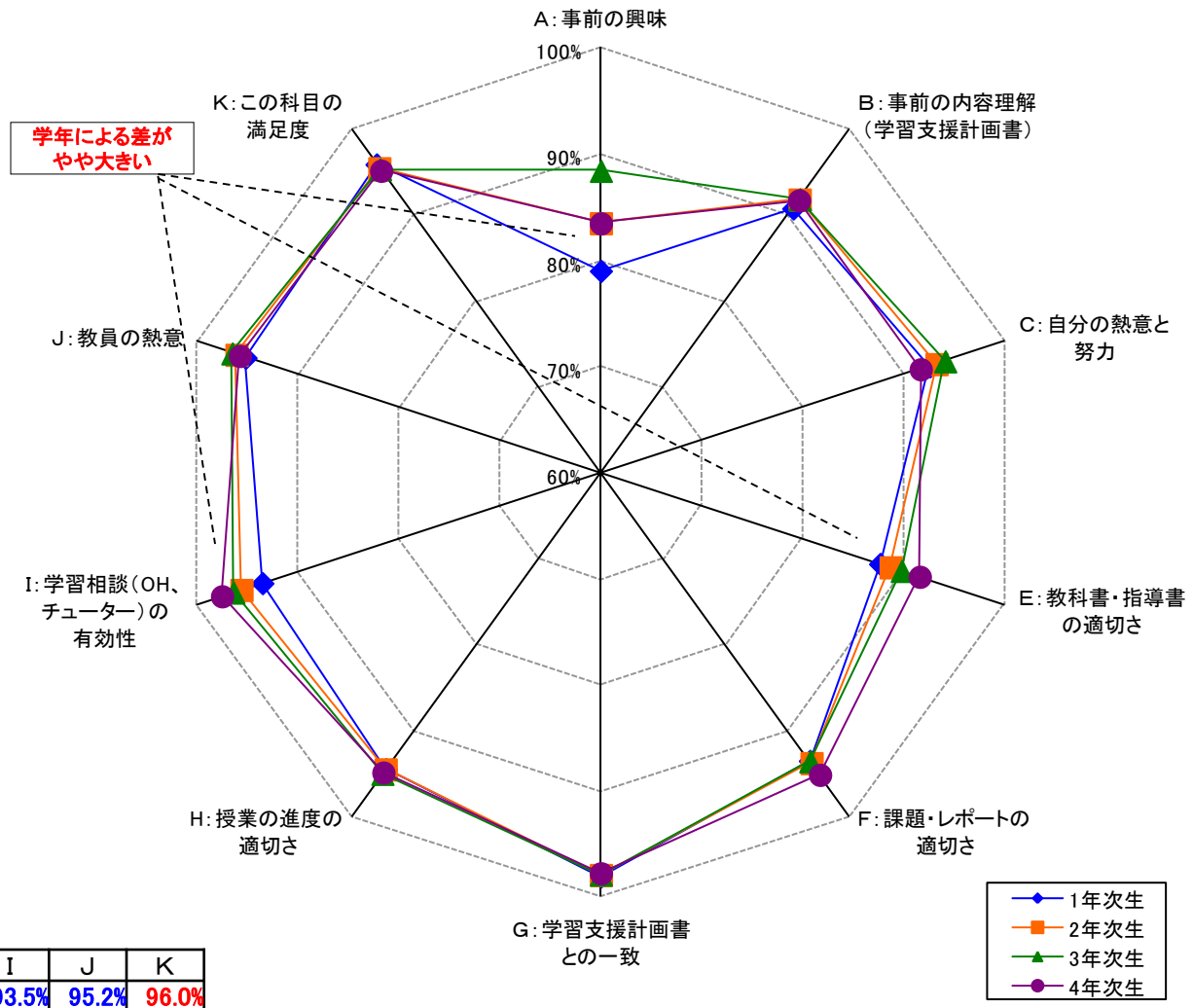




＜3-2＞肯定的な意見の学年別比較

- 肯定的な意見の割合を、学年別にレーダーチャートにプロットして比較を行った。
- 全体的に学年による差はそれほど大きくなかったが、「A：事前の興味」で「1年次生」の低さと「3年次生」の高さが目立っており、他に「E：教科書・指導書の適切さ」「I：学習相談（OH、チューター）の有効性」で学年間の差がやや大きかった。また、この3項目はいずれも「1年次生」が最も低かった。
- 全体的に肯定的な意見が多いという学年は見られなかったが、「1年次生」は上記の3項目も含めて7項目で最も低かった。

■学年別比較レーダーチャート



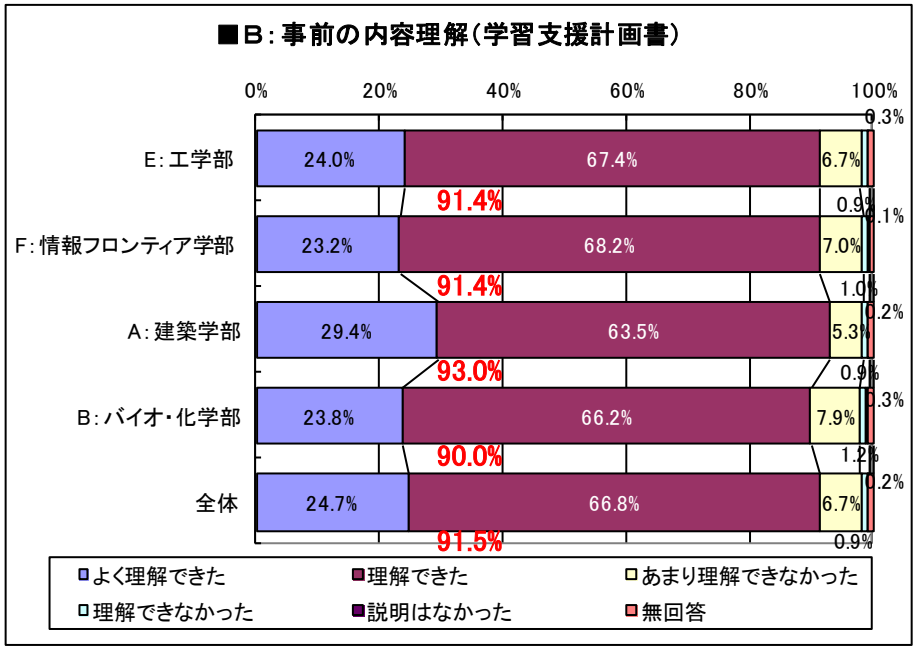
■学年別比較

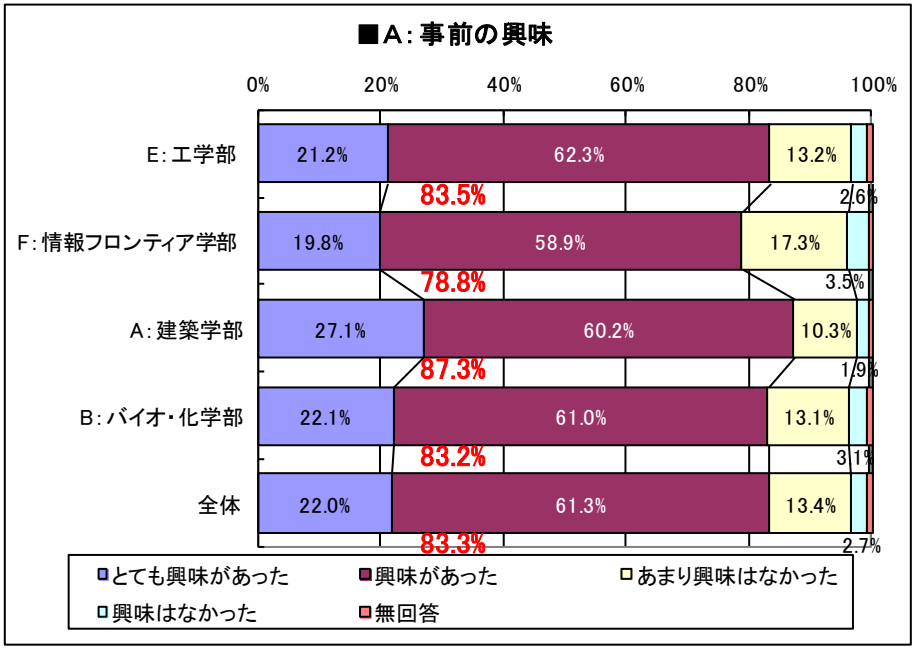
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
1年次生	79.1%	90.8%	92.6%	87.7%	93.5%	98.0%	94.5%	93.5%	95.2%	96.0%
2年次生	83.6%	91.9%	93.2%	88.7%	93.8%	97.9%	94.5%	95.6%	96.1%	95.5%
3年次生	88.5%	91.9%	94.1%	89.8%	93.6%	97.8%	95.0%	96.4%	96.5%	95.4%
4年次生	83.5%	91.8%	91.7%	91.6%	95.1%	97.7%	94.9%	97.5%	95.8%	95.2%

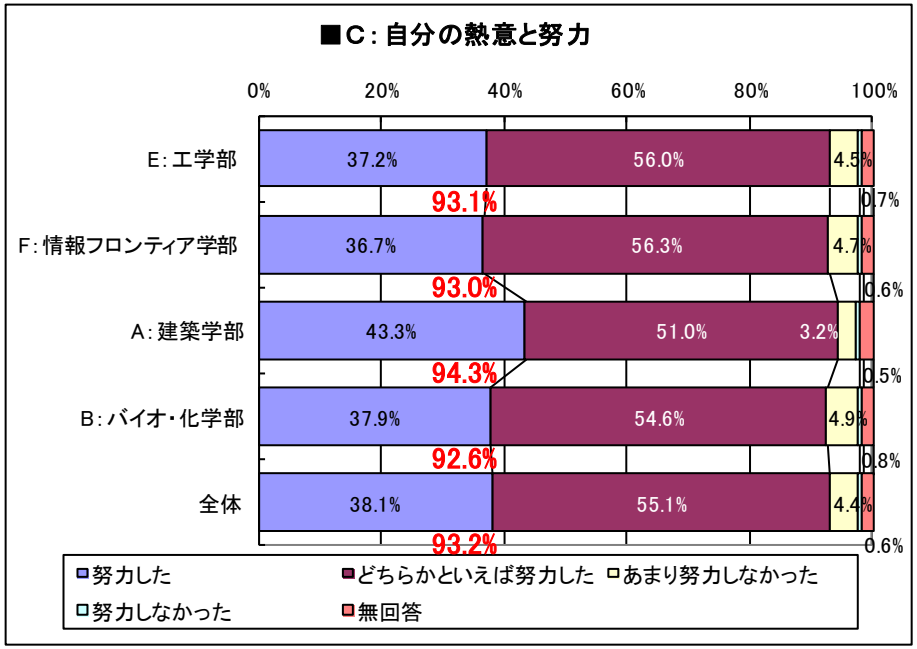
＜4＞学部・学科別の分析

＜4-1＞学部別の比較

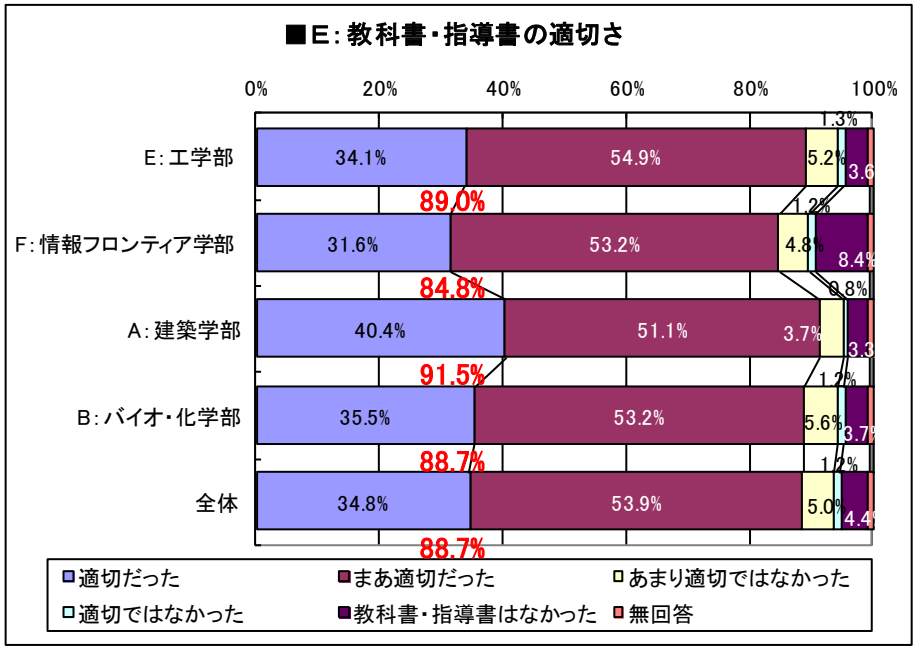
- 「A:事前の興味」の肯定的な意見の合計(赤太文字)を学部別に比較したところ、最も多かったのは「A:建築学部」の87.3%であり、特に「とても興味があった」が27.1%と多い点が特徴的であった。次いで、「E:工学部」が83.5%、「B:バイオ・化学部」が83.2%、「F:情報フロンティア学部」が78.8%と続いており、「A:建築学部」と「F:情報フロンティア学部」の差は8.5ポイントであった。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」で肯定的な意見が最も多かったのは「A:建築学部」の93.0%であり、ここでも「よく理解できた」が29.4%と多い点が特徴的であった。次いで、「E:工学部」と「F:情報フロンティア学部」が91.4%、「B:バイオ・化学部」が90.0%であり、差は最大で3.0ポイントであった。
- 「C:自分の熱意と努力」でも肯定的な意見が最も多かったのは「A:建築学部」の94.3%であり、「努力した」が43.3%と、唯一4割を超えていた。次いで、「E:工学部」が93.1%、「F:情報フロンティア学部」が93.0%、「B:バイオ・化学部」が92.6%と続いており、すべての学部で肯定的な意見が9割以上であった。また、差は最大でも1.7ポイントと小さかった。

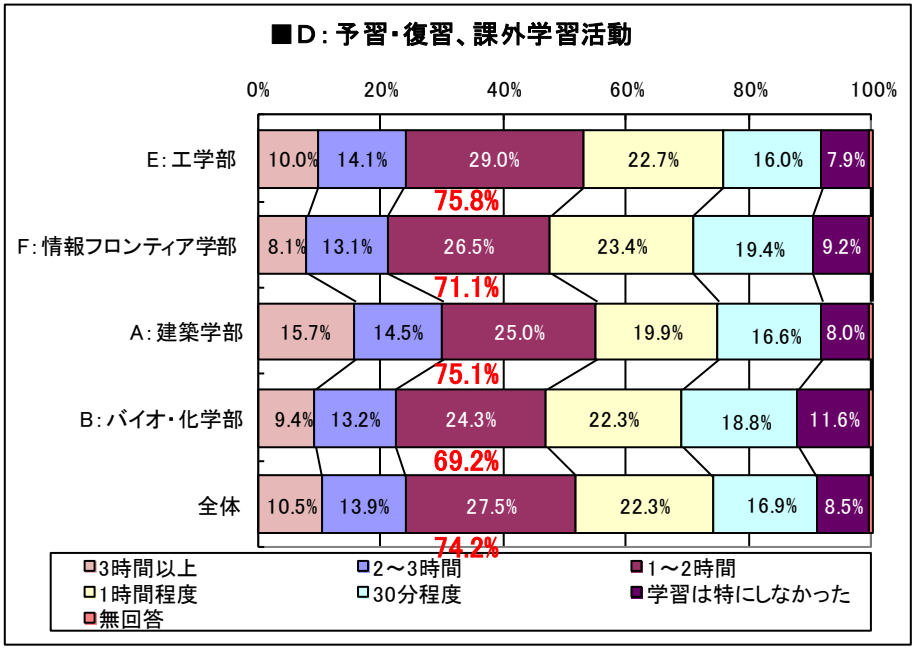


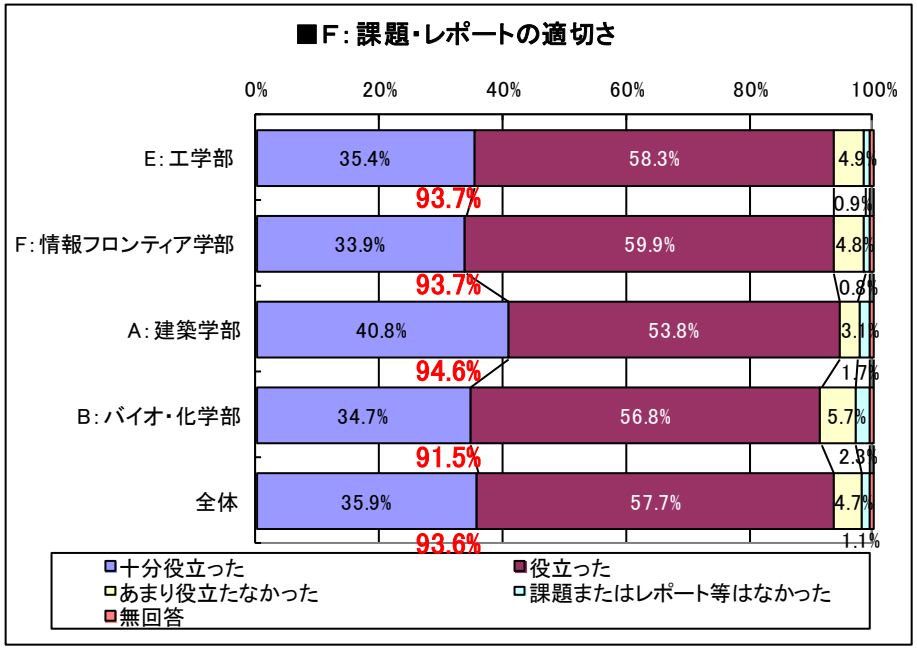




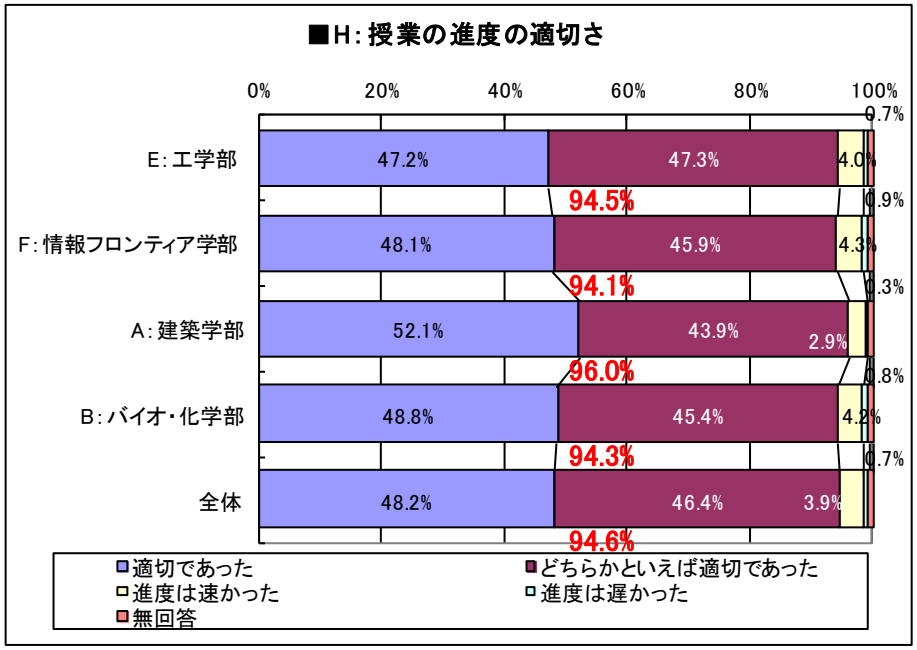
- 「D:予習・復習、課外学習活動」で「1時間程度」までの合計を学部別に比較したところ、「E:工学部」が75.8%と最も多く、次いで、「A:建築学部」が75.1%、「F:情報フロンティア学部」が71.1%、「B:バイオ・化学部」が69.2%と続いており、差は最大で6.6ポイントとやや大きかった。「1時間程度」までの合計は「E:工学部」が最も多かったものの、「3時間以上」だけを見ると「A:建築学部」の15.7%の多さが目立っていた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」の肯定的意見の合計は、「A:建築学部」が91.5%で最も多く、特に「適切だった」が40.4%と多かった。次いで、「E:工学部」が89.0%、「B:バイオ・化学部」が88.7%、「F:情報フロンティア学部」が84.8%と続いていたが、差は最大で6.7ポイントとやや大きかった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」の肯定的な意見の合計が最も多かったのは「A:建築学部」の94.6%であり、次いで、「E:工学部」と「F:情報フロンティア学部」が93.7%、「B:バイオ・化学部」が91.5%で続いており、全学部で肯定的な意見が9割を超えていた。そして、差は最大で3.1ポイントであった。

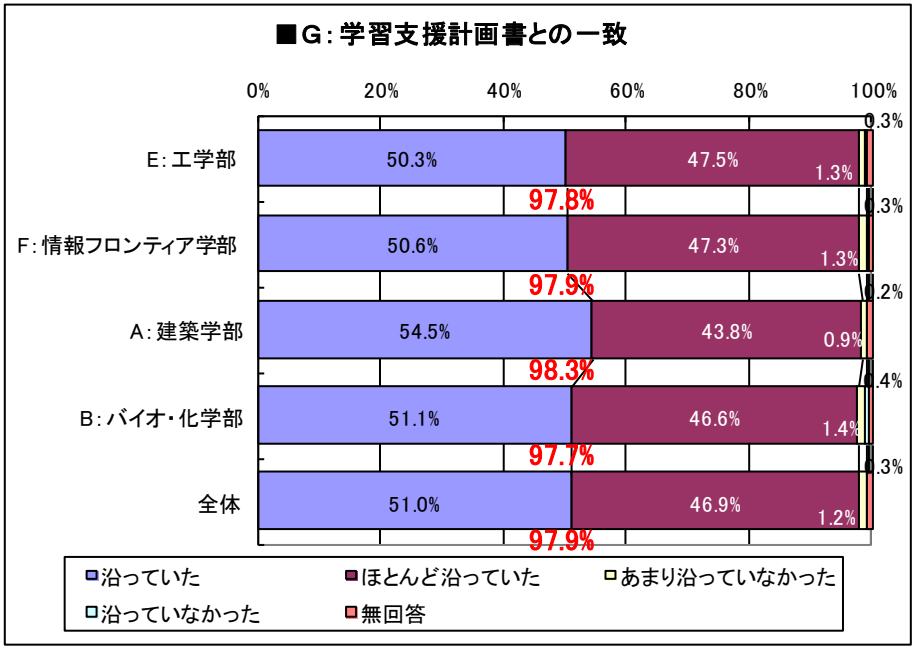


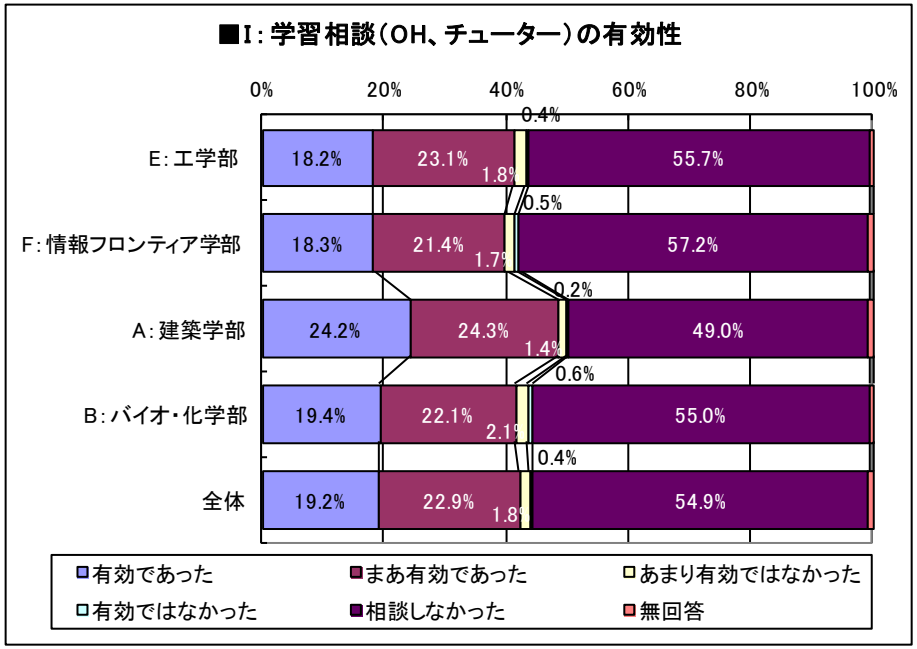




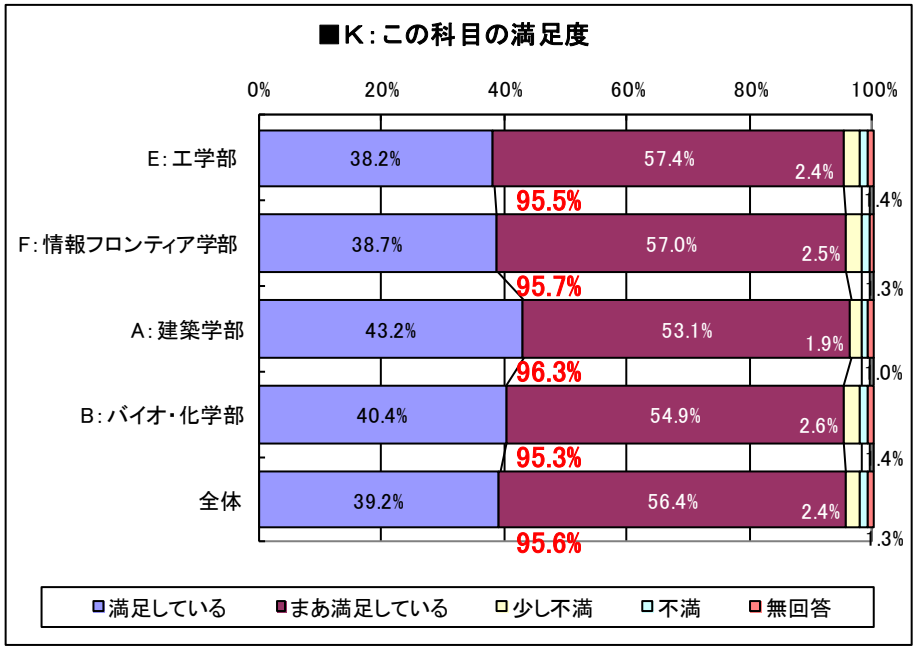
- 「G:学習支援計画書との一致」ではすべての学部で肯定的な意見が95%を超えており、評価は非常に高いと言える。中でも最も高かったのは「A:建築学部」の98.3%であり、最も低い「B:バイオ・化学部」の97.7%との差は0.6ポイントと小さかった。
- 「H:授業の進度の適切さ」も全学部で肯定的な意見が90%を超えていた。最も高かったのは「A:建築学部」の96.0%であり、「E:工学部」が94.5%、「B:バイオ・化学部」が94.3%、「F:情報フロンティア学部」が94.1%と続いており、差は最大でも1.9ポイントと小さかった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」で「相談しなかった」の割合を比較すると、「A:建築学部」の49.0%の少なさが目立っており、他の3学部は55～57%程度で、ほぼ同じであった。一方、利用者の評価を見ると、「A:建築学部」で肯定的な意見の多さが目立っており、他の3学部はよく似た評価となっていた。

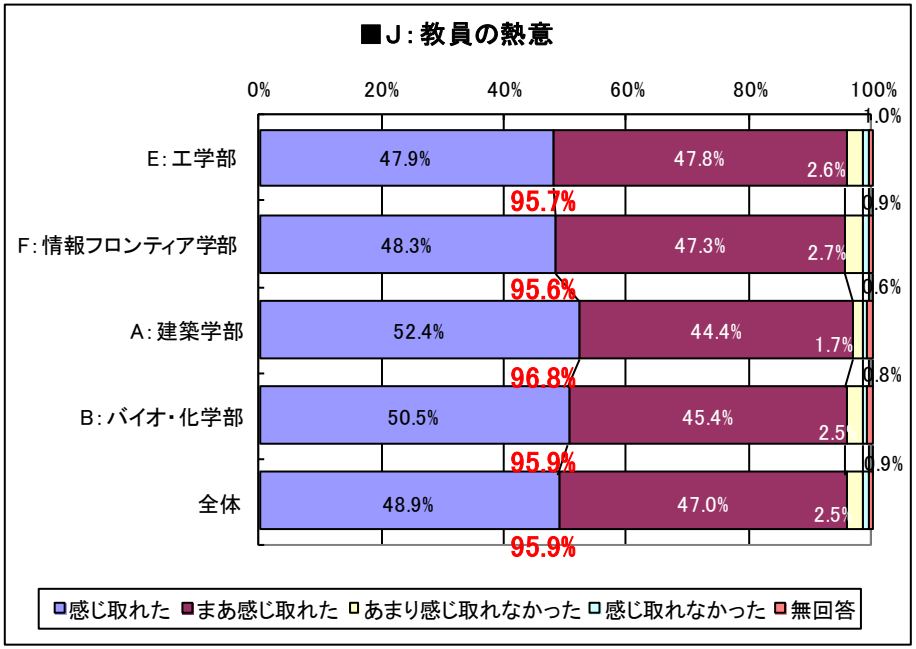






- 「J:教員の熱意」も全学部で肯定的な意見が95%以上であり、評価は非常に高かった。中でも最も高かったのは「A:建築学部」の96.8%であり、「B:バイオ・化学部」が95.9%、「E:工学部」が95.7%、「F:情報フロンティア学部」が95.6%と続いており、差は最大でも1.2ポイントと小さかった。また、「感じ取れた」も「A:建築学部」が52.4%と多かったが、他の3学部でも5割前後であり、あまり変わらない高い評価になっていた。
- 「K:この科目の満足度」も全学部で肯定的な意見が95%以上であり、非常に高い満足度になっていた。最も満足度が高かったのは「A:建築学部」の96.3%であり、「F:情報フロンティア学部」が95.7%、「E:工学部」が95.5%、「B:バイオ・化学部」が95.3%と続いており、差は最大でも1.0ポイントと小さかった。また、「満足している」も「A:建築学部」が43.2%と多く、最も少ない「E:工学部」(38.2%)との差は5.0ポイントであった。



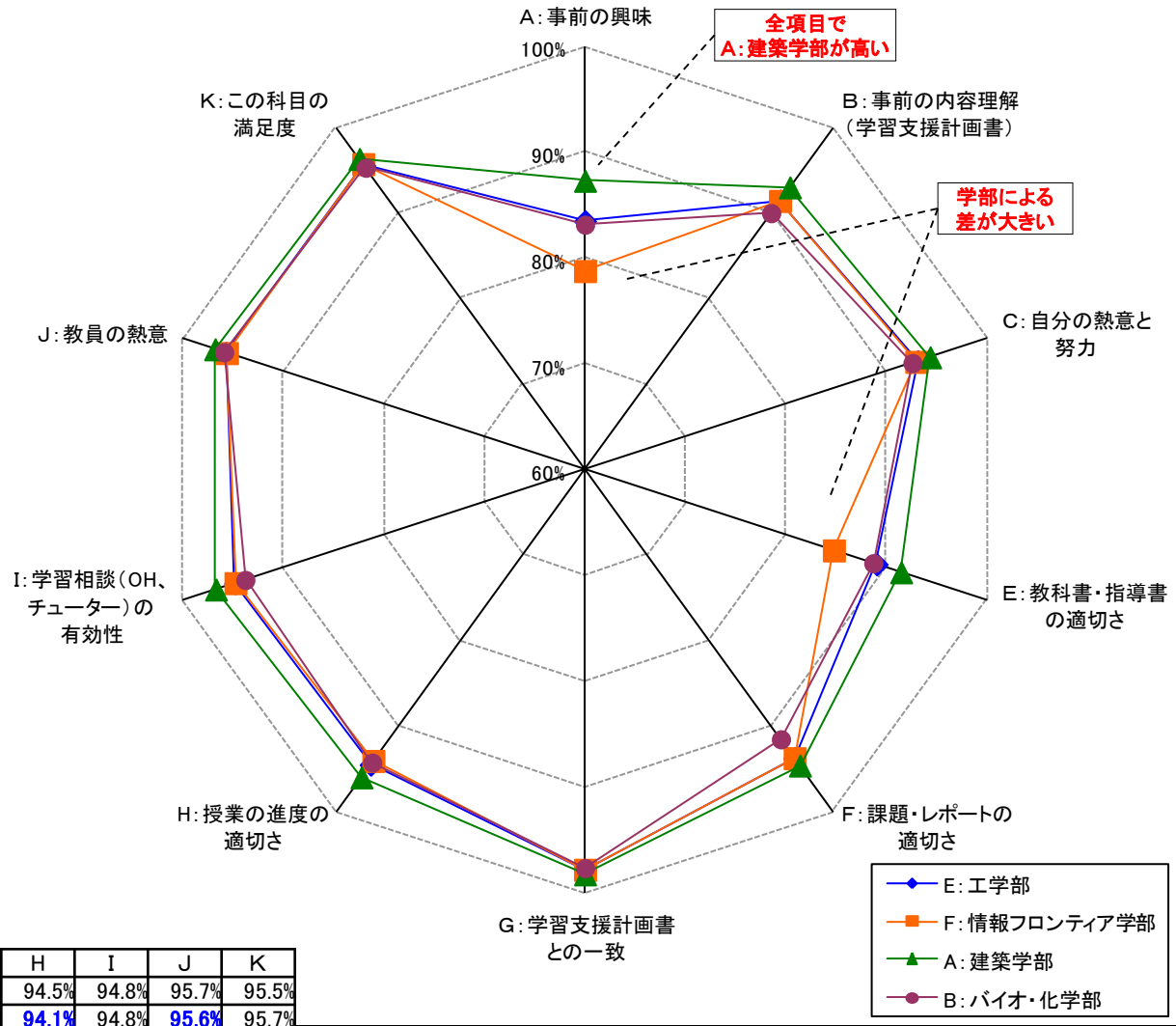


＜4-2＞肯定的な意見の学部別比較

- 肯定的な意見の割合を、学部別にレーダーチャートにプロットして比較を行った。
- 全体的に学部による差はそれほど大きくなかったが、全項目で「A:建築学部」の肯定的な意見が最も多く、特に「A:事前の興味」と「E:教科書・指導書の適切さ」の高さが目立っていた。
- 一方、全体的に低い学部は見られなかったが、「F:情報フロンティア学部」はいくつかの項目で低いものが見られ、特に上記の2項目の低さが目立っていた。また、「B:バイオ・化学部」も低い項目がいくつか見られたが、目立って低いものは見られなかった。

■学部別比較レーダーチャート

※「I:学習相談の有効性」は「相談しなかった」を除いた上で「有効であった」「まあ有効であった」の割合を集計した。利用者のみの評価となる。



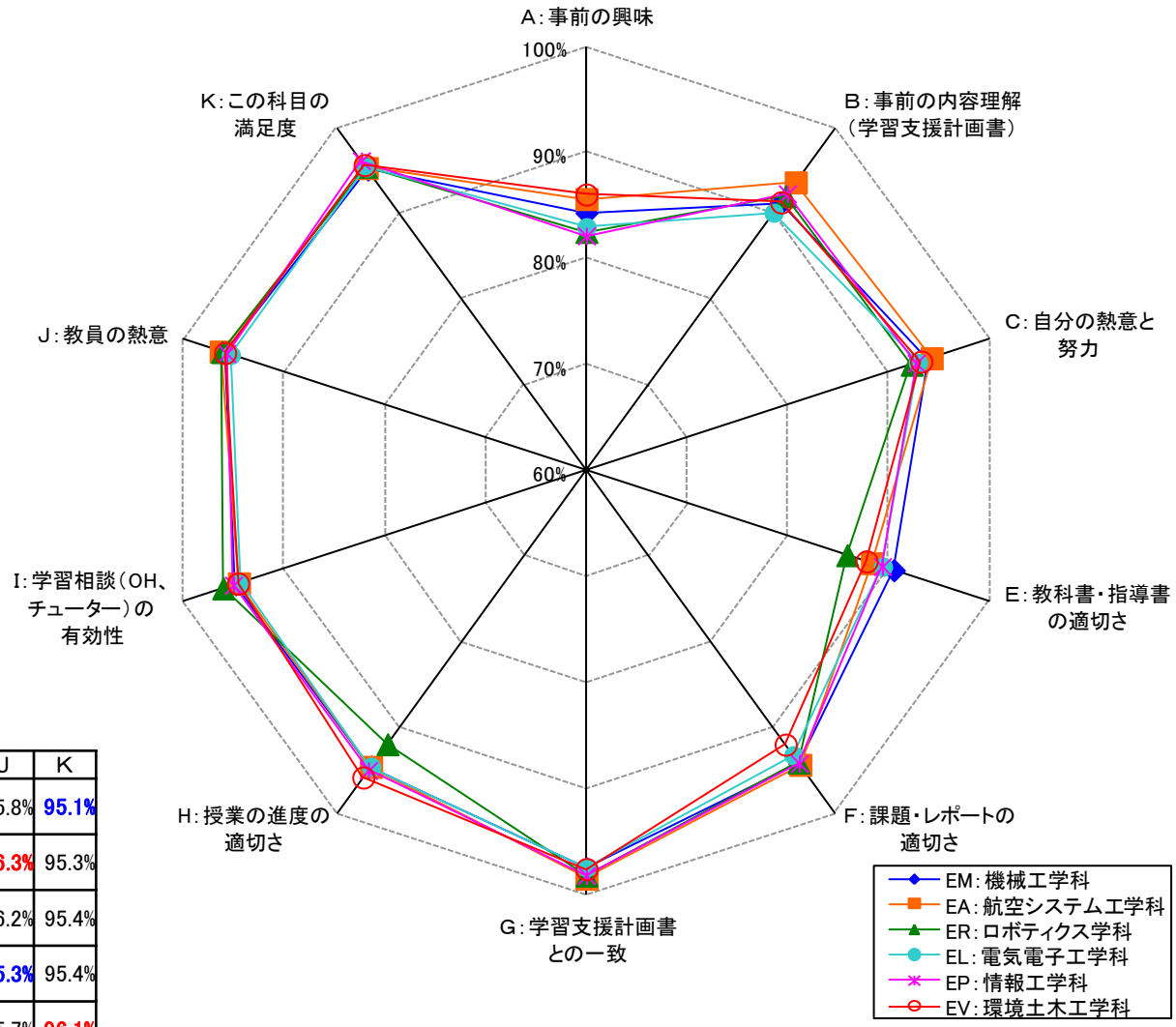
■学部別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
E:工学部	83.5%	91.4%	93.1%	89.0%	93.7%	97.8%	94.5%	94.8%	95.7%	95.5%
F:情報フロンティア学部	78.8%	91.4%	93.0%	84.8%	93.7%	97.9%	94.1%	94.8%	95.6%	95.7%
A:建築学部	87.3%	93.0%	94.3%	91.5%	94.6%	98.3%	96.0%	96.7%	96.8%	96.3%
B:バイオ・化学部	83.2%	90.0%	92.6%	88.7%	91.5%	97.7%	94.3%	93.8%	95.9%	95.3%

＜4-3＞肯定的な意見の学科別比較

- 学科数が多いため、学科別集計は学部毎に分けて比較をした。
- 「工学部」の中で肯定的な意見の多さが目立っていたのは「EA:航空システム工学科」であり、10項目中の5項目で最も高かった。次いで、「EV:環境土木工学科」が2項目で、「EM:機械工学科」「ER:ロボティクス学科」「EP:情報工学科」が各々1項目で最も高かった。ただし、いずれも目立った高さではなく、学科間の差は小さかった。
- 一方、肯定的な意見が少なかった学科を見ると、「EL:電気電子工学科」が4項目で最も低く、「ER:ロボティクス学科」が3項目で、「EM:機械工学科」が2項目で、「EP:情報工学科」と「EV:環境土木工学科」が各々1項目で最も低かった。目立った低さではないが、「ER:ロボティクス学科」は「E:教科書・指導書の適切さ」と「H:授業の進度の適切さ」でやや低めな評価となっていた。
- 上記のようにわずかな特徴は見られるが、それほど目立つものではなかった。

■工学部 学科別比較レーダーチャート

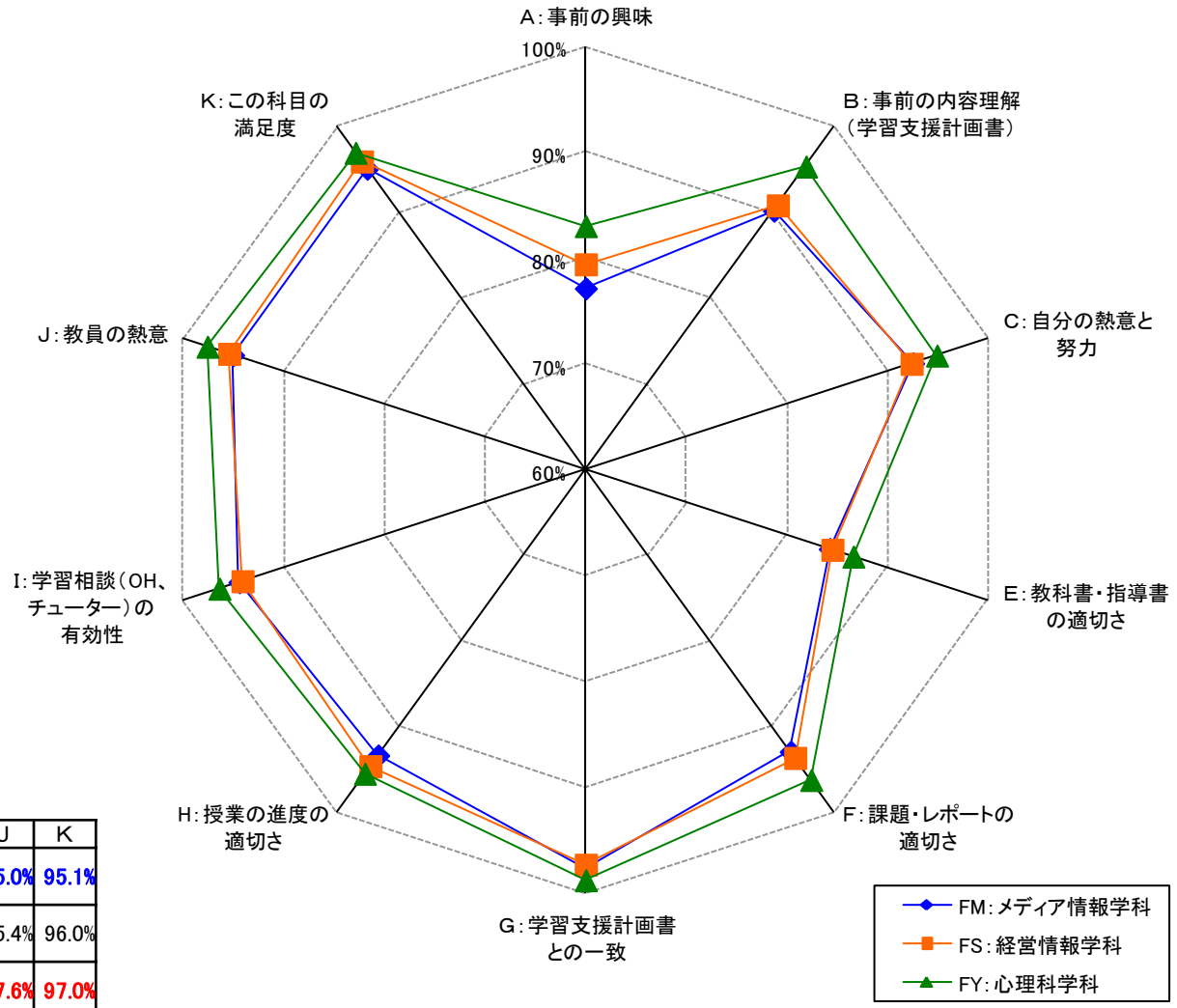


■工学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
EM:機械工学科	84.3%	91.2%	93.9%	90.5%	94.2%	97.5%	94.6%	94.8%	95.8%	95.1%
EA:航空システム工学科	85.6%	93.6%	94.3%	88.3%	94.3%	98.5%	94.6%	94.5%	96.3%	95.3%
ER:ロボティクス学科	82.5%	92.0%	92.3%	85.9%	94.1%	98.2%	91.9%	96.0%	96.2%	95.4%
EL:電気電子工学科	83.0%	90.1%	92.9%	89.4%	93.2%	97.5%	94.6%	94.4%	95.3%	95.4%
EP:情報工学科	82.1%	92.3%	92.7%	89.4%	94.2%	98.2%	95.0%	95.0%	95.7%	96.1%
EV:環境土木工学科	86.0%	91.3%	93.2%	87.8%	92.0%	97.6%	95.8%	94.6%	95.9%	95.6%

- 「情報フロンティア学部」ではすべての項目で「FY：心理科学科」の評価が最も高く、他の2学科との差もやや大きいと言えるものであった。
- 「FM：メディア情報学科」は10項目中の7項目で最も低い評価となっていた。いずれも目立った低さではなかったが、「A：事前の興味」の低さはやや差が見られた。
- 「FS：経営情報学科」は10項目中の3項目で最も低い評価となっていた。ただし、いずれも差はわずかであり、目立って低いものは見られなかった。

■情報フロンティア学部 学科別比較レーダーチャート

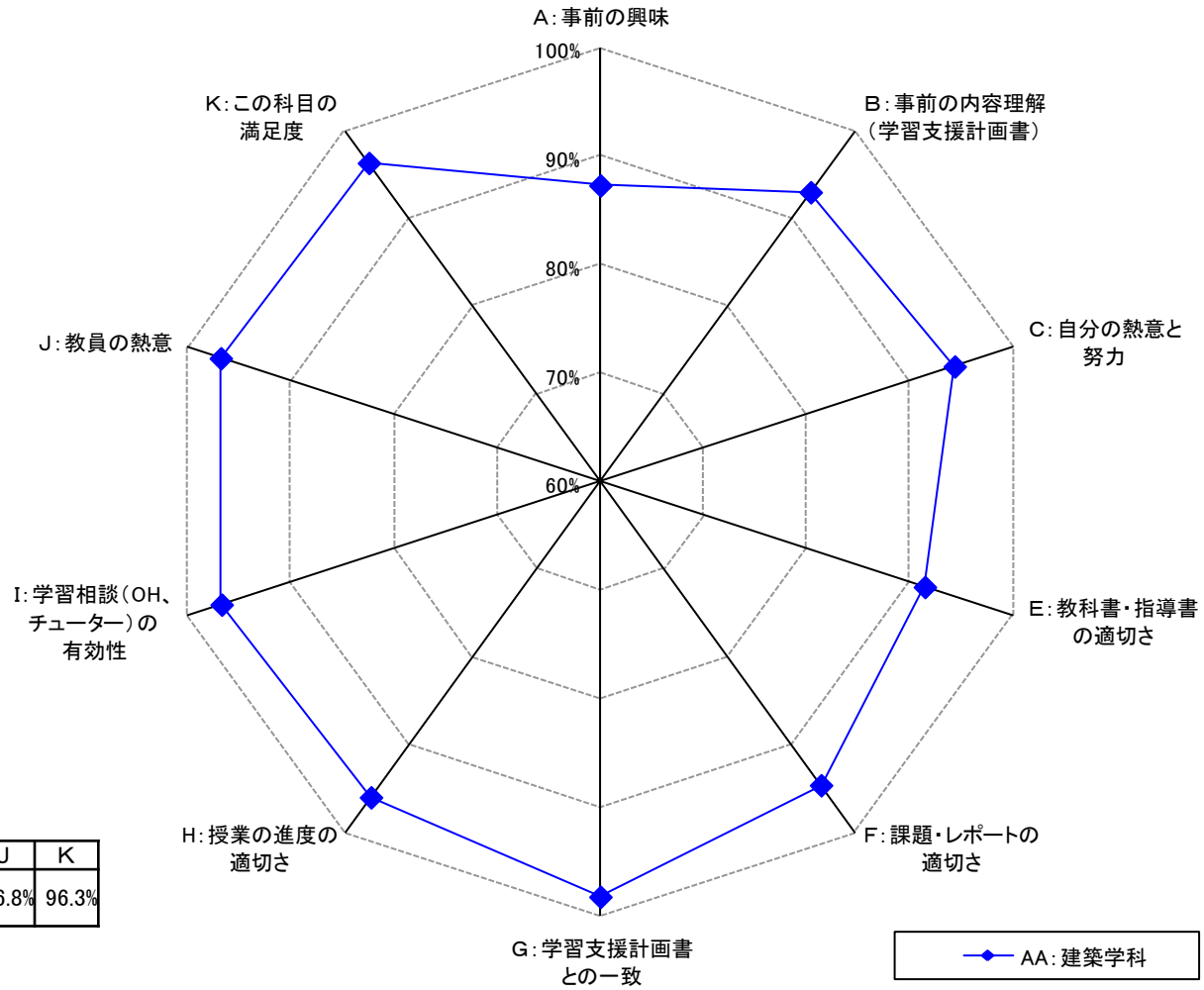


■情報フロンティア学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
FM：メディア情報学科	77.1%	90.3%	92.5%	84.2%	92.9%	97.7%	93.4%	94.4%	95.0%	95.1%
FS：経営情報学科	79.4%	90.9%	92.4%	84.5%	93.7%	97.3%	94.6%	94.1%	95.4%	96.0%
FY：心理科学科	83.0%	95.4%	94.9%	86.6%	96.2%	98.8%	95.5%	96.4%	97.6%	97.0%

● 「建築学部」は「AA:建築学科」だけなので、比較はしていない。

■建築学部 学科別比較レーダーチャート

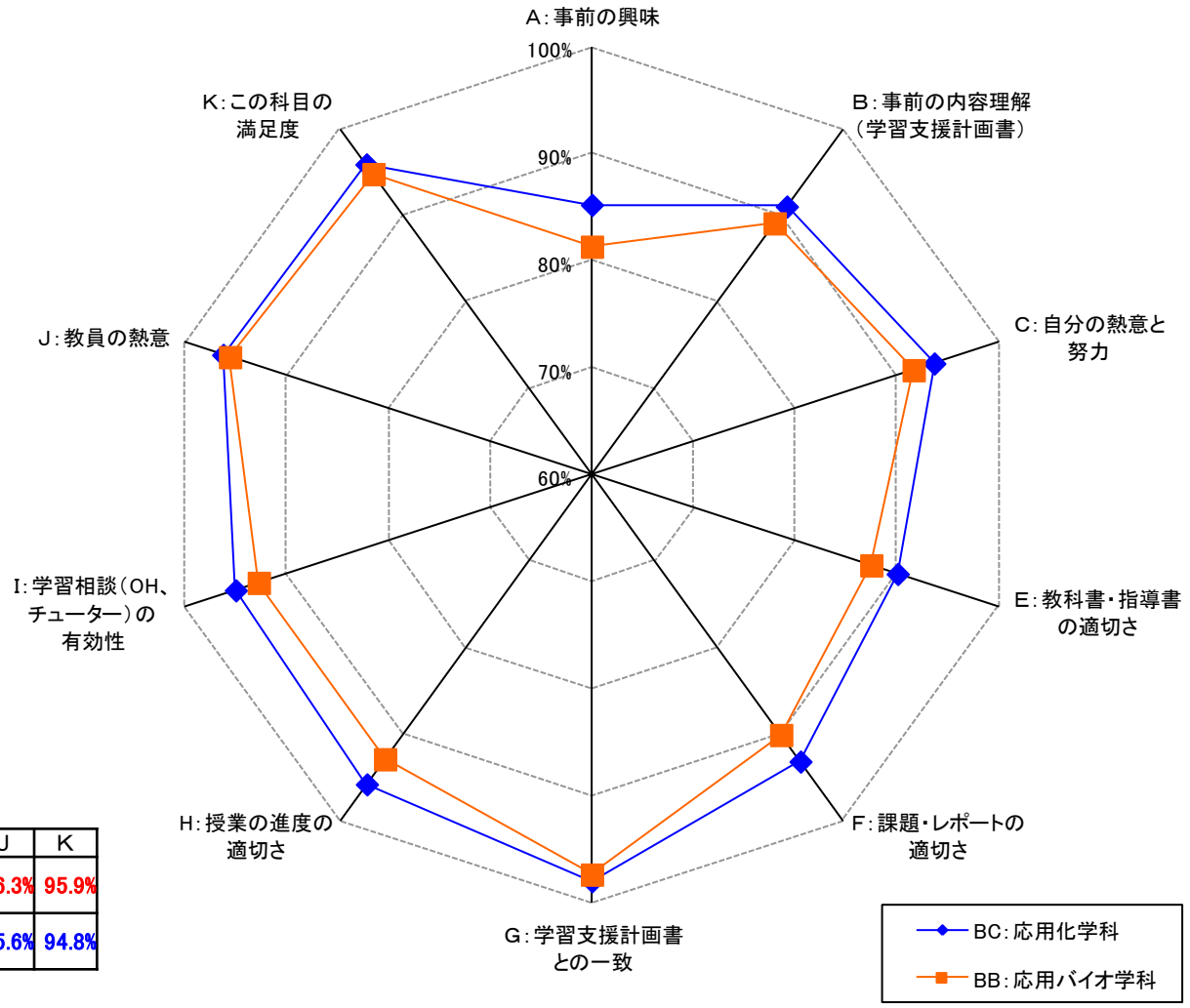


■建築学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
AA:建築学科	87.3%	93.0%	94.3%	91.5%	94.6%	98.3%	96.0%	96.7%	96.8%	96.3%

● 「バイオ・化学部」は2学科の比較になるが、すべての項目で「BC：応用化学科」の評価が高く、「BB：応用バイオ学科」の評価が低かった。そして、全体的に一定の差がついていた。

■バイオ・化学部 学科別比較レーダーチャート



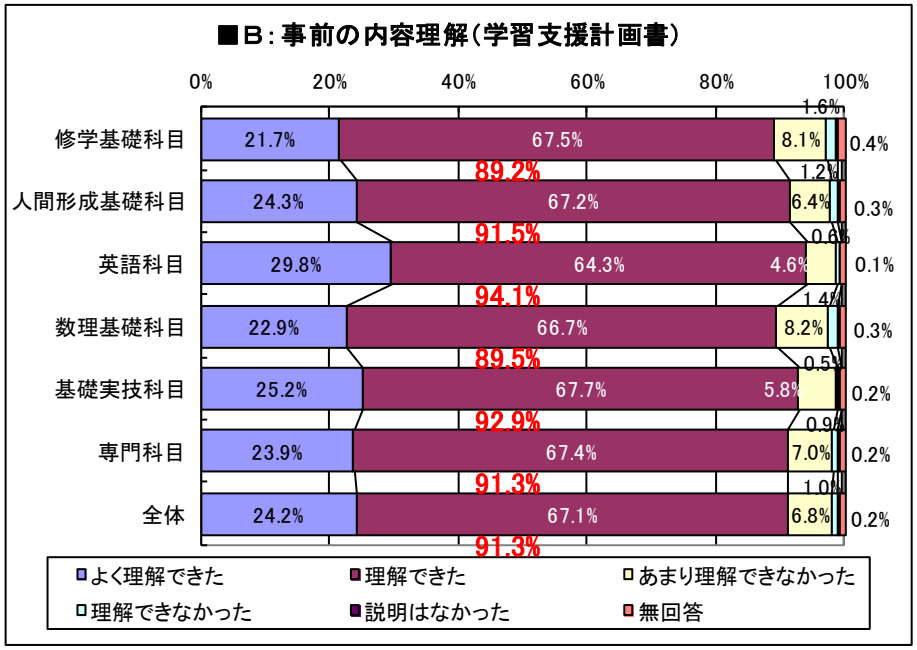
■バイオ・化学部 学科別比較

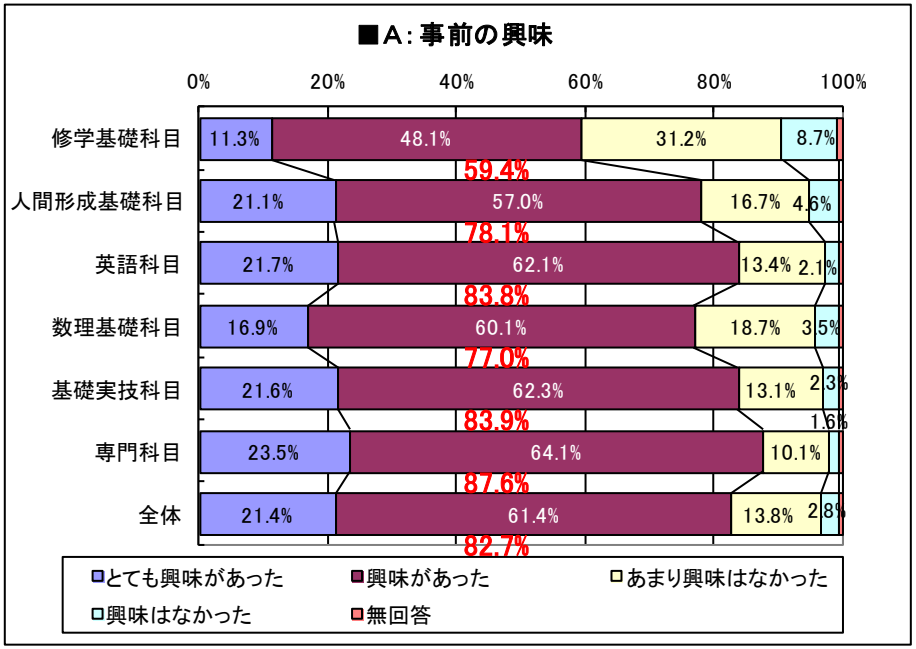
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
BC：応用化学科	85.2%	91.0%	93.7%	90.1%	93.2%	98.0%	95.8%	95.0%	96.3%	95.9%
BB：応用バイオ学科	81.3%	89.1%	91.6%	87.5%	90.1%	97.4%	92.9%	92.8%	95.6%	94.8%

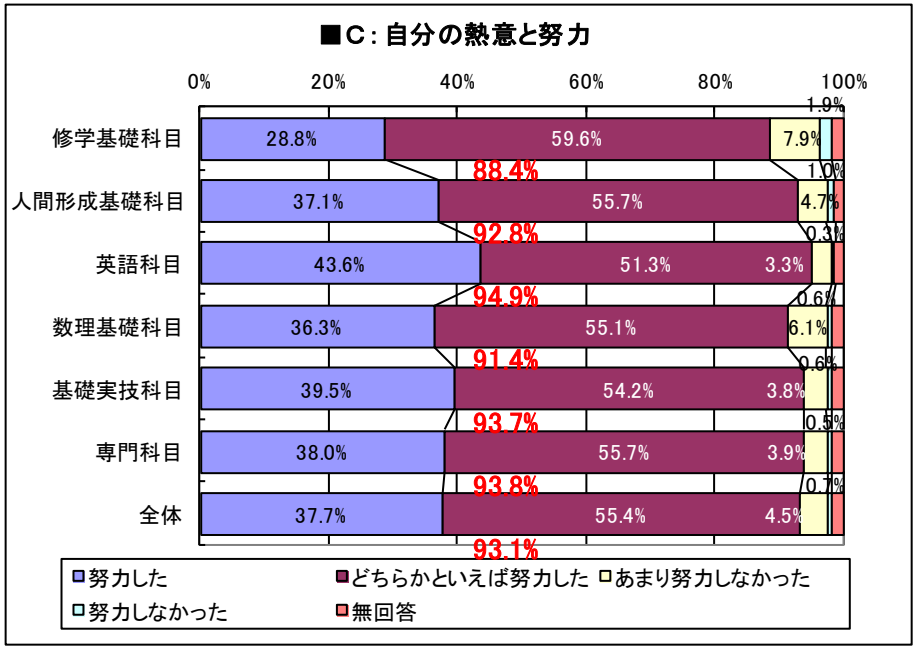
＜5＞科目区分別の分析

＜5-1＞科目区分別の比較

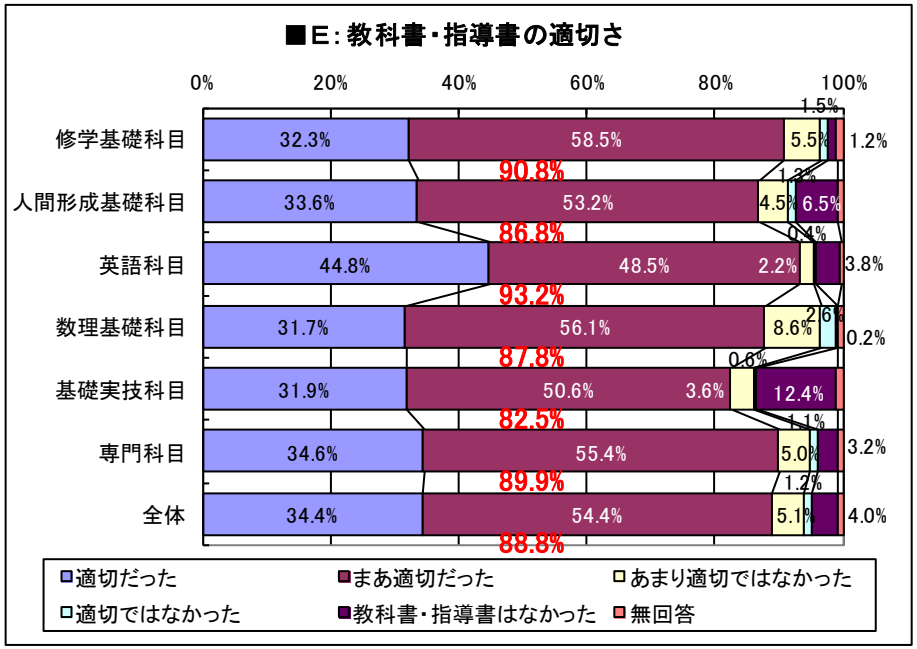
- 授業を6つの科目区分で分けて、その評価を比較した。
- 「A：事前の興味」を肯定的な意見の合計で比較したところ、「専門科目」が87.6％で最も多かった。次いで、「基礎実技科目」が83.9％、「英語科目」が83.8％と続いていた。一方、最も少なかったのは「修学基礎科目」の59.4％で、他と比べると低さが目立っており、この科目に興味が持てていない様子がうかがえた。
- 「B：事前の内容理解（学習支援計画書）」ではほとんどの科目区分で肯定的な意見が9割以上を占めていたが、最も多かったのは「英語科目」の94.1％であり、特に「よく理解できた」が29.8％と多かった。一方、最も少なかったのは「修学基礎科目」の89.2％であったが、ほぼ9割は肯定的な意見であり、決して低い評価ではなかった。
- 「C：自分の熱意と努力」でもほとんどの科目区分で肯定的な意見が9割以上を占めていた。最も多かったのは「英語科目」の94.9％であり、「努力した」が43.6％と半数近くを占めていた。一方、最も少なかったのは「修学基礎科目」の88.4％であったが、これも決して低い評価ではなく、熱意と努力を持って取り組んでいる様子がうかがえた。

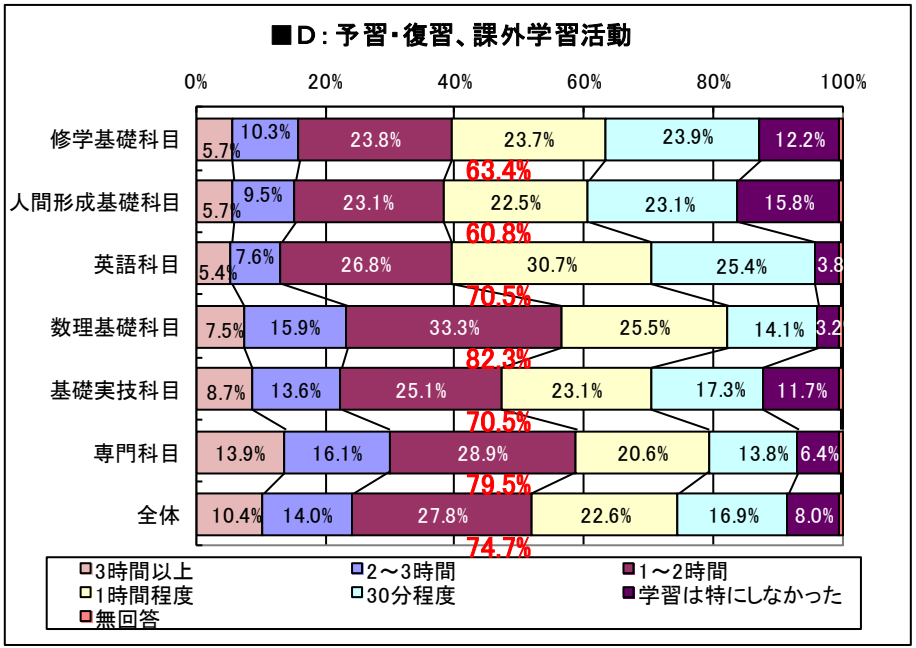


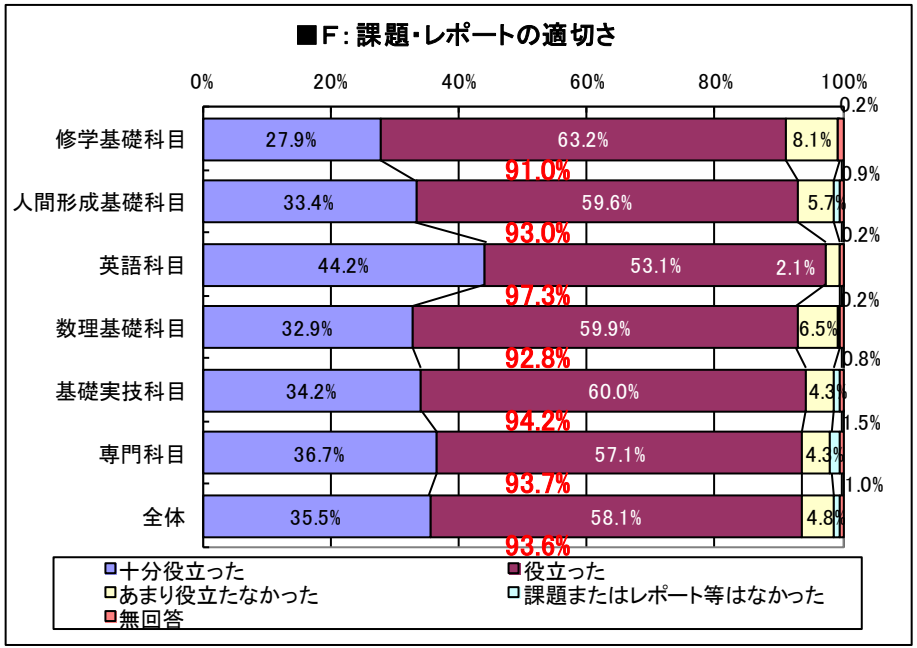




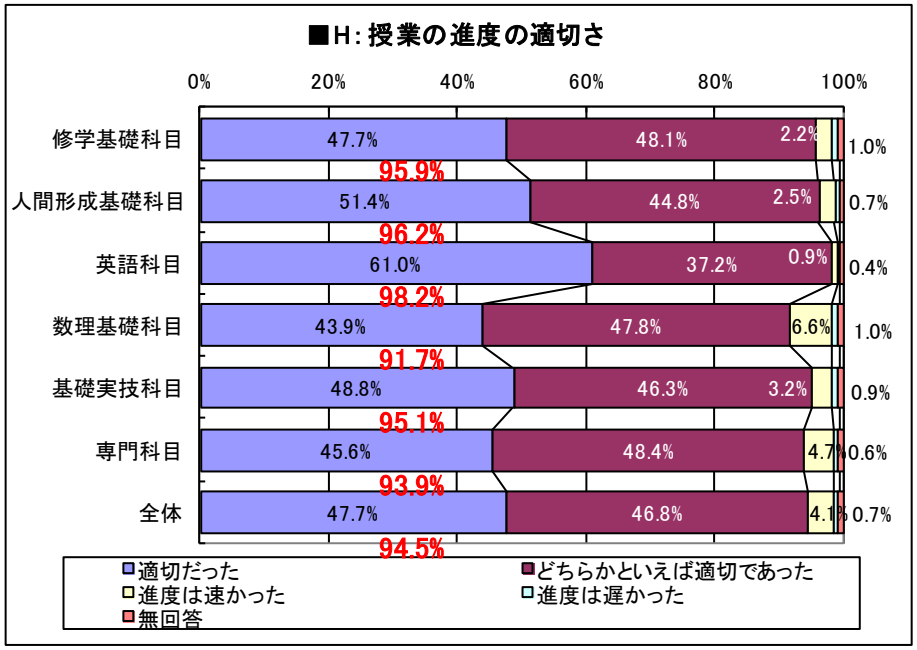
- 「D：予習・復習、課外学習活動」の「1時間程度」までの合計を比較したところ、「数理基礎科目」が82.3%、「専門科目」が79.5%、「英語科目」と「基礎実技科目」が70.5%と多く、特に「専門科目」では「3時間以上」が多いなど、学習時間をしっかり確保している様子がうかがえた。
- 「E：教科書・指導書の適切さ」で肯定的意見の合計が最も多かったのは「英語科目」の93.2%であり、特に「適切だった」が44.8%と非常に多い点が特徴的であった。一方、最も少なかったのは「基礎実技科目」の82.5%であり、「英語科目」との差は10.7ポイントであった。
- 「F：課題・レポートの適切さ」はすべての科目区分で肯定的な意見が9割を超えており、非常に高い評価であった。中でも最も高かったのは「英語科目」の97.3%であり、特に「十分役立った」が44.2%と多い点が特徴的であった。一方、最も少なかったのは「修学基礎科目」の91.0%であるが、これも決して低い評価ではなく、「英語科目」との差は6.3ポイントであった。

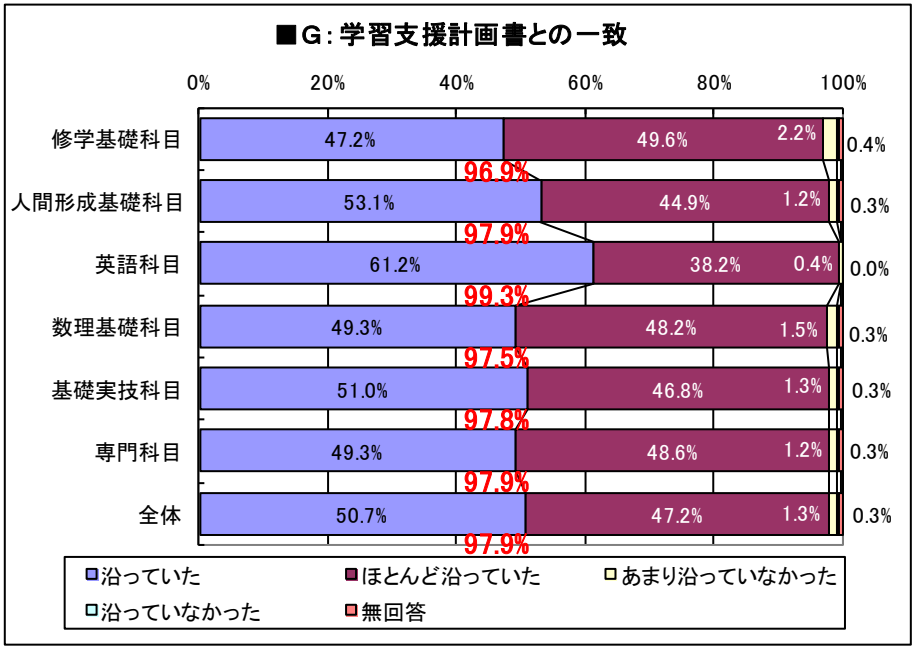


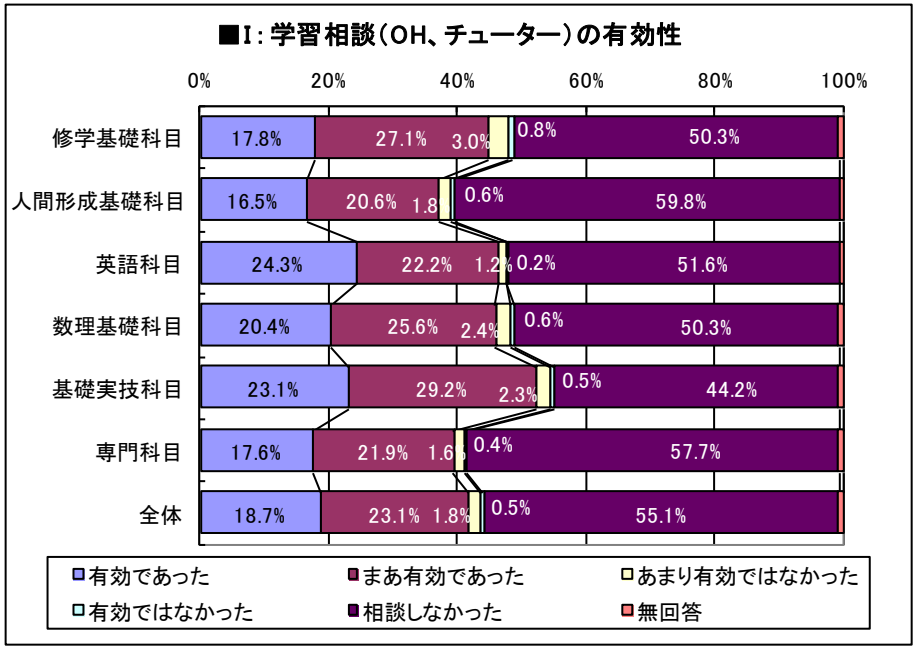




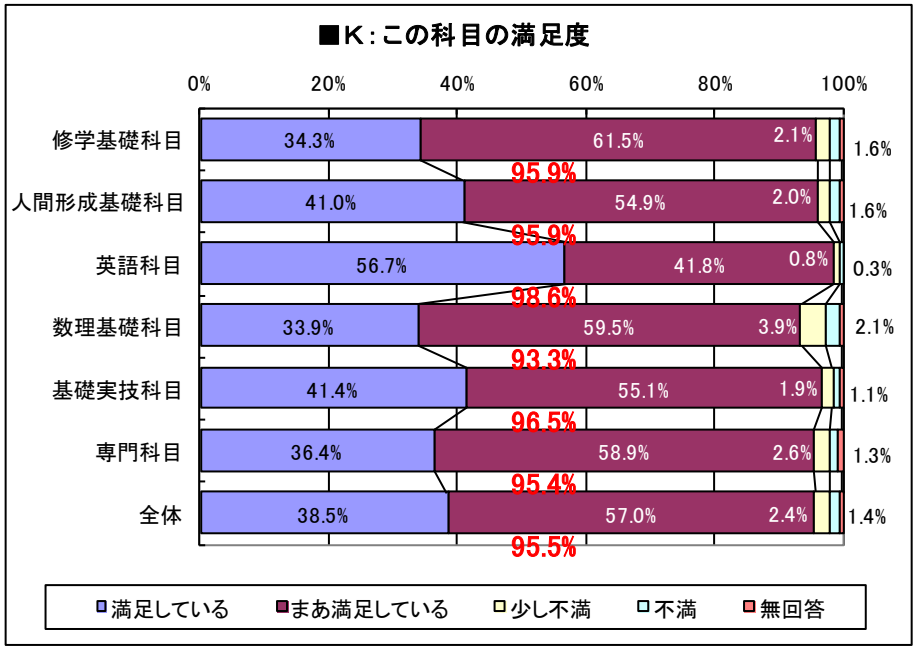
- 「G:学習支援計画書との一致」では、すべての科目区分で肯定的な意見が95%以上であり、非常に高い評価となっていた。最も評価が高かったのは「英語科目」の99.3%であり、ほとんど全員が肯定的な評価をしており、「沿っていた」が61.2%と半数を超えていた。最も少なかったのは「修学基礎科目」であるが、肯定的な意見は96.9%であり、高い評価となっていた。
- 「H:授業の進度の適切さ」も全体的に評価は高く、最も高い「英語科目」は「適切だった」が61.0%であり、肯定的な意見は98.2%と高い評価であった。次いで、「人間形成基礎科目」が96.2%、「修学基礎科目」が95.9%と続いており、最も低い「数理基礎科目」は91.7%であった。
- 「I:学習相談の有効性」の「相談しなかった」を見ると、最も少なかったのは「基礎実技科目」の44.2%であり、学習相談をよく利用しているようであった。一方、「人間形成基礎科目」(59.8%)と「専門科目」(57.7%)の2つの科目区分では学習相談を利用しない学生の多さが目立っていた。そして、利用者の内容評価を見ると、否定的な意見はわずかであり、評価は非常に高かった。

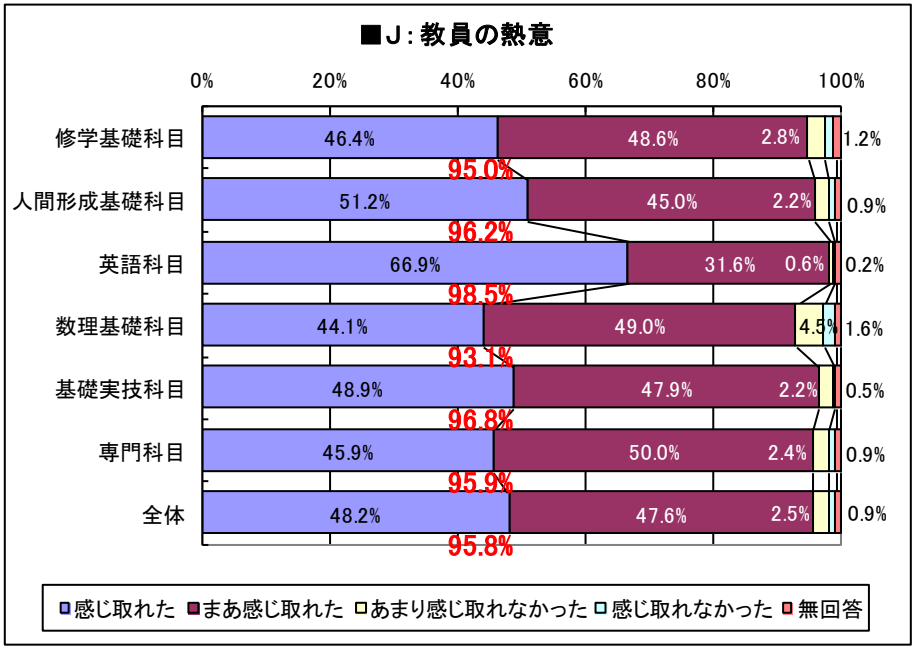






- 「J:教員の熱意」もすべての科目区分で9割以上が肯定的な意見であり、教員の熱意はよく伝わっていると言える。中でも最も多かったのは「英語科目」の98.5%であり、「感じ取れた」が66.9%と突出している点が特徴的であった。そして、「基礎実技科目」が96.8%、「人間形成基礎科目」が96.2%と続いていた。一方、最も少なかったのは「数理基礎科目」の93.1%であったが、これも評価としては非常に高いと言える。
- 「K:この科目の満足度」もすべての科目区分で9割以上が肯定的な意見であり、満足度は非常に高いと言える。中でも最も満足度が高かったのは「英語科目」の98.6%であり、「満足している」が56.7%と半数を超えていた。次いで、「基礎実技科目」が96.5%、「修学基礎科目」と「人間形成基礎科目」がいずれも95.9%と高い満足度となっていた。一方、最も肯定的な意見が少なかったのは「数理基礎科目」の93.3%であったが、これも満足度としては非常に高いと言える。

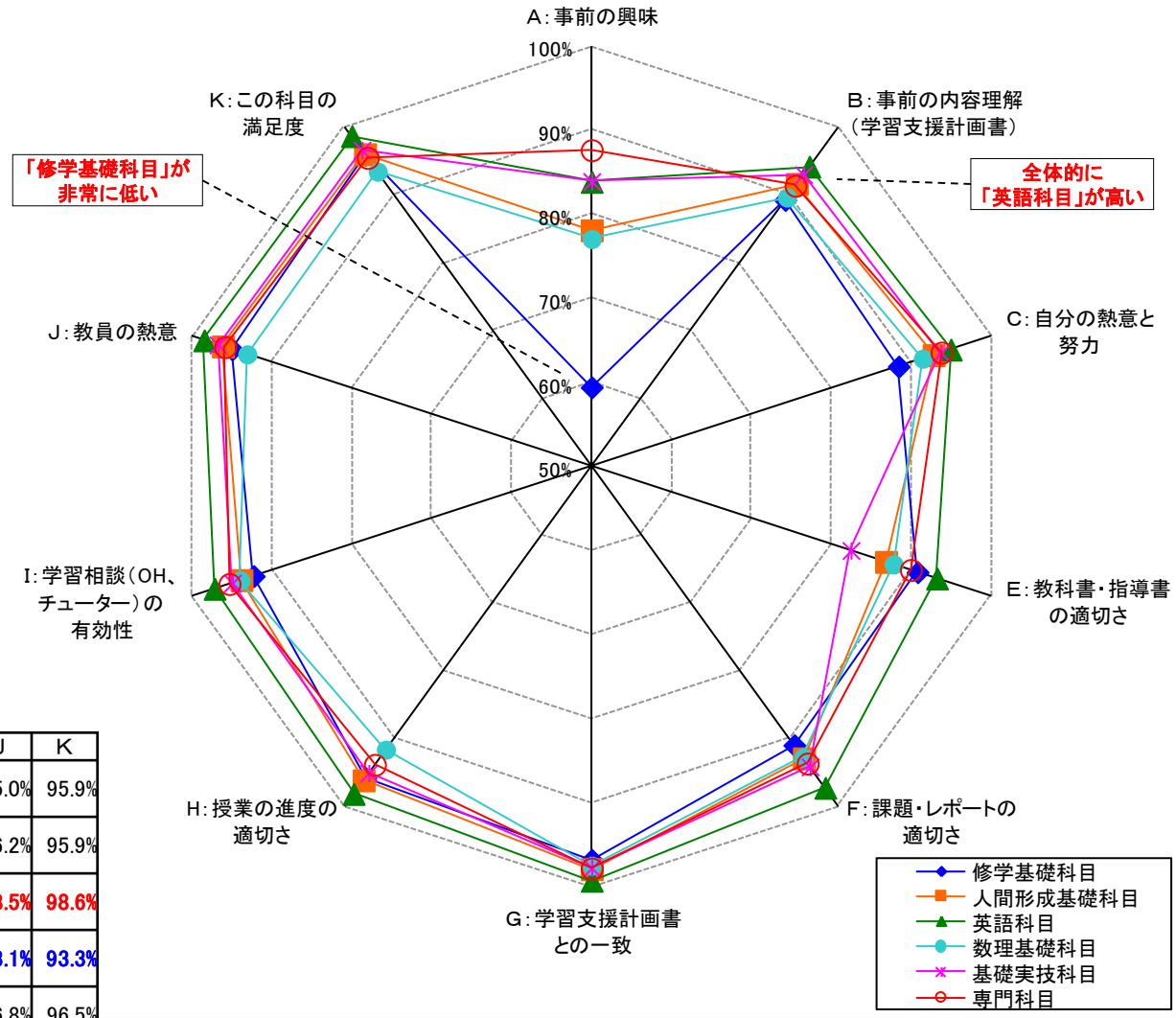




＜5-2＞肯定的な意見の科目区分別比較

- 肯定的な意見の割合を、科目区分別にレーダーチャートで比較した。
- 全体を見て目に付いたのは「A:事前の興味」での「修学基礎科目」の低さであった。他の項目では目立って高かったり、低かったりという科目区分は見られなかった。
- 全体的に肯定的な意見が多かったのは「英語科目」であり、10項目中の9項目で最も高くなっており、唯一、「A:事前の興味」で「専門科目」と「基礎実技科目」を下回っていた。
- 一方、肯定的な意見が少なかったのは「修学基礎科目」であり、先に見た「A:事前の興味」を含めて6項目で最も低くなっていた。そして、「数理基礎科目」が3項目で、「基礎実技科目」が1項目で最も低い評価であった。ただし、いずれも差はわずかであり、目立って低いというものではなかった。

■科目区分別比較レーダーチャート



■科目の評価比較

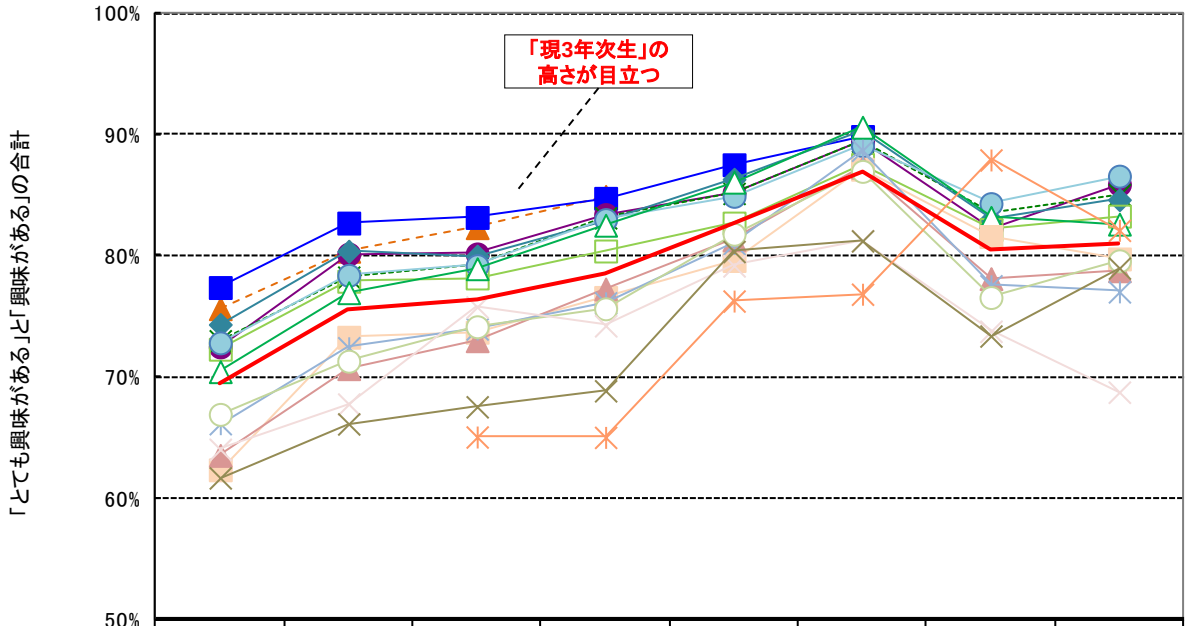
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
修学基礎科目	59.4%	89.2%	88.4%	90.8%	91.0%	96.9%	95.9%	92.3%	95.0%	95.9%
人間形成基礎科目	78.1%	91.5%	92.8%	86.8%	93.0%	97.9%	96.2%	93.8%	96.2%	95.9%
英語科目	83.8%	94.1%	94.9%	93.2%	97.3%	99.3%	98.2%	97.2%	98.5%	98.6%
数理基礎科目	77.0%	89.5%	91.4%	87.8%	92.8%	97.5%	91.7%	94.0%	93.1%	93.3%
基礎実技科目	83.9%	92.9%	93.7%	82.5%	94.2%	97.8%	95.1%	95.0%	96.8%	96.5%
専門科目	87.6%	91.3%	93.8%	89.9%	93.7%	97.9%	93.9%	95.3%	95.9%	95.4%

＜6＞同一学生群の分析

＜6-1＞同一学生群の変化に関する分析

- 同一学生群が学年が上がるにつれてどのような意識変化をしているのかを確認した。
- 学期は「H21卒業生」の段階で3学期制から2学期制となったため、「H21卒業生」以前の学生群は「秋学期」を「後期」として集計し、「冬学期」のデータは除外している。
- 「A:事前の興味」の「全体平均」の変化を見ると、肯定的な意見は「1年次-前期」から「3年次-後期」にかけて増加しており、授業に対する興味が徐々に増す傾向が表れていた。その後、「4年次-前期」にかけて低下し、「4年次-後期」まで横這いとなって卒業に至っている。
- 過去の学生群を見ると「H25卒業生」までは肯定的な意見が少なめであり、1年次から2年次にかけての低学年のうちはほとんど「全体平均」を下回っていたが、「H26卒業生」以降は肯定的な意見が多い学生群が多く、ここ数年は授業に対する興味が強まっていると言える。ただし、例外はあるもののほとんどの学生群において「3年次-後期」に授業に対する興味がピークとなっており、年による差が非常に少なかった。
- 全学生群の中で特に高さが目立っていたのは「現3年次生」であり、「1年次-前期」から「3年次-前期」にかけては過去最高であり、今後、「4年次」での変化が気になる学生群と言える。

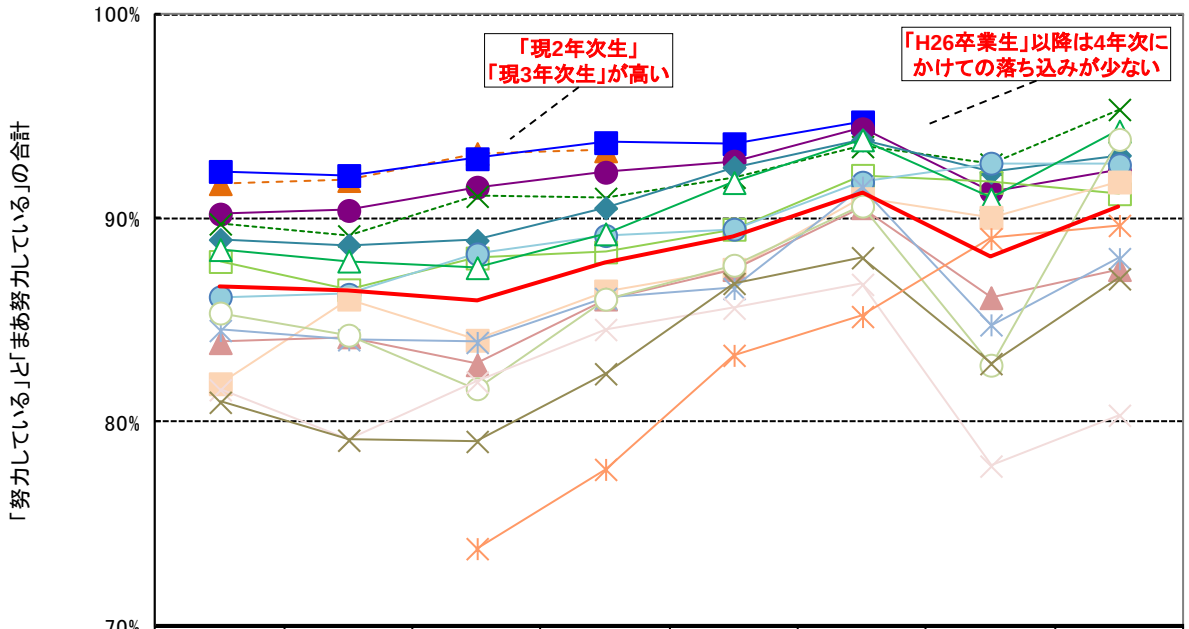
■学年毎・学期毎の「A:事前の興味」の変化　同一学生群の変化



	1年次-前期	後期	2年次-前期	後期	3年次-前期	後期	4年次-前期	後期
現2年次生	75.6%	80.4%	82.3%	84.9%				
現3年次生	77.4%	82.7%	83.2%	84.7%	87.5%	89.9%		
現4年次生	72.5%	80.1%	80.2%	83.4%	85.2%	89.4%	82.2%	85.9%
H30卒業生	73.0%	78.2%	79.2%	83.1%	85.2%	89.5%	83.5%	85.0%
H29卒業生	74.3%	80.4%	80.0%	83.0%	86.3%	90.2%	83.0%	84.6%
H28卒業生	72.3%	77.9%	78.2%	80.4%	82.7%	87.5%	82.2%	83.3%
H27卒業生	72.8%	78.4%	79.2%	83.0%	84.9%	89.1%	84.3%	86.6%
H26卒業生	70.4%	77.0%	78.9%	82.5%	86.1%	90.6%	83.2%	82.6%
H25卒業生	62.3%	73.3%	73.7%	76.6%	79.6%	87.1%	81.6%	79.7%
H24卒業生	63.5%	70.7%	73.0%	77.3%	81.3%	87.3%	78.1%	78.8%
H23卒業生	66.2%	72.4%	74.0%	76.1%	81.0%	88.7%	77.5%	77.0%
H22卒業生	66.9%	71.3%	74.2%	75.6%	81.8%	87.0%	76.6%	79.6%
H21卒業生	64.0%	67.8%	75.8%	74.2%	79.2%	81.3%	73.8%	68.8%
H20卒業生	61.7%	66.1%	67.5%	68.9%	80.4%	81.2%	73.4%	79.0%
H19卒業生			65.1%	65.0%	76.3%	76.8%	87.9%	82.1%
全体平均	69.5%	75.5%	76.3%	78.6%	82.7%	86.8%	80.6%	81.0%

- 「C：自分の熱意と努力」の「全体平均」の変化を見ると、「1年次-前期」から「2年次-前期」にかけてほぼ横這いが続き、その後はゆるやかな増加傾向となり、「3年次-後期」で熱意と努力がピークに達していた。その後、「4年次-前期」にかけて低下し、「4年次-後期」に向けて再び上昇して卒業に至っていた。
- 「H19卒業生」「H20卒業生」「H21卒業生」のような例外はあるものの、全体的に変化の幅は小さく、ほとんどの学生群で肯定的な意見は常に85%以上であり、大きな落ち込みは見られなかった。
- 学生群別の特徴を見ると、前項の「A：事前の興味」と同様に、「H26卒業生」の前後で傾向が変わっており、最近の学生は学年による変化が少なく、常に一定以上の熱意と努力を保っているようであった。ただし、「4年次-前期」での落ち込みはわずかに見られ、この点は以前の学生と同じと言える。
- 高さが目立っていたのは「現2年次生」「現3年次生」であり、この2つの学生群が過去最高となる年が多かった。そして、卒業直前の「4年次-後期」の熱意と努力は、卒業したばかりの「H30卒業生」が過去最高となっていた。

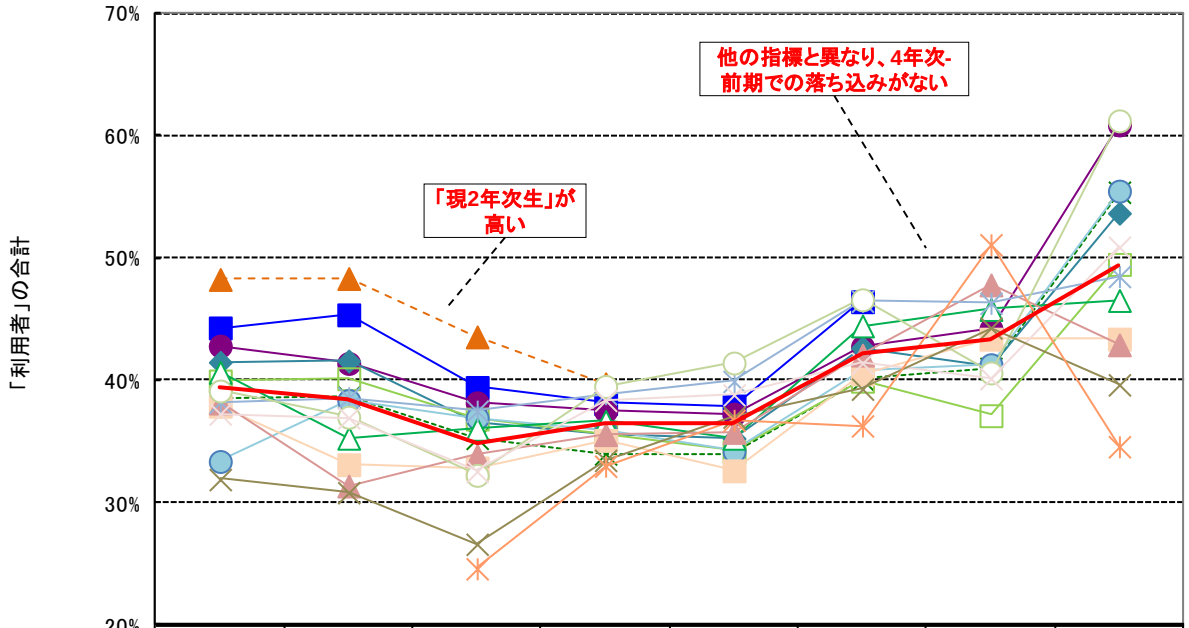
■学年毎・学期毎の「C：自分の熱意と努力」の変化 同一学生群の変化



	1年次-前期	後期	2年次-前期	後期	3年次-前期	後期	4年次-前期	後期
現2年次生	91.7%	91.9%	93.2%	93.3%				
現3年次生	92.3%	92.1%	92.9%	93.7%	93.7%	94.7%		
現4年次生	90.2%	90.4%	91.5%	92.3%	92.8%	94.4%	91.3%	92.3%
H30卒業生	89.7%	89.1%	91.1%	91.0%	92.0%	93.5%	92.7%	95.3%
H29卒業生	89.0%	88.7%	88.9%	90.5%	92.5%	93.8%	92.3%	93.1%
H28卒業生	87.9%	86.5%	88.1%	88.4%	89.5%	92.1%	91.8%	91.2%
H27卒業生	86.2%	86.3%	88.3%	89.2%	89.5%	91.8%	92.7%	92.6%
H26卒業生	88.5%	87.9%	87.6%	89.3%	91.8%	93.9%	91.0%	94.3%
H25卒業生	81.9%	86.1%	84.0%	86.5%	87.5%	91.0%	90.1%	91.8%
H24卒業生	83.9%	84.2%	82.8%	86.1%	87.5%	90.5%	86.1%	87.5%
H23卒業生	84.5%	84.1%	83.9%	86.1%	86.6%	91.5%	84.8%	88.0%
H22卒業生	85.4%	84.3%	81.7%	86.0%	87.7%	90.6%	82.8%	93.9%
H21卒業生	81.6%	79.1%	82.0%	84.6%	85.6%	86.8%	77.9%	80.4%
H20卒業生	81.0%	79.1%	79.1%	82.4%	86.8%	88.1%	82.9%	87.0%
H19卒業生			73.8%	77.7%	83.3%	85.2%	89.0%	89.7%
全体平均	86.7%	86.4%	85.9%	87.8%	89.1%	91.3%	88.1%	90.6%

- 「I:学習相談の有効性」は内容の評価ではなく、「学習相談利用者割合」の変化を見ている。
- 「全体平均」の変化を見ると、利用者の割合は「1年次-前期」から「2年次-前期」にかけてわずかに減少し、その後は「4年次-後期」にかけてゆるやかに増加して卒業に至っており、他の指標のような「4年次-前期」での落ち込みが見られなかった。
- 学生群の特徴を見ると、他の指標よりも学生群によるバラツキが少なく、「H26卒業生」の前後での差も少なかった。ただし、「現2年次生」「現3年次生」「現4年次生」という直近の学生群は、低学年時の学習相談の利用率が高いという特徴が見られた。

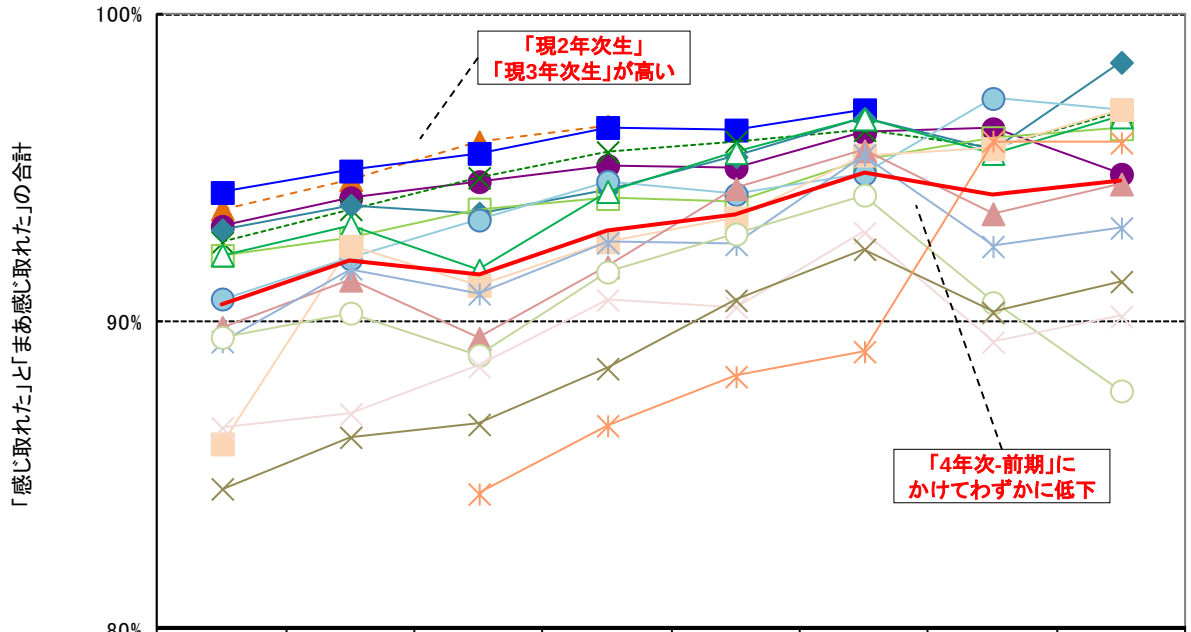
■学年毎・学期毎の「I:学習相談の有効性」による
「学習相談利用者割合」の変化 同一学生群の変化



	1年次-前期	後期	2年次-前期	後期	3年次-前期	後期	4年次-前期	後期
現2年次生	48.3%	48.3%	43.6%	39.7%				
現3年次生	44.3%	45.4%	39.4%	38.1%	37.9%	46.4%		
現4年次生	42.8%	41.4%	38.2%	37.5%	37.3%	42.8%	44.2%	60.9%
H30卒業生	38.5%	38.7%	35.3%	34.0%	34.0%	40.1%	41.0%	55.4%
H29卒業生	41.5%	41.6%	36.6%	35.5%	35.3%	42.7%	41.2%	53.7%
H28卒業生	40.0%	40.1%	36.9%	35.6%	34.2%	39.9%	37.1%	49.5%
H27卒業生	33.4%	38.4%	37.0%	35.8%	34.2%	40.8%	41.3%	55.5%
H26卒業生	40.7%	35.3%	36.0%	36.7%	35.3%	44.5%	45.8%	46.5%
H25卒業生	37.9%	33.1%	32.9%	35.1%	32.6%	40.5%	43.4%	43.4%
H24卒業生	38.2%	31.4%	33.9%	35.6%	35.8%	42.1%	47.8%	42.9%
H23卒業生	38.2%	38.6%	37.5%	38.9%	39.9%	46.5%	46.3%	48.5%
H22卒業生	39.1%	37.0%	32.3%	39.5%	41.4%	46.6%	40.6%	61.2%
H21卒業生	37.3%	37.0%	32.6%	38.4%	38.8%	41.4%	40.2%	50.9%
H20卒業生	31.9%	30.8%	26.6%	33.5%	37.0%	39.3%	44.3%	39.7%
H19卒業生			24.6%	33.0%	36.8%	36.3%	51.1%	34.6%
全体平均	39.4%	38.4%	34.9%	36.5%	36.5%	42.1%	43.4%	49.4%

- 「J:教員の熱意」の「全体平均」の変化を見ると、「2年次-前期」と「4年次-前期」にわずかに低下するものの、長期的には緩やかな向上が続いており、高学年になるほど教員の熱意を感じるようになっていると言える。ただし、4年間を通して9割以上が肯定的な意見であり、どの学年においても教員の熱意は伝わっているようであった。
- 学生群の特徴を見ると、他の指標と同様に「H26卒業生」あたりを境として肯定的な意見が多く、変化が少なくなるようになってきていると言える。そして、「現2年生」「現3年生」「現4年生」「H30卒業生」などの直近の学生群は「2年次-前期」でわずかな低下も見られず、継続的に肯定的な意見が多い状態が続いていた。
- 「H29卒業生」も教員の熱意を強く感じたままで卒業に至っており、「4年次-後期」の98.4%は全体を通して過去最高であった。

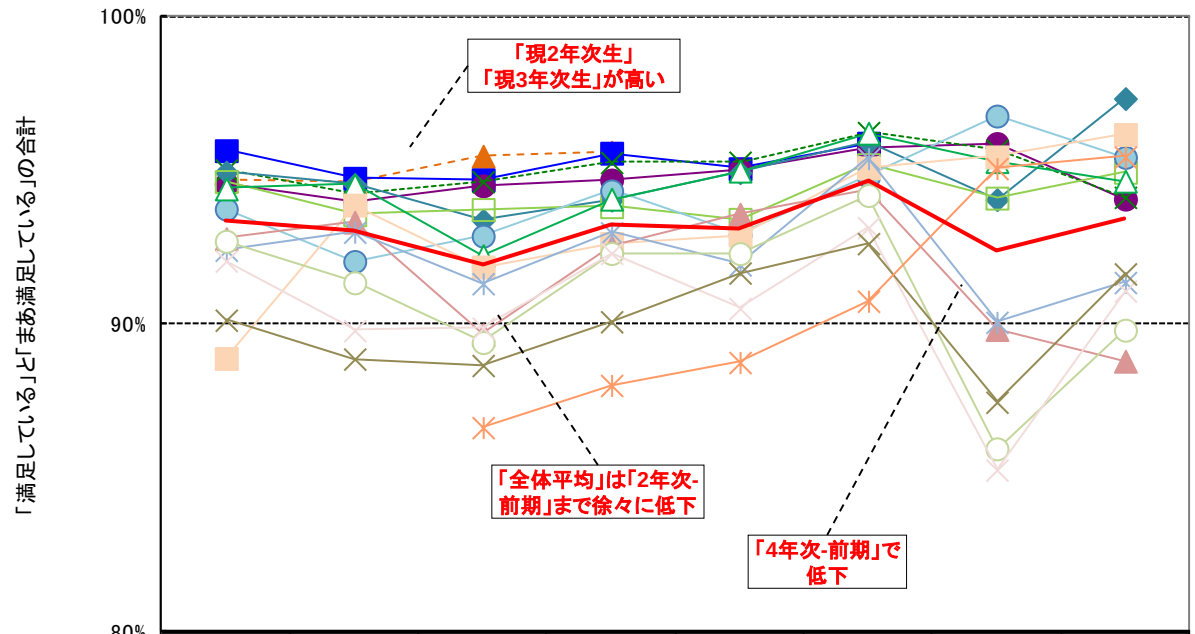
■学年毎・学期毎の「J:教員の熱意」の変化 同一学生群の変化



	1年次-前期	後期	2年次-前期	後期	3年次-前期	後期	4年次-前期	後期
現2年次生	93.7%	94.6%	95.9%	96.4%				
現3年次生	94.2%	94.9%	95.5%	96.3%	96.2%	96.9%		
現4年次生	93.1%	94.0%	94.6%	95.1%	95.0%	96.1%	96.3%	94.8%
H30卒業生	92.6%	93.7%	94.7%	95.5%	95.9%	96.2%	95.7%	96.8%
H29卒業生	93.0%	93.8%	93.5%	94.3%	95.4%	96.6%	95.6%	98.4%
H28卒業生	92.2%	92.7%	93.7%	94.0%	93.9%	95.3%	96.0%	96.3%
H27卒業生	90.7%	92.1%	93.3%	94.6%	94.1%	94.8%	97.3%	96.9%
H26卒業生	92.2%	93.1%	91.7%	94.2%	95.5%	96.6%	95.5%	96.7%
H25卒業生	86.0%	92.5%	91.2%	92.6%	93.4%	95.4%	95.6%	96.9%
H24卒業生	89.8%	91.4%	89.5%	91.8%	94.3%	95.6%	93.5%	94.5%
H23卒業生	89.4%	91.7%	90.9%	92.6%	92.5%	95.4%	92.5%	93.1%
H22卒業生	89.5%	90.3%	88.9%	91.6%	92.9%	94.1%	90.6%	87.8%
H21卒業生	86.6%	87.0%	88.5%	90.7%	90.5%	92.9%	89.3%	90.2%
H20卒業生	84.6%	86.2%	86.7%	88.5%	90.7%	92.4%	90.3%	91.3%
H19卒業生			84.4%	86.6%	88.2%	89.0%	95.9%	95.8%
全体平均	90.5%	92.0%	91.5%	93.0%	93.5%	94.8%	94.2%	94.6%

- 「K:この科目の満足度」の「全体平均」の変化も、他の主要な指標と同様に「2年次-前期」と「4年次-前期」で低下しているが、変化の幅は非常に小さく、在学中は継続的に9割以上が授業に満足していると答えており、「1年次-前期」(93.3%)と「4年次-後期」(93.4%)の満足度はほぼ同じであった。
- 学生群の傾向を見ると、他の指標と同様に「H26卒業生」以降の学生群は満足度が高い傾向が見られた。そして、「2年次-前期」と「4年次-前期」での落ち込みがない学生群も増えており、4年間を通して95%前後の満足度を維持して卒業に至っているケースも見られるようになってきている。
- 特に「現3年次生」は「1年次-前期」の満足度が過去最高であり、その高さを維持したまま3年間を過ごしていた。また、「現2年次生」は「2年次-前期」で落ち込むことなく過去最高の満足度となっており、今後が気になる学生群と言える。そして、「H29卒業生」は「4年次-前期」で落ち込んだものの、「4年次-後期」では97.3%と、過去最高の満足度で卒業に至っていた。

■学年毎・学期毎の「K:この科目の満足度」の変化 同一学生群の変化



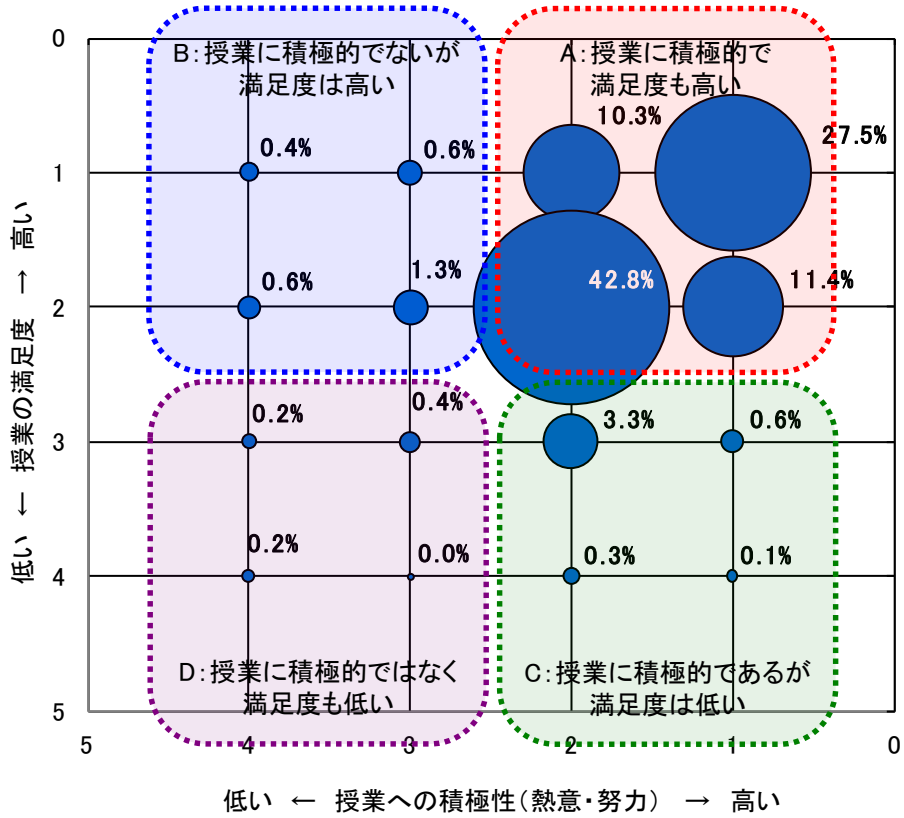
	1年次-前期	後期	2年次-前期	後期	3年次-前期	後期	4年次-前期	後期
現2年次生	94.7%	94.6%	95.5%	95.6%				
現3年次生	95.6%	94.7%	94.7%	95.6%	95.0%	95.9%		
現4年次生	94.6%	94.0%	94.5%	94.7%	95.0%	95.7%	95.9%	94.1%
H30卒業生	95.0%	94.2%	94.6%	95.3%	95.3%	96.2%	95.7%	94.1%
H29卒業生	94.9%	94.5%	93.4%	94.0%	94.9%	95.9%	94.0%	97.3%
H28卒業生	94.6%	93.6%	93.7%	93.8%	93.4%	95.2%	94.1%	94.9%
H27卒業生	93.7%	92.0%	92.9%	94.3%	92.9%	94.8%	96.8%	95.4%
H26卒業生	94.4%	94.5%	92.2%	94.1%	95.0%	96.2%	95.3%	94.6%
H25卒業生	88.9%	93.9%	91.9%	92.6%	92.9%	95.1%	95.4%	96.2%
H24卒業生	92.8%	93.3%	89.7%	92.5%	93.6%	94.4%	89.8%	88.8%
H23卒業生	92.4%	93.0%	91.3%	93.0%	91.9%	95.4%	90.1%	91.3%
H22卒業生	92.7%	91.3%	89.4%	92.3%	92.3%	94.2%	85.9%	89.8%
H21卒業生	92.0%	89.8%	89.9%	92.3%	90.5%	93.1%	85.2%	91.1%
H20卒業生	90.1%	88.9%	88.6%	90.1%	91.7%	92.6%	87.5%	91.6%
H19卒業生			86.6%	88.0%	88.7%	90.7%	95.1%	95.4%
全体平均	93.3%	93.0%	91.9%	93.2%	93.1%	94.7%	92.4%	93.4%

＜7＞授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析

＜7-1＞授業への取り組み姿勢と授業の満足度との関係

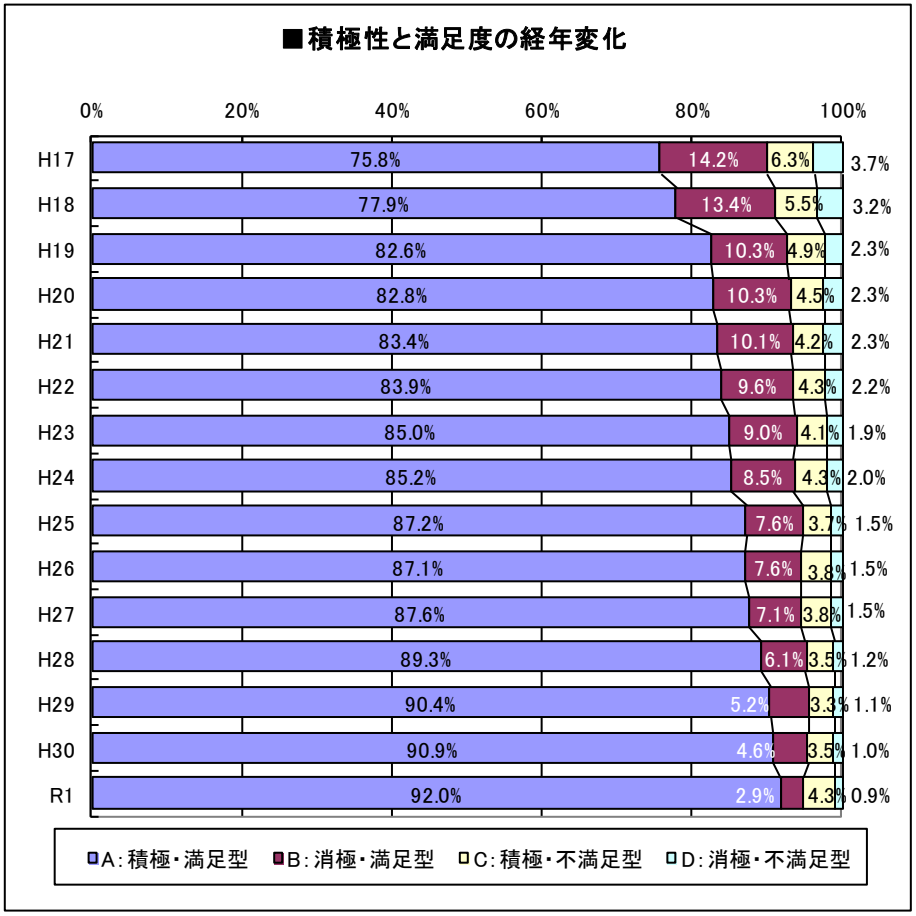
- 「C:自分の熱意と努力」(積極性)と「K:この科目の満足度」の2つの指標を掛け合わせ、4つのグループに分けて比較を行った。
- 「A:授業に積極的で満足度も高い」グループは92.0%と大多数を占めており、ほとんどの学生は良い状態で授業を受けていると言える。特に「満足度」「積極性」が共に「高い」学生が27.5%であり、全体の1/4を占めていた。
- 「B:授業に積極的でないが満足度は高い」グループは2.9%であった。これは授業には消極的なのに満足度は高いという学生群であり、教員の指導に引っ張られている学生ではないかと思われる。
- 「C:授業に積極的であるが満足度は低い」グループは4.3%であった。これは授業に積極的に取り組んでいるにもかかわらず、満足度が低いという学生群であり、積極性が失われないようにしっかりとフォローしていく必要があると思われる。
- 「D:授業に積極的ではなく満足度も低い」グループは0.9%とわずかであった。これらの学生は非常に少ないものの、しっかりとフォローしていく必要がある学生群と言える。

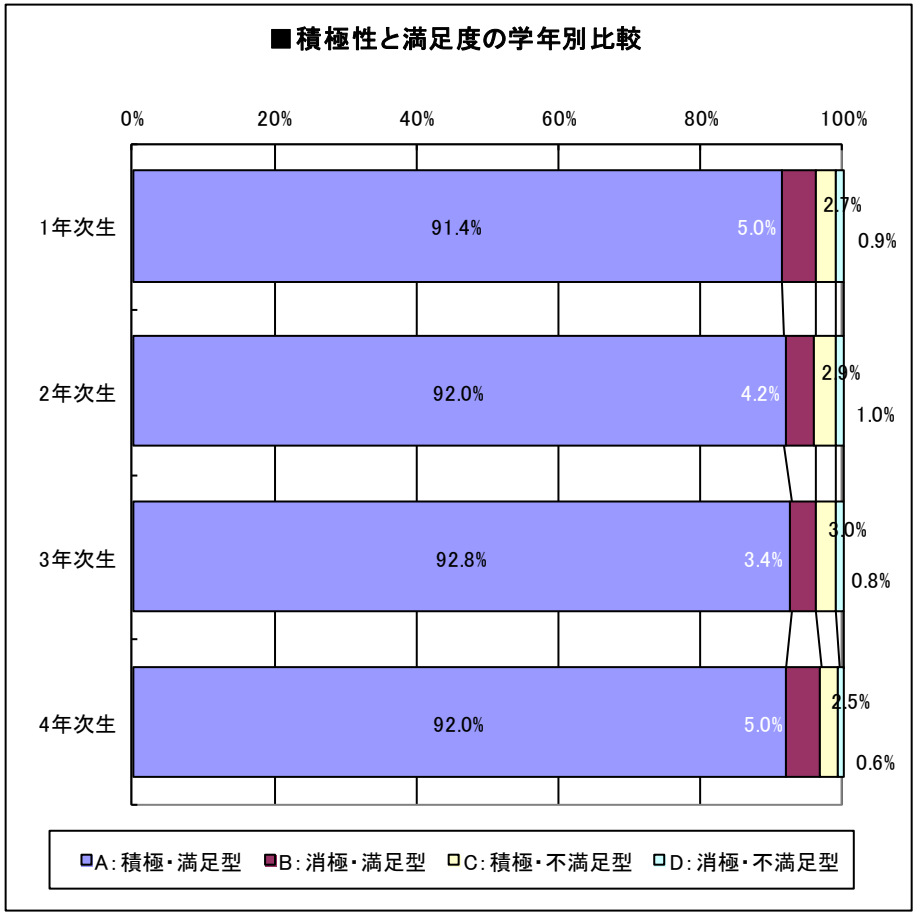
■授業への取り組み姿勢と授業の満足度との関係



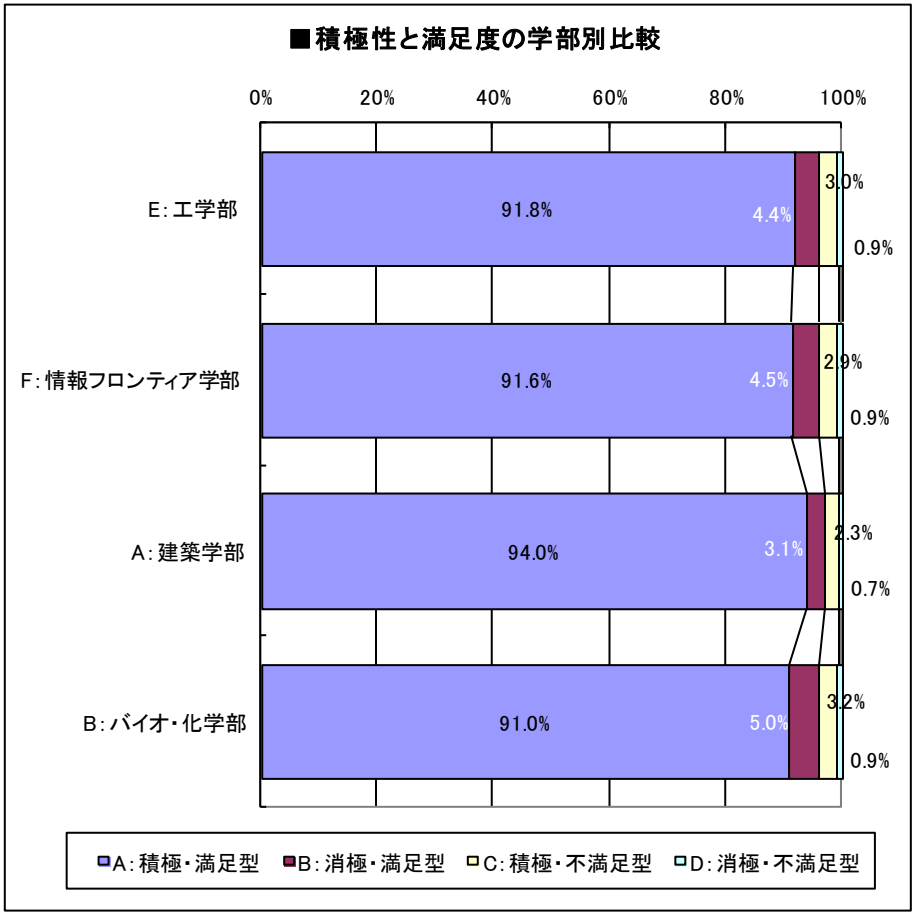
領域	割合	取り組み姿勢	略号
A	92.0%	・授業に積極的で満足度も高い。 ・良い状態にある学生群であり、このグループが増えることが望ましい。	積極・満足型
B	2.9%	・授業に積極的でないが満足度は高い。 ・教員の指導によって引っぱられているものと思われる。 ・積極性を持ってもらいたいが、無理強いをする必要まではないと思われる。	消極・満足型
C	4.3%	・授業に積極的であるが満足度は低い。 ・頑張っているのに満足が得られないグループであり、注意が必要。 ・「期待はずれ」「ついていけない」といった理由が考えられる。	積極・不満足型
D	0.9%	・授業に積極的ではなく満足度も低い。 ・最も大きな課題であり、学生自身の自主性もないものと思われる。	消極・不満足型

- 前項で分類した4グループの経年変化を見たところ、「A:積極・満足型」は前回を1.1ポイント上回って過去最高となった。例外はあるものの、調査開始から増加傾向が続いている。
- 「B:消極・満足型」は前回から1.7ポイントの減少、「C:積極・不満足型」は0.8ポイントの増加、「D:消極・不満足型」は0.1ポイントの減少となっていた。
- 「A:積極・満足型」グループの割合を学年別に比較したところ、「3年次生」が92.8%で最も多く、次いで、「2年次生」と「4年次生」が92.0%、「1年次生」が91.4%であり、差は最大で1.4ポイントと小さかった。他の3グループも学年による差はほとんど見られなかった。

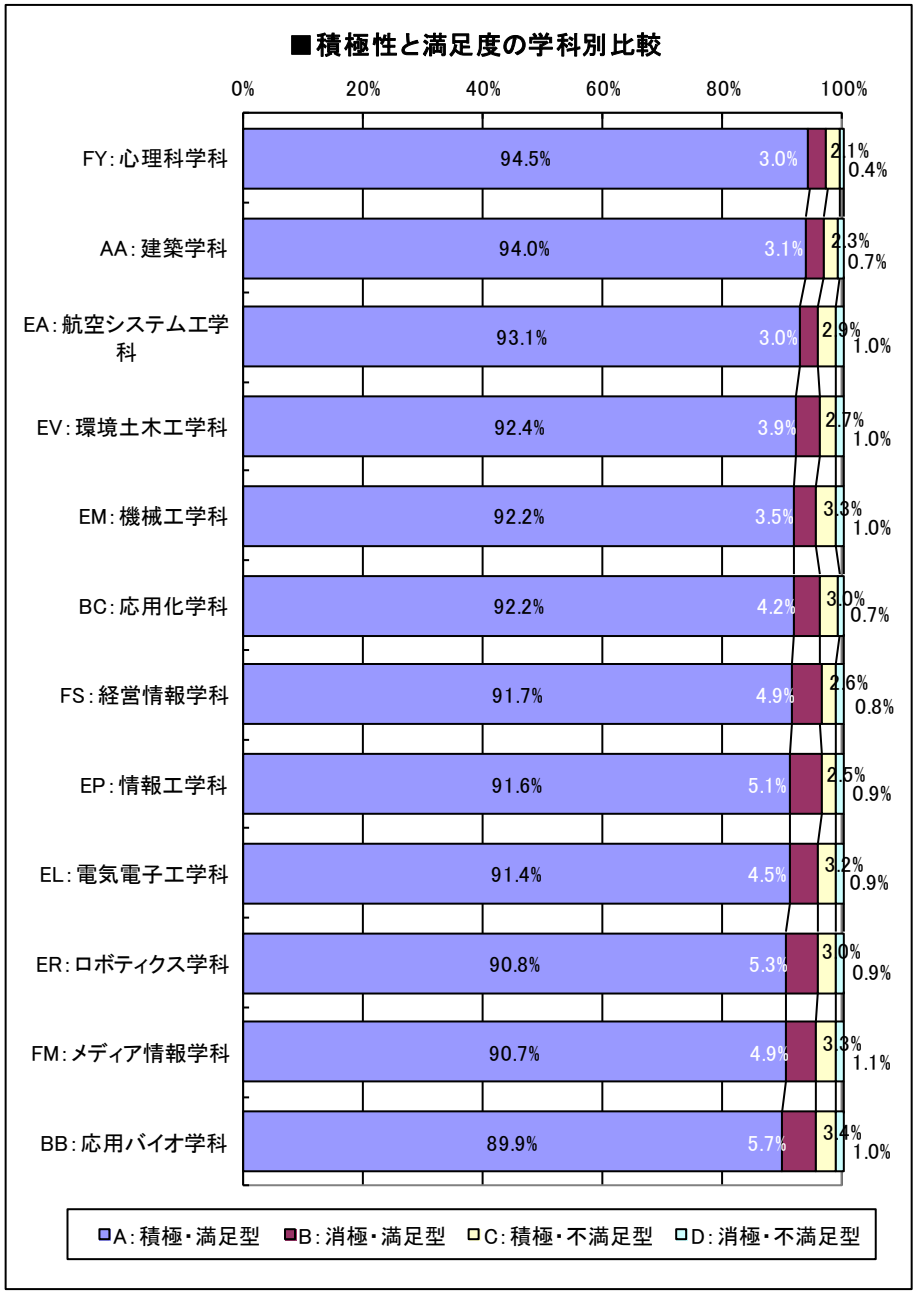




- 「A:積極・満足型」グループの割合を学部別に比較したところ、「A:建築学部」が94.0%で最も多く、「E:工学部」が91.8%、「F:情報フロンティア学部」が91.6%、「B:バイオ・化学部」が91.0%であり、差は最大で3.0ポイントであった。
- 他の3グループも学部による差はわずかであり、大きな特徴は見られなかった。



- 学科別の比較は、「A:積極・満足型」の割合でソートしている。
- 最も多かったのは「FY:心理科学科」の94.5%であり、次いで、「AA:建築学科」が94.0%、「EA:航空システム工学科」が93.1%、「EV:環境土木工学科」が92.4%、「EM:機械工学科」と「BC:応用化学科」が92.2%で続いていた。
- 一方、「A:積極・満足型」が最も少なかったのは、「BB:応用バイオ学科」の89.9%で「FY:心理科学科」との差は4.6ポイントであった。この数値も決して低いものではなく、良い状態で授業を受けているものと思われる。次いで、「FM:メディア情報学科」が90.7%、「ER:ロボティクス学科」が90.8%で続いていた。



＜8＞全体のまとめ

＜8-1＞全体の分析で分かったこと

今回の集計、分析から分かったことは下記の通り。

【全体傾向で確認できた事】

受講前の「興味」「事前の内容理解」から始まり、「教科書・指導書」「授業の進度」などの授業内容、「自分の熱意と努力」「教員の熱意」など、いずれも非常に高く、95.6%が授業に満足と答えていた。

- ◆ 受講前の「事前の興味」は83.3%、「事前の内容理解」は91.5%が肯定的な意見であり、大きな期待を持って授業に望んでいた。
- ◆ 授業の内容としては、「教科書・指導書の適切さ」では88.7%、「課題・レポートの適切さ」では93.6%、「学習支援計画書との一致」では97.9%、「授業の進度の適切さ」では94.6%、「学習相談の有効性」では95.0%が肯定的な意見であり、内容の評価は非常に高かった。
- ◆ 重要な指標である「自分の熱意と努力」では93.2%、最終的な評価である「満足度」では95.6%が肯定的な意見であった。また、95.9%が「教員の熱意」を感じたと答えており、いずれも非常に高い評価であった。

【学年別比較で確認できた事】

学年による差は小さかったが、「事前の興味」は「3年次生」が高く、「1年次生」が低かった。「1年次生」は「教科書・指導書の適切さ」「学習相談の有効性」もやや低く、「学習時間」は「3年次生」が長かった。

- ◆ 全体的に学年による差は大きくなかったが、「事前の興味」で「1年次生」の低さと「3年次生」の高さが目立っていた。また、「教科書・指導書の適切さ」「学習相談の有効性」で学年間の差がやや大きく、ともに「1年次生」が最も低かった。
- ◆ 全体的に肯定的な意見が多いという学年は見られなかったが、「1年次生」は上記の3項目も含めて7項目で最も低かった。
- ◆ 「学習時間」は「3年次生」が最も長く、「3年次生」までは高学年ほど長くなる傾向が見られた。

【経年変化で確認できた事】

すべての項目が過去最高の評価となり、特に「学習相談の有効性」「事前の内容理解」「教科書・指導書の適切さ」の評価の向上が大きかった。そして、「学習時間」も過去最長となった。

- ◆ 今回はすべての項目が過去最高の評価となっていた。
- ◆ 前回からの向上が大きかったものから順に見ると、「学習相談の有効性」が1.6ポイント、「事前の内容理解」が1.3ポイント、「教科書・指導書の適切さ」が0.9ポイントとなっていた。
- ◆ 「学習時間」も長くなる傾向が続いており、今回は「学習は特にしなかった」と「30分程度」の割合が過去最低となっていた。
- ◆ 最も重要な指標である「満足度」は0.7ポイント向上しており、「自分の熱意と努力」は0.4ポイント、「教員の熱意」は0.7ポイント向上して、いずれもわずかずつではあるが過去最高となっていた。

【学部別・学科別比較で確認できた事】

学部による差は小さいが、全項目で「建築学部」が最も高く、特に「事前の興味」と「教科書・指導書の適切さ」の高さが目立っていた。

- ◆ 全体的に学部による差はそれほど大きくなかったが、全項目で「建築学部」の肯定的な意見が最も多く、特に「事前の興味」と「教科書・指導書の適切さ」の高さが目立っていた。
- ◆ 「工学部」の中では、差は小さいものの「航空システム工学科」が10項目中の5項目で最も高く、「環境土木工学科」が2項目で、「機械工学科」「ロボティクス学科」「情報工学科」が各々1項目で最も高かった。
- ◆ 「情報フロンティア学部」では全項目で「心理科学科」の評価が最も高く、「メディア情報学科」は10項目中の7項目で最も低い評価となっていた。
- ◆ 「バイオ・化学部」では、全項目で「応用化学科」の評価の方が高かった。

【科目区分別比較で確認できた事】

「事前の興味」は科目区分によって差が見られ、「修学基礎科目」の低さが目立っていた。差は少ないが、全体的に高かったのは「英語科目」であり、低かったのは「修学基礎科目」であった。

- ◆「事前の興味」は「修学基礎科目」の低さが突出しており、科目区分によって興味が異なることが分かった。
- ◆ 差はわずかではあるが、「英語科目」は10項目中の9項目で最も高くなっていた。唯一、「A：事前の興味」で「専門科目」と「基礎実技科目」を下回っていた。
- ◆ 肯定的な意見が少なかったのは「修学基礎科目」であり、6項目で最も低くなっていた。そして、「数理基礎科目」が3項目で、「基礎実技科目」が1項目で最も低い評価であった。ただし、いずれも差はわずかであり、目立って低いというものではなかった。

【同一学生群で確認できた事】

「H26卒業生」を境目として学生群の授業の充実度が増している様子がうかがえる。また、「4年次-前期」での「熱意と努力」と「満足度」の低下がなくなるなど、学生の特性も変わっているようであった。

- ◆ 同一学生群の変化を見ると、主要な項目の肯定的な意見は「H26卒業生」あたりを境目として増えている傾向が見られる。特に直近の「現2年次生」「現3年次生」では「事前の興味」「熱意と努力」「教員の熱意」「満足度」が非常に高くなっており、充実している様子がうかがえた。
- ◆「事前の興味」「熱意と努力」「満足度」の「全体平均」を見ると、入学からほぼ右肩上がりで変化し、「4年次−前期」でわずかに低下し、「4年次−後期」に上昇して卒業に至る様子が見られたが、最近の学生群では4年間を通して高いままという学生群が見られるようになってきた。
- ◆「教員の熱意」と「満足度」はほとんどの学生群で4年間を通して9割以上が肯定的な意見となっており、非常に充実しているようであった。

【積極性と満足度の指標から確認できた事】

「積極・満足型」は増加傾向が続いており、今回は過去最高の92.0%であった。「積極・満足型」は学年では「3年次生」で多く、学部では「建築学部」が多いが、差はそれほど大きくなかった。

- ◆「積極・満足型」は継続的に増加傾向が続いて過去最高の92.0%となり、「消極・不満足型」は過去最低の0.9%となった。
- ◆ 学年別に「積極・満足型」を比較すると、「1年次生」は91.4%、「2年次生」は92.0%、「3年次生」は92.8%、「4年次生」は92.0%であり、差は最大で1.4ポイントと小さかった。
- ◆ 学部別に「積極・満足型」を比較すると、「建築学部」が94.0%で最も多く、最も少ないのは「バイオ・化学部」の91.0%であった。学科別で最も多かったのは「心理科学科」の94.5%で、最も少なかったのは「応用バイオ学科」の89.9%であったが、これも決して低い数値ではなかった。

＜8-2＞全体のサマリー

ここまでの分析から分かったことをまとめると下記のようになる。

- 受講前の「興味」「事前の内容理解」から始まり、「教科書・指導書」「授業の進度」などの授業内容、「自分の熱意と努力」「教員の熱意」など、いずれも非常に高く、95.6%が授業に満足と答えていた。
- すべての項目が過去最高の評価となり、特に「学習相談の有効性」「事前の内容理解」「教科書・指導書の適切さ」の評価の向上が大きかった。そして、「学習時間」も過去最長となった。
- 学年による差は小さかったが、「事前の興味」は「3年次生」が高く、「1年次生」が低かった。「1年次生」は「教科書・指導書の適切さ」「学習相談の有効性」もやや低く、「学習時間」は「3年次生」が長かった。
- 学部による差は小さいが、全項目で「建築学部」が最も高く、特に「事前の興味」と「教科書・指導書の適切さ」の高さが目立っていた。
- 「事前の興味」は科目区分によって差が見られ、「修学基礎科目」の低さが目立っていた。差は少ないが、全体的に高かったのは「英語科目」であり、低かったのは「修学基礎科目」であった。
- 「H26卒業生」を境目として学生群の授業の充実度が増している様子がうかがえる。また、「4年次-前期」での「熱意と努力」と「満足度」の低下がなくなるなど、学生の特性も変わっているようであった。
- 「積極・満足型」は増加傾向が続いており、今回は過去最高の92.0%であった。「積極・満足型」は学年では「3年次生」で多く、学部では「建築学部」が多いが、差はそれほど大きくなかった。

- **満足度は過去最高の95.6%であり、ほとんどの学生が授業に満足していると答えていた。また、他の指標もすべて過去最高の評価で、勉強時間も過去最長となるなど、数値を見る限り大きな課題を見つけることはできない。**
- **「修学基礎科目」の「事前の興味」が低いなど、科目区分によって取り組み姿勢に差が見られた。最も充実していたのは「英語科目」であり、課題がありそうなのは「修学基礎科目」であった。**
- **「H26卒業生」以降の学生群は充実度が増して「中だるみ」がなくなるなど、学生の特性が変化しているようであった。**
- **「学生の満足度の継続的な向上」や「学生の特性の変化」は非常に良い傾向であるが、今後は「学生のニーズの高度化に授業内容がついて行けているか？」「学生が物足りなさを感じていないか？」といった視点で見ることも重要になると思われる。**